



ウッドマーク森林認証 公開レポート

森林管理者／所有者	山梨県
森林名	山梨県県有林
地域及び国	日本、本州
審査に用いられた規準:	日本適合ウッドマーク一般規準&チェックリスト V2.0(2010年10月改訂)
認証番号	SA-FM/COC-001842
認証発行日	2008年3月12日
認証有効期限	2013年3月11日

	審査日	レポート 完成日	ウッドマーク審査員	レポート確認	レポート承認
更新審査	2007年 10月22-26日	2008年 3月12日	富村周平 白石則彦 小川直也	エミリー・ブラック ウェル、ミラン・レ シュカ	ニコラス・アン ダーヘイ
第1回年次監査	2008年 9月2-4日	2008年 11月21日	富村周平 小川直也	ジョン・ロジャ ース	ニコラス・アン ダーヘイ
第2回年次監査	2009年 9月7日-9日	2010年 3月19日	白石則彦 小川直也	山野下仁文	ニコラス・アン ダーヘイ
第3回年次監査	2010年 9月8日-10日	2011年 2月22日	岩岡正博 小川直也	山野下仁文、 ジョン・ロジャ ース	ニコラス・アン ダーヘイ
第4回年次監査	2011年 11月15日-17日	2012年 2月28日	富村修平 汐見崇史	ミラン・レシュカ	ニコラス・アン ダーヘイ

本レポートの主要部分は請求に応じて公開されます。

Woodmark • South Plaza • Marlborough St • Bristol • BS1 3NX • United Kingdom
Telephone (+44) (0) 117 914 2435 • Fax (+44) (0) 117 314 5001
Email wm@soilassociation.org ● www.soilassociation.org/forestry

Soil Association Certification Ltd • Company Registration No. 726903
A wholly-owned subsidiary of the Soil Association Charity No. 20686

1 概要および基本情報

1.1 認証機関

ソイルアソシエーション ウッドマーク

1.1.1 認証登録番号

SA-FM/COC-001842

1.2 森林管理者／所有者の情報

1.2.1 会社名

山梨県

1.2.2 連絡担当者

山梨県森林環境部県有林課 吉原 穂裕美 氏

1.2.3 住所

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

1.2.4 国名

日本

1.2.5 電話

055-223-1654

1.2.6 ファックス

055-223-1679

1.2.7 電子メール

kenyurin@pref.yamanashi.lg.jp

1.2.8 ウェブページアドレス

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kenyuurin/index.html>

1.2.9 正式な代表者による申請情報

林務長 深沢侑企彦氏

1.3 認証の範囲

1.3.1 認証の種類

単独

1.3.2 認証範囲の森林名

山梨県県有林

1.3.3 森林管理体の数

1

1.3.4 国名

日本

1.3.5 地域

山梨県全域

1.3.6 緯度

北緯35度09分54秒～35度58分07秒

1.3.7 経度

東経138度11分00秒～139度08分16秒

1.3.8 半球

北半球

1.3.9 森林ゾーンまたは生物群系

暖温帯(200m)～寒帯(3,400m)

1.3.10

FSC認定管理区分	面積 (ha)	FSC認定管理料 (US\$/ha)
小規模および管理の軽度な森林		0.0001
自然林の保全	106,000	0.0001
コミュニティーフォレストリー(地域林業)		0.001
熱帯林		0.002
寒帯林		0.003
温帯林		0.004
植林地(上記以外、インフラ等含む)	37,000	0.01

1.3.11 FSC認定管理料 (US\$)

\$390.60

(1.3.10による計算額に10ドルを足した額)

1.4 森林管理

1.4.1 事業体の区分

県

借地管理

該当しない

所有権

県

1.4.2 全面積(ha)

143,000 ha

1.4.3 森林の種類

人工林、二次林混交

1.4.4 森林構成

高標高域: 針葉樹優占

低標高域: 広葉樹優占

1.4.5 植林樹種の区分

固有種

- 1.4.6 主な樹種 付属文書3参照
- 1.4.7 年間可能伐採量(m³/年) 2010年度 371,236 m³
 実際の年間生産量(m³/年) 2009年度 53,663 m³
- 1.4.8 製品区分 立木、丸太
- 1.4.9 販売場所 立木現場または原木市場
- 1.4.10 従業員数(男性/女性それぞれの人数) 男性48人、女性14人(県有林課職員(常勤))
(2010年4月1日現在)
- 1.4.11 請負者/地域社会/他の労働者 56社 常勤466人(男性466人、女性51人)(2010
 年度実績)
 (男性/女性それぞれの人数) (登録:107社)
- 1.4.12 パイロットプロジェクト いいえ
- 1.4.13 SLIMF-小面積 いいえ
- 1.4.14 SLIMF-低頻度 いいえ

1.4.15

森林管理事業体の区分	事業体数	面積
100ha以下		
100 ha - 1000 ha		
1000 ha - 10,000 ha		
10,000ha以上	1	143,000 ha
合計	1	143,000 ha

- 1.4.16 所有または管理している森林のうち、認証の範囲に含まれていない森林の面積

森林名	面積	理由
山梨県県有林	15,246 ha	チェックリスト1.6.2参照

2.0 改善要求事項の一覧

番号	基準	不適合事項	等級	改善要求	期限	所見	状態	解除日
以前の認証の条件								
1/06	6.1	山梨県有林は原案を元にしたEIAを実施しているが、本部スタッフと現場スタッフとの間でEIAチェックリストの理解の仕方にギャップがあるようである。	軽微	山梨県有林は目的や機能、有用性の要点などについて原案とチェックリストを評価しなおすこと。もし不明瞭な点がみつければ、山梨県有林はその不足を満たすこと。さらに、EIA研修をすべてのスタッフに行うこと。	次回年次監査まで	2007年10月22日：環境影響評価要領を作成している。改善途中である。林道については、「山梨県環境影響評価条例」に基づき環境影響評価を行っている。	解除	
2/06	6.5	溪流緩衝地帯の戦略について、濁度や魚類の有無、温度などのいくつかの重要な指標が欠けている。管理基準は戦略の定義や保全河川沿いの緩衝地帯設定の基準といった観点から不明確であり、現場において管理基準が適切に運用されているかどうか、監査員としては評価することができない。	軽微	山梨県有林は漁業や水質に関する専門家から指導を得、さまざまな溪流の等級にあわせた水質、水産資源保護のための緩衝幅を設定する基準を作成すること。また、現場での新たな緩衝地帯への取り組みを実施し始めること。	次回年次監査まで	2007年10月22日：尾根、溪流、沢筋沿いには保護樹帯を片側概ね25m設け保護することとしている。特に優先すべき場所を指定し、図面とリストにしている。	解除	
3/06	5.6	山梨県有林は原則8に則って、適切なモニタリングプログラムを実施しているが、統計的手法を用いて成長量を推計し、近時の曲線を使用している。この方法には誤りの余地があり、おそらく経済的ではなく正確性が低いだろう。しかしながら、山梨県有林は間伐や主伐時に容易に得られる実測量の収集・利用をしていない。山梨県有林はまず、初回間伐量と伐採時の量を使って、現状の成長曲線を修正することができるだろう。	軽微	山梨県有林は現行の成長収穫モデルが正確か推測するために、間伐・主伐時に容易に取得できる実測量を効率的に使用したシステムを作成・実施すること。	次回年次監査まで	2007年10月22日：材積表は平成15年3月に更新済み、実際の調査データに基づいて作成されており、実用上の問題はない。	解除	
4/06	8.1	木材資源と同程度にしっかりと生物資源に関連するモニタリング手順や計画案を作成する必要がある。	軽微	コンディション10(生物資源について、経験に基づく情報を含めた目録システムを作成すること。例えば、野生生物密度や生息地タイプ、草本種、森林構成(立枯木、残木、樹種多様性)など。)と調整しながら、一貫性があり反復可能なモニタリング手順や計画案を作成すること。	次回年次監査まで	2007年10月22日：管理計画p47「各種モニタリング」各モニタリング手順が定められている。	解除	
2007更新審査								
条件 2007.1	6.6b	バインサイドS油剤D、ヤシマパークサイドF油剤にはFSCが使用を禁止しているフェニトロチオン(MEP)が含まれているため、直ちに使用を中止しなければならない。	軽微	今後認証林において、非常に有害な化学物質を使用しないことを約束した書面を提出すること。	認証発行前	2008年3月10日 山梨県は「県有林施業における農薬使用要領」を改訂し、使用可能な農薬リストから、バインサイドS油剤D、ヤシマパークサイドF油剤を削除した。有害な化学物質は今後使用しない。	解除 (2008年3月10日)	
条件 2007.2	6.6b	バインサイドS油剤D、ヤシマパークサイドF油剤にはFSCが使用を禁止しているフェニトロチオン(MEP)が含まれているため、直ちに使用を中止しなければならない。	軽微	バインサイドS油剤D、ヤシマパークサイドF油剤の使用を直ちに中止すること。	すぐに実施し、第1回年次監査で確認	第1回年次監査:2008年4月15日の県有林計画担当者会議において、改善要求内容の徹底を図った。 2008年5月に2007年の県有林施業における薬剤使用実績を確認した。昨年度まではヤシマパークサイドFを使用していたが、今年度は使用していない。	解除	
条件 2007.3	4.2	必要な安全装備については、入札の仕様書で明記するが、ILOのガイドラインには従っていない。県職員には作業衣と履物は支給している。救急箱は各作業班に備えられている。県の車両の一部には防災無線が備えられている。ILOのガイドラインに従った安全装備の使用が必要である。	軽微	ILOのガイドラインに従った安全装備の着用を請負業者に求め、使用状況の確認を行うこと。	すぐに実施し、第1回年次監査で確認	第1回年次監査:2007年12月3日に、請負業者(昨年実績で58社)に対し装着状況を確認してもらい、各林務環境事務所へ通知を行った。入札の際にチェックリスト等で請負業者に周知した。 2008年4月15日の第1回県有林計画担当者会議において、再度改善要求内容の徹底を図った。 2008年5月30日に、装着状況チェックシートを用い、モニタリングをすることを各林務環境事務所へ通知。各所で全部で20箇所を挙げ、毎年2月末までにまとめ報告することとした。 現地での請負業者に対するヒアリングでは、周知は開始されたばかりでまだ徹底されていないことが確認された。 請負業者による使用状況を確認しながら、作業種、現場に応じた安全装備となるよう検討し、安全装備の装着レベルを向上することが必要である。 昨年度は事故は起こっていない。	解除(条件 2008.1参照)	

<p>推奨事項 2007.4 (2007.4 aと 2007.4 bを統 合)</p>	<p>5.1, 5.4</p>	<p>間伐材の有効利用を計画に挙げているが、収穫が少ない。木材や副産物の販売を拡大し収穫量の増加とそれに伴う収入をより多く得ることが求められる。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>森林管理費用を少しでも多く収穫収入から得られるように、木材や副産物の生産量を増やすための施策と、販売を積極的に進め、より多くの収穫収入を得るための施策を検討して実行すること。</p>	<p>第1回年次監査:奥山の伐採量を増やすために作業道を建設する事業を提案中である。山梨県有林産物システム販売協定(H18～)、カラマツ間伐材流通促進対策、FSC材流通促進実施要領、FSC認証材販売要領等に基づき現在事業を展開し販売拡大を図っている。おとしから昨年にかけ、全体の販売数量が減少する中、システム販売やCOC取得業者への販売量は増えている。山菜などの副産物は保護責任のある地元へ払い下げられているが、他者に販売を拡大することは管理条例上難しい。引き続き販売拡大のための方策を検討することが求められる。以上のとおり、県産材促進のための様々な施策を導入中であるが、公有林という性格上市場売りなどを余儀なくされている。今後も制度の変更も視野に入れ、より一層の材や林産物の拡販を目指す必要がある。</p>	<p>解除 (2010年9 月10日)</p>	
					<p>第2回年次監査:効率的かつ安定的な収穫に利用できる、適切な作業道等を積極的に導入していくため、「県有林造林事業作業路・作業道基準」を新たに設けた。山梨県有林産物システム販売協定、FSC材流通促進実施要領、FSC認証材販売要領等は引き続き取り組んでいる。また雇用対策事業で未利用材の有効活用に取り組んでいる。今年度からは「県有林低コスト安定供給推進事業」を創設して間伐材の活用に取り組んでいる。COC事業者に対する指名競争入札で発注し、通常の施業ではコストに合わず林内に放置されている伐倒木を搬出し、COC取得製材所に搬入している。これらの取り組みがなされているが、厳しい市況・経済状況の中で十分な実績に結びついていない。副産物については、きのこ、土砂、ナナカマド等の販売があった。</p> <p>第3回年次監査:山梨県有林産物システム販売協定、FSC認証材販売要領等により収穫事業を行っている。また、昨年度事業化した「県有林低コスト安定供給推進事業」により、県内市場3拠点への安定的な出材に取り組むとともに、治山施設などへの需要が見込まれる小径木の出材を実施している。さらに、昨年度に引き続き、雇用対策事業を活用した「森林バイオマス活用(チップ用材)事業」により、保育間伐等による未利用材を木質バイオマスとして有効利用に取り組んでいる。これらの施策の結果、カラマツ材の需要増加と相まって、収穫量は昨年度比127%と増加した。また副産物はきのこ、転石、ナナカマド等植物の販売があった。</p>		
<p>推奨事項 2007.5</p>	<p>5.5</p>	<p>県有林は県内ほか他県の上流部に位置するため、山梨県全体および神奈川県、東京に水資源の供給を行う重要な地理的条件にある。そのため、水源地として大きな役割を果たしていることをより広く広報することが望まれる。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>県内はもとより神奈川県、東京都の水源地として大きな役割を果たしていることを再認識し、県内外の関係需要者に向けて積極的にPRすること。</p>	<p>第1回年次監査:パンフレット、チラシ、普及宣伝物(コースター)、パネル、ラジオ出演(県広報番組)、やまなし県政だより「ふれあい」掲載(新聞の折込で全戸配布)、「瑞牆山トレッキング」「森林フェスティバル」「県民の日」などのイベントで普及活動をしている。2008年7月18日に山梨県知事及び道志村長が横浜市長と地球温暖化に向けた取り組みについて話し合いを行いFSCの取り組みもPRした。9月5日に東京・六本木ヒルズの山梨サポーターズクラブのイベントで、関係者にFSCの名札をつけ、「山梨の森林」ブースを出し、FSCをPRする予定。引き続き、県有林が県内外の水源地として機能していることを、特に県外に対してより積極的にPRすることが望まれる。</p>	<p>解除 (2009年9 月9日)</p>	
					<p>第2回年次監査:企業及び県民に山梨の県有林(FSC)を認知してもらうため、2008年12月にリーフレット「山梨県有林からFSCを発信」とパンフレット「やまなしの県有林」を作成した。下流域都市部へのPRとして、2009年4月4、5日に神奈川県相模原市民まつり開催時、民間グループによるFSCのPRブースにおいて、山梨県FSC森林認証のパネル展示、パンフレット、コースターの配布を行い、水源地としての役割をPRした。山梨県森林環境部では、2009年7月からコピー用紙にFSC森林認証紙を採用することにした。また県のグリーン購入基準にFSCを含めたため、他の部局や出先機関の一部においても、認証紙の使用は広がっている。現在、山梨県産FSC認証コピー用紙などの製品化に向けた取り組みを積極的に進めており、県内CoC認証取得業者や県外製紙会社と打合せを行っているところである。</p>		

<p>推奨事項 2007.6</p>	<p>5.6, 7.1d</p>	<p>施業体系は県有林管理計画のP52～「作業団の名称及び区域」、p63～「森林区分別の施業方針」などに具体的に記載されている。ただし、現場レベルでの実践が不十分であるため、実効性を確かめるために樹種別・地域別施業体系を見直し、収穫レベルを向上させることが求められる。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>樹種別、地域別の施業体系を再度見直し、収穫レベルを向上させること。</p>	<p>第1回年次監査:今年度具体的な取り組みはなかった。森林資源の現状の把握から収穫レベルを推定する具体的な方法を導入することが勧められる。来年度以降実施予定。</p> <p>第2回年次監査:個々の林分の収穫予想精度を高めるため、県森林総合研究所と東京大学の共同研究により、山梨県版システム収穫表を作成中である。現在、システムの精度を高めるため必要なデータの収集作業を行っている。例えば、過去の野帳のデータを集計し、現在の林分調査結果と比較検討している。来年度に完成予定である。</p>	<p>解除 (2009年9月9日)</p>	
<p>推奨事項 2007.7</p>	<p>6.3, 7.1c</p>	<p>計画書p69 5-3に作業団ごとの施業体系、p70に伐採や更新の方法などの施業の基準が記載されているが、林内の生物多様性を高めることの方針がない。そのための受光伐の方針を定めるべきである。また、普通林地においても伐区は10ha以下とされているが、皆伐面積をより小さくし、土壌流出を防備し多年齢相が混在する景観を形成することが求められる。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>林内の生物多様性の向上を図るために、皆伐面積をより小さくするシステムを採用し、受光環境を改善するための積極的な間伐の実施を検討すること。</p>	<p>第1回年次監査:チャレンジ山梨行動計画で公に間伐等の森林整備推進を謳っており、これに従い積極的に間伐を行っている。昨年度は計画面積1,597haに対し1,794haの間伐を実施した。計画上伐区は10ha以下としているが、5ha以上の皆伐を行うことはめったにない。逆に、小規模な造林事業請負業者の伐採への参加を奨励するため、小面積皆伐地を増やしている。なお、間伐前後の下層植生の繁茂状況などをモニタリングする定点写真での確認などで、施業種の適合性の確認を行うことも選択肢とし、今後も積極的な取り組みが求められる。</p> <p>第2回年次監査:計画上伐区は10ha以下としているが、5haを超えることは少ない。昨年度の公売による売り払い19箇所のうち、5haを超えたのは2箇所のみで、それも6ha程度であった。間伐については、「チャレンジ山梨行動計画の[政策3]健全な森づくりと力強い林業の展開」で間伐等の森林整備を推進することとしており、これに従って積極的に実施している。昨年は1,928haの間伐を実施した。</p>	<p>解除 (2009年9月9日)</p>	
<p>推奨事項 2007.8</p>	<p>6.9</p>	<p>林道法面に外来牧草が使用されており、使用後のモニタリングを行っている。しかし、乙女高原の遊歩道沿いで同種の外来牧草が繁茂している。今後、注意深くモニタリングすることが必要である。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>乙女高原での外来牧草に関しては、繁茂状況をモニタリングし、適切な処置をとること。また同様の状況が起こっていないかどうか、他の森林のモニタリングの際に確認すること。</p>	<p>第1回年次監査:外来種が進入した箇所の在来種の刈り払いには行わず、在来種を生長させ林内を暗くする等により、外来種を淘汰させる計画。そのため、モニタリングとして、デジタルカメラで年1回、6-8月の着葉期に写真撮影を行っている。今後も引き続きモニタリングを実施する。</p> <p>第2回年次監査:2009年7月16日に、昨年度に引き続き乙女高原にてモニタリング調査を実施したが、大きな変異は認められなかった。乙女高原ファンクラブが、平原生態系維持のためのデータ収集として、昆虫等のモニタリングを行っている。今後もモニタリングは必要であるが、取り組みが定着しているため、推奨事項は解除する。</p>	<p>解除 (2009年9月9日)</p>	
<p>推奨事項 2007.9</p>	<p>7.2</p>	<p>管理計画は5年ごとに更新されている。地域が広大で分散しているため、地域管理者間の情報共有のイントラネットなどを活用し、最新情報に簡単にアクセスできる文書閲覧システムを形成することが求められる。</p>	<p>推奨事項</p>	<p>最新の情報を部署内の誰もが簡単に検索してアクセスできる文書閲覧システムを検討し、構築すること。</p>	<p>第1回年次監査:2008年3月6日「職員ポータルへの共用文書の掲載について」に基づいて文書閲覧を開始した。従来からある職員共通の文書閲覧システム「職員ポータル」に関係文書を掲載し、誰もが最新の情報にアクセスできるようにした。</p>	<p>解除</p>	

2008年第1回年次監査							
条件 2008.1	4.2	現地での請負業者に対するヒアリングでは、安全装備に関する周知は開始されたばかりでまだ徹底されていないことが確認された。請負業者による使用状況を確認しながら、作業種、現場に応じた安全装備となるよう検討し、現場レベルでの安全装備装着率の向上を図ることが必要である。	軽微	請負業者によるILOのガイドラインに従った安全装備の使用状況の確認を行い、作業種、現場に応じた安全装備の基準作成に着手すること。	第2回年次 監査で確 認	第2回年次監査: 請負業者の安全装備の装着状況についてチェックシートにより調査を行った。県としては各林務環境事務所ごとに講習会を開催したりマニュアルを作成するなどして装着の指導を励行している。しかし聞き取り調査によれば、夏場に安全ズボンは熱中症の恐れがあるなど我が国固有の課題も認められた。今後は作業に求められる装備に限定して装着を進めていくこととする。一定の取り組みが進んでいるため推奨事項とする。	解除 2009年 9月9日
2009年第2回年次監査							
推奨事 項 2009.1	4.2.4	現地での請負業者に対するヒアリングでは、安全装備に関する県の指導はある程度行き渡ってきており、その重要性の周知は進んでいることが認められた。引き続き請負業者による使用状況を確認しながら、作業種、現場に応じた安全装備となるよう検討し、現場レベルでの安全装備装着率の向上を図ることが必要である。	推奨事 項	請負業者によるILOのガイドラインに従った安全装備の使用状況の確認を行い、作業種、現場に沿った装備の推進を図ること。		2010年次監査: 県森林総合研究所において、2009年10月28日に林務職員、2010年1月22日に林務職員及び林業事業者を対象とした安全装備に関する研修を行い普及啓発を図った。また2010年2月に林災防山梨県支部の協力を得ながら、作業種、環境に応じた「安全装備確認表」を作成した。また2010年5月18日に、各林務環境事務所長を通じ、全請負業者を対象に「安全装備確認表」を基とした安全装備の装着状況調査を実施した。その結果、特に脚、耳、目の安全装備の装着率が低かった。現地での請負業者へのインタビューでも、安全装備は全ての作業者が装着しているわけではない状況が観察された。引き続き安全装備装着率の向上を図ることが必要である。 2011年次監査: 県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業者(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われた。また昨年に引き続き、請負業者の安全装備使用状況を調査した。その結果、安全ズボンの装着率は13%向上し44%となった。現場での安全作業の確認のために、年に2回林業・木材製造業労働災害防止協会により行われるパトロールに県職員が同行している。現在の県の調査票ではチェーンソー、下刈り機を使用する際の使用時の安全靴装着は謳われているが、現場でのインタビューでは、安全ズボンの装着が徹底できていない状況が観察された。	継続
推奨事 項 2009.2	5.3.2	人工林は、その区分に応じて間伐や主伐が概ね計画的に実施されていることが認められる。しかしそうした施策が主に個々の林分で林齢を基に計画されているため、例えばある年に間伐を実施して、間伐材の搬出が困難であったため切り捨てた隣の林分をその1、2年後に皆伐するなど、空間的に合理性を欠く現場が監査の際に認められた。うまく計画すれば、間伐材も搬出できたかもしれない。間伐の必要度が類似する隣接した林分を同時に間伐したり、皆伐する林分の周辺で間伐を同じ年に実施するなど、互いに隣接する林分の施策を組み合わせると効率が上がったり、搬出可能性が高まることが考えられる。	推奨事 項	主間伐を計画している林分の空間的な配置と実施年度を勘案して、効率的な施策の可能性を検討すること。		2010年次監査: 2010年4月15日に、県有林課担当合同会議を開催し、現状の個々の小班にとらわれない効率的な施策の推進について依頼を行った。また2010年7月5日に、出先県有林課職員を対象とした、収穫箇所の設定や周囲測量の実務研修を行い、効率的かつ環境に配慮した施策の推進を図った。さらに、次期県有林管理計画編成にあたり、施策予定箇所の現地調査を実施した際、林分配置や実施年度、及び作業道等の計画を考慮し、効率的な施策が推進されるよう、施策予定箇所の選定を行った。本年度は早速皆伐実施箇所の隣接地での間伐を行った。伐採木の積極的な搬出に努めている。	解除 2010年 9月10日

2010年第3回年次監査								
推奨事項 2010.1	4.2.3	現地において、受け口を作って伐採すべき大きさの樹木が、受け口なしで伐採された跡が観察された。 また、現地での事業者へのインタビューにより、刈払機の一日あたり稼働時間や連続稼働時間が国の指針を超過している場合があることがわられた。	推奨事項	研修会などを通じ、請負事業者に対し安全手順を周知徹底し、国の指針に基づいた作業が行われるようにすること。		2011年次監査: 県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業者(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われ、伐倒時受け口、追い口を設ける手順が徹底され、現場の切り株でも再確認された。また研修の中で振動障害の予防のために新たな振動障害予防対策の概要等の普及啓発が実施された。	解除	2011年 11月17日
推奨事項 2010.2	6.5.2	以前開設された林道・作業道において、側溝や横断溝が詰まるなどして降雨時の排水処理がうまくされず、縦侵食が起きている場所が観察された。林道整備の選択と集中の結果、特に使用頻度の低い林道で見られた。	推奨事項	林道・作業道改修時に、簡易な横断溝を設けるなどして排水処理を適切に行い、降雨時の林道の侵食を防止すること。		2011年次監査: 林道等の管理は各林務環境事務所治山林道課の施設管理担当が所管している。補修、改修は維持修繕委託業務により実施している。 2011年4月14日に実施した県有林課担当合同会議において、各林務環境事務所県有林課職員に対して、走行上危険な箇所を発見した場合、施設管理担当に対応依頼を行うように指示がされた。 現場審査では最大勾配21度の最大傾斜方向に直線区間が長い作業路において縦の深い侵食(雨裂)が起こっていた。今後は森林作業道となり、このような作業道の開設はないが、この作業路についても新しい森林作業道規定に基づき、再点検及び改良をすることが推奨される。	継続	
推奨事項 2010.3	6.5.8	利用間伐期を迎える森林面積が増大し、車両系林業機械の使用が増加する状況において、林内で走行可能な場所があらかじめ定められていない事例が観察された。また事前に計画されている場合でも必要最小限の林内走行が考慮されていないと考えられる事例があった。	推奨事項	車両系林業機械を使用する際には、あらかじめ林内走行を認める路線を設定し、またその幅や距離も林地への影響を抑えるため必要最小限に留めること。線形を変更する場合も同様。		2011年次監査: 2011年4月14日に実施した県有林課担当合同会議において、各林務環境事務所県有林課職員に対して、集材路施工の際に、特に留意が必要な箇所については公売公告に条件を提示すること及び、事業による施工の際は設計図書に明示し、任意施工の場合でも施工者に施工計画書等を提出させ、施工前に県職員が確認をし、必要な指示を行うことの対応がなされている。 今年度実施している収穫作業においては、請負業者が作業路の変更を行う際には協議書を監督員である県職員へ提出させている。また、現場での機械作業を見る限り、今回は最小限のスペースを使うなどの配慮がなされていた。	解除	2011年 11月17日
2011年第4回年次監査								
推奨事項 2011.1	6.6.1 8.2.3	2001年に富士山シラベ林にて大発生したトビツヅリハマキの発生予察調査を継続して行い、10年間の幼虫・成虫発生頭数の推移を把握し、今後の発生の可能性について研究が進められている。発生から10年目に当たり、周期的大発生の可能性等を観察・分析している。 また地域によりシカの密度は異なっているが、確実にシカの個体数が増加し、その食害が顕著となりつつある。シカの食害対策については現在有効な手立てがないことから、忌避剤・テープ巻き・柵などの対処療法が一般的である。これは、全国的な問題であるので、隣接県や国と協力・連動し、その解決に向けた取り組みを始めなければならない。	推奨事項	県内市町村、森林総合研究所等と協力してシカの個体数推定と調整(捕獲)、食害防止について適切な対策が講じられるような仕組み作りの検討を開始すべきである。			新規	
推奨事項 2011.2	8.2.8	請負業者により労働条件、所有林業機械、資格、スキル等が異なる。現場審査でも、労働条件の不一致、作業者の考えの違い、また非効率な作業等を観察した。全県での統一的な作業の実施には、請負事業者の労働条件や作業能力等のレベル向上と均等化を目指すなくてはならない。	推奨事項	県全体の林業作業のスキルアップ、生産性向上、安全性向上のために、まずそれぞれの請負業者の労働条件や有資格者一覧、作業者の経験年数等を調査し、請負事業者の能力等を客観的に把握することが必要である。また、請負事業者を統合した現場研修や、他地域の優れた事例等効率的な作業システムに関する技術情報を収集し、現場での普及が推奨される。			新規	

3 認証審査の過程

3.1 審査日

更新審査日

2007年10月22日

認証過程の説明

管理者による以前の審査での指摘事項に対する改善の説明

規準およびチェックリストの記入、管理書類の審査

公聴会

2007年10月23日

現地審査: 山梨県森林組合連合会木材市場、580い10(クリ・カラマツ混植地、ヒノキ植林地)、546ホほか(瑞牆(みずがき)山自然公園)、557い1(本谷川溪畔林試験地)、560に18(カラマツ間伐地、請負者への聞き取り)、561い7(カラマツ間伐地)、68と1(カラマツと広葉樹の混交林主伐地)

2007年10月24日

現地審査: 29い4(ヒノキ間伐地、請負者への聞き取り)、28へ1(ヒノキ立木販売予定箇所)、琴川ダム展望台より全体風景の観察(2箇所)、17へ1(乙女高原森林文化の森)、ダム周辺のシラベ林(整理伐実施地)、サワラ天然林学術参考林、20い9(スギ間伐地)、20い7(スギ皆伐地、請負者への聞き取り)

2007年10月25日

現地審査: 紅葉台より全体風景の観察、442い1ほか(青木ヶ原樹海保護林、エコツアー実施地)、426い56ほか(おととしのシラベ植栽地、シカ柵設置、保護組合への聞き取り)、428ち1ほか(シラベ虫害激害跡地へのカラマツ植林、虫害被害拡大防止のための列状間伐、ボランティアによる広葉樹植林)、423-Iへ1ほか(富士山原始林保護林)、シラベ・カラマツ混交林列状間伐地、カラマツ天然林(馬返し)、409ち2ほか(カラマツ列状間伐地、請負者への聞き取り)

2007年10月26日

規準およびチェックリストの記入、管理書類の審査

審査員の検証ミーティング、点数付け、主要項目および不適合事項の議論

終了ミーティング 結果の発表、推奨事項の議論、認証過程の次段階の説明

審査を実施するための人日数

13人日

3.2 審査チーム

審査チームは以下のとおり構成された。

1) 富村周平

富村周平は、東京を拠点とした専門コンサルタントであり、富村環境事務所の代表である。専門分野は森林生態、森林保全、森林計測である。京都府立大学林学科を卒業した後、フランス国立森林中央研究所で森林生態等を学ぶ。現職に就く以前は、アジア航測株式会社に23年間勤め、モロッコ、コートジボワール、パラグアイ、ヨーロッパなどで森林に関する国際的な経験を積む。また、東洋工学専門学校エコロジー科の講師を勤めた。日本において10以上のFM審査の主任審査員を務めている。

2) 白石則彦

白石則彦博士は、東京大学大学院農学生命科学研究科の教授である。以前は10年間、農林水産省の研究機関である森林総合研究所に研究員として勤務していた(筑波本所、および北海道支所)。研究の専門分野は森林計測、森林資源調査および森林経営である。博士号の学位を東京大学で取得した。森林認証や森林モニタリングなど幅広い分野で研究論文を発表している。

3) 小川直也

小川直也は、FSC森林認証審査のサポート役としてわが国における審査事例に数多く参加した。アマタ株式会社に所属し、同社の森林認証事業のコーディネーターである。東京大学で森林科学を専攻し農学修士号を取得している。

チームメンバーの履歴はウッドマークオフィスに保管されている。

3.3 レポートピアレビュー

審査レポートおよびウッドマークの判断案は以下の審査員によって再審査された

1) 加藤鐵夫

加藤鐵夫は、長年、森林・林業行政に携わってきている。名古屋大学林学科を卒業した後、林野庁に入り、33年間にわたり森林計画や造林施策の推進、国有林の経営等に携わってきている。2001年から2003年の間林野庁長官を務めた。現在独立行政法人農林漁業信用基金の副理事長を務めている。

2) 芝正己

京都大学大学院農学研究科森林管理および林業工学分野の助教授である。京都大学以前には、三重県津市に所在する三重大学生物資源学部に勤務していた。同氏は、林業工学や森林利用分野における意思決定法に関する研究について多くの論文を発表している。同氏は学士号を宮崎大学にて取得し、京都大学で博士号を取得している。

3.4 認証の判断

認証の判断は以下によってなされた。

認証の判断は、ケビン・ジョーンズ(ウッドマークマネージャー)及びニコラス・アンダーヘイ(ソイル・アソシエーション・サーティフィケーション・リミテッド 認証オフィサー)からなる認証決定委員会によってなされた。

3.5 審査の進め方の根拠

審査中に20サイトを訪問した。また移動の途中でも車の中から、または遠望により他のサイトの状況も確認した。広大な面積のため、多様なサイトを選択して訪問した。

3.6 審査した事項および場所の選択理由

現場審査では、地域、標高、樹種、管理方法などが異なる多様なサイトを選択した。観察した場所には、枝打ち、除伐、間伐、収穫、搬出、新植といった各管理段階にわたる管理現場と、林道状況、保護区である自然林の管理状況などが含まれている。また、実際に作業している請負者の安全装備・労働条件等に関するインタビューも行った。

3.7 規準

当該森林はソイルアソシエーション・ウッドマークの国際的な一般規準およびチェックリストを用いて審査された。この規準およびチェックリストは日本語に訳され、利害関係者との協議を通して配布された。規準に対して重要な意見を受け取ることはなかった。修正された規準のコピーは要求すれば入手可能である。現在ワーキンググループ設立準備局が国内基準に対して取り組んでおり、将来はこの国内基準を用いてウッドマーク基準を改定する予定である。

3.7.1 規準の適合／修正

修正はなかった。

3.8 利害関係者との協議

3.8.1 利害関係者との協議の過程の概要

51人の利害関係者と連絡を取った。
28人から返事を得られた。
アンケートは2007年9月21日に送付した。
公聴会は2007年10月22日に開いた。

3.8.2 審査中に協議を行った人々の氏名と所属

附属文書2を参照

3.8.3 利害関係者から聞かれた主要な森林管理の概要

肯定的な事項

剣丸尾溶岩台地のアカマツ林、青木が原樹海のヒノキ・ツガ林、忍野のハリモミ林など貴重な植物群落が多く残されている。

富士山麓地域の生物多様性調査では環境省レッドリスト選定種が39種確認されている。

富士山は霊峰として古くから信仰の対象になっているほか、自然散策等レクリエーションの場として利用されている。

三ツ峠は高山植物が多種多様に見られ、希少なものも含まれている。

県有林周辺には、高山植物、ロッククライミング、富士山眺望のスポットとして多くの観光客が訪れている。

保安林等の設定、管理は適切になされている。

狩猟区域の設定等について十分に意見が反映されている。

ホテイアツモリソウ(*Cypripedium macranthum* var. *hotei-atsumorianum*)、サンショウウオなどが保護されている。

昔からの水利権、入会権などは継続している。

狩猟については猟友会、溪流釣りについては漁協が監視を適切に行っている。

巡回により林道周辺の不法投棄が減少しており感謝している。

山梨県は全国的にも珍しく県が森林を広大な面積で管理しているからこそ貴重な森林資源が守られていると思う。今後も民間への売却を進めることなく保護・保全に努めてほしい。

FSCを取得して、より環境に配慮した管理を行うようになったと思う。

単なる森作りだけでなく、動植物との共存について少しずつ意識するようになった。

県有林は10年ごとに定められた管理計画に基づき管理されており、5年ごとに見直しが行われている。

県有林という公的森林の管理に伴い、雇用が確保され、山村経済の成立に貢献している。

否定的な事項

一部の場所では、枯損木が多く見られ、倒木も多くまったく対応されていない点が気になる。ここ数年、山の浸食、森林の枯損化がすすみ非常に危険な状況である。何らかの対応をお願いしたい。

農作物への鳥獣害があるため、広葉樹林(実のなる木)の造林が必要である。

高山植物などの盗採、水晶石の盗掘などは減っているがなお監視は必要と思われる。啓発の看板が少ないので増加してほしい。

間伐した材をもっと有効活用してほしい。

野生鳥獣(特にシカによる造林木の食害)による森林被害の状況を見ると、必ずしも適切に管理されているとはいえない。

本来なら木材の循環が適切に図られ、林業の「生業」として位置づけられなければならないのであるが、木材価格の下落や担い手の減少、高齢化等により、適切な循環が図られていないと思う。

防風保安林の一部において、指定当時の目的が年月の経過により希薄化している箇所については、指定の解除の検討も必要と思われる。

イノシシ・シカ・サル等による作物被害が甚大なため、駆除等への配慮がなお一層必要と思われる。
山村に安心して居住できる生活基盤が必要であり、真に森林を守る人的基盤づくりを将来に向けて急ぐ状況にある。
FSCの一般住民への浸透度が低い。職員の中にも認識不足の人が見られるように思える。

県有林がFSCをとったからどういう形になったのかというところが見えてこない。どうい森林管理をしていくのが県民に対してよくわからない。
土地所有者として、貴重な自然林、環境で重要な面をもう少しPRしてもいいのではないか。

FSCを取得するに当たって、細かな点の要求が多い。もっと全体としてどうするのかを示してほしい。
保護林、学術参考林、見本林などいろいろな名前が増えて、一般の人にはわかりにくくなっている。わかりやすい区分の仕方を考えてほしい。
下流側の神奈川県の方が、FSCへの関心がとても高いが、逆に県有林側の意識が低く、県民の生活と乖離している。

その他の事項

動物のすめる森林作りを目指してほしい。
富士山周辺の森林において禁伐になっている区域があるが、森林を健全に維持するためにはある程度の間伐を行うことも必要と考える。
県有林に限らず、森林が二酸化炭素の吸収、固定にもっとも容易な手法でもっとも安いコストで実施できるとすると、地球温暖化防止のための唯一の積極的手法と考える。
生物多様性の確保と言う観点で、今でこそ単一樹種の一斉造林が評価されないが、戦後の復興期の旺盛な木材需要に応えるためとられた林業政策は、ベストの選択であったと思う。

対象森林はその地域に住む人間にとって共有の財産であり、その中から生まれ育った文化や産業はこれを継承していく責任がある。

3.9 所見

所見は、日本での使用に適合されたウッドマーク一般規準およびチェックリストを用いて、体系的に観察された記録である。チェックリストは付属書類1として添付されている。ソイルアソシエーション・ウッドマークの一般規準の履行は、FSCの原則と基準の全ての規準の評価に基づいている(1999年1月)。認証発行のためには、軽微な不適合のみが許容されると考えられる。重要な不適合には事前条件が発行される。軽微な不適合には条件が発行される。事前条件と条件は本レポートの2章に記載されている。長所はチェックリストの中で4点または5点がつけられた事項である。チェックリストで3点がつけられた規準は要求事項を満足しており、FSCの要求事項も満たしている。規準レベルでの弱点は、チェックリストで1点または2点がつけられたものであり、不適合事項と考えられる。これらの規準に対しては事前条件(得点1)または条件/勧告(2点)が要求される。指標レベルで指摘された弱点は×がつけられている。

各不適合事項は、提示された改善要求事項(事前条件、条件、勧告)の説明とともに、下記9章で詳しく述べられている。この章では条件を解除するために必要な行動についても詳細に述べられている。設定された条件については、設定された期限内に実行されなければならない。年次監査の際に評価され、報告される。年次監査の詳細については本レポートの6章を、また条件の解除については2章を参照。

3.10 課題

評価することが難しい事項、または矛盾する証拠が特定されたときには、この章で課題として議論され、以下のとおり結論を得る。

規準	課題
	なし

3.11 結果、結論および推奨事項

付属文書1規準及びチェックリストに記録された所見に基づき、また本レポート2章の改善要求事項を条件として、認証取得者の管理システムは、もし記述のとおり実施されれば、審査の範囲に含まれる全ての森林に対して、規準の全ての要求事項が満たされると判断される。そして、本レポート2章に詳細に記述されている改善要求事項を条件として、認証の範囲に含まれる全ての森林に対し、管理システムが継続的に実施されていることが、認証取得者によって示された。FSC認証は表紙に示された期間で発行される。また年次監査で満足のいく結果が出されることを条件に継続される。

4 管理の背景

4.1 背景—森林管理団体が行う法的、管理、および土地利用の背景の概要

管理の背景

日本の面積は約37.8百万haである。地質としては、太平洋側は地殻変動があり、火山活動が歴史的に続き、今日の土地利用を決定している。1億2千8百万の人口のほとんどは沿岸の都市部に居住し、その内陸の山間部を除いた面積は全体の約18%に該当する。森林が内陸の山間部を覆い、面積でいうと2,510万ha、国土面積の約66%に該当する。

日本国内の森林の構成は、約784万ha(31%)が国有林、約280万ha(11%)が公有林(都道府県、市町村財産区)、約1444万ha(58%)が私有林になっている。私有林家の平均保有山林面積は2.6haであり、これら山林の管理においては、自治体や森林組合が大きな役割を担っている。

自治体や森林組合は民有林管理の中心的な役割を担い、その業務内容は管理する地域の管理計画策定、森林管理に関する相談、市町村から森林所有者への補助金交付の窓口機能、管理業務の遂行及び木材の販売活動など多岐に亘る。

2001年に改正された森林・林業基本法は、森林の有する多面的機能の発揮、林業の持続的かつ健全な発展を基本理念として、環境機能と林業の進展を目指したものである。また、森林組合法(1960年制定、2001年改正)は、森林所有者の協同組織の発達を促進すること、森林所有者の経済的社会的地位の向上、森林の保続培養および森林生産力の増進を図ることを目的としている。

このほか、森林管理区域に適用される法律としては、自然公園法、自然環境保全法、林業種苗法、森林病虫等防除法、砂防法などがあり、森林施業時に順守すべき法律として機能している。

全国の森林のうち1,165万haが保安林として指定されている。(内訳としては水源かん養保安林が70%、土砂流出防備保安林20%、その他10%程度である。)これらの指定区域においても伐採は許可されているが、搬出の技術やその後の再造林の計画、また伐採可能量については制限がある。保安林として指定することによって、多様な保護活動が可能になり、実際にこれら指定域における育林は限られている。

環境省の自然公園制度では日本を代表するような、すぐれた自然の風景地を国立公園とし、またそれに準ずる地域については国定公園に指定し、都道府県を代表するすぐれた風景地については都道府県立自然公園として指定している。国立公園については環境省の指定で、現在28公園、207万ha(国土面積の5.5%)があり、国定公園については全国55公園、134万haになる。都道府県が条例によって指定し、自ら管理を行う都道府県立自然公園は、現在309公園、195万haが指定を受けている。3つの指定地域全体で国土の14%に相当する。

県有林の成り立ちは次章に記すとおり、明治40年及び43年の大水害が県下全域に大きな被害を及ぼしたことから、県議会では「御料地無償還付ニ関スル意見書」を国に提出し、入会御料地の無償下付を要望した。その結果、明治44年3月11日、見込面積16万4千ヘクタールに及ぶ入会御料地が御下賜された。県は直ちに恩賜県有財産模範林として、県土保全を旨とし、その管理経営にあたることとなった。このように、山梨県周辺部の山麓から山岳域にかけてが県有林となり、森林法をはじめとする各種法規定に基づき県当局が森林管理に当たっている。

5 森林

5.1 管理の一般的背景

5.1.1 管理の区分と設立年

現在の山梨県有林は、県議会の要望により、明治44年3月11日、見込面積16万4千ヘクタールにも及ぶ広大な入会御料地が御下賜されたことに始まる。

5.1.2 土地、森林の所有権および森林管理団体

土地の所有は山梨県であり、山梨県森林環境部県有林課が管理を行っている。

5.2 保有権

5.2.1 森林所有者／管理者の保有権

土地の所有は山梨県であり、恩賜県有財産模範林という登記が登記簿上でなされている。一部貸付地がある。

5.2.2 第三者の保有権及び使用権

従来からの入会慣行を各地域の保護団体に認めており、希望する限り、永世、毎年、草木の払い下げをしている。山梨県恩賜県有財産管理条例、山梨県恩賜県有財産土地利用条例などで定めている。保護団体は巡視等の義務を負っているが、その対価として毎年交付金が支払われている。

また、山梨県には、日本百名山のうち富士山をはじめとした10の山があるなど、登山利用が活発な地域であり、多くの登山客が訪れている。12箇所の森林文化の森や3箇所の森林公園など森林利用も活発である。

5.2.3 森林所有者／管理者の他の活動や管理地域

山梨県森林環境部には県有林課のほかにもどり自然課、森林整備課、林業振興課、治山林道課などの課があり、野生鳥獣の管理、森林ボランティアの支援、私有林の経営管理の支援、県産材の利用推進、保安林や林道の管理、治山事業などを行っている。

5.2.4 土地利用の歴史

山梨県の山林原野は、地域住民の生活・生業用資材として県民の暮らしに大きな役割を果たしてきたが、県有林の基となった山林については、1868年の明治維新の地租改正に伴う山林原野土地官民有区分をきっかけに、「官民有区分未定時代」「官有地時代」「官林時代」「御料林時代」と目まぐるしい所有形態の変化を経た。この間、国、県、地域住民間の意見の相違から、山梨県の山林は、無秩序な伐採、野火、水害等により極度に荒廃した。

特に、明治40年及び43年の大水害は、県下全域に大きな被害を及ぼし、県議会では「御料地無償還付ニ関スル意見書」を国に提出し、入会御料地の無償下付を要望した。

その結果、明治44年3月11日、見込面積16万4千ヘクタールに及ぶ入会御料地が御下賜された。県は直ちに恩賜県有財産模範林として、県土保全を旨とし、その管理経営にあたることとした。

そしてこれまで、時代の要請にこたえながら森林管理を行ってきた。当初は天然更新を基調とする択伐施業が主体だったが、昭和30年代に拡大造林を積極的に推進し、現在の広大な人工林を形成した。昭和50年代から、社会的要請を受け、木材の安定供給以外にも、林地保全や保健休養などの公益的機能の発揮を目的とする管理を導入した。2006年から始まる現在の県有林管理計画では、「多様な森林機能の維持増進」と「持続可能な森林経営の推進」を経営の基本方針とし、管理を行っている。

5.3 森林管理の概要

5.3.1 管理組織の構成

山梨県森林環境部県有林課が管理を行っている。従来は県の地域振興局・林務環境部ごとに事業区を設けて管理経営を行っていたが、平成18年の県出先機関の組織再編にあわせ、6事業区を林務環境事務所単位の4事業区に統合し、現在は、本庁と、4つの林務環境事務所で管理を行っている。また、県下には160の保護団体(財産区、市町村、組合)があり、火災の予防や盗伐などの加害行為の防止等の保護活動を行っている。造林施業は事前に登録された請負者(2007年現在58社)による入札で施業が実施されている。

5.3.2 管理システムの概要(非SLIMF / マルチサイトのみ)

5.3.6参照

5.3.3 全管理地域および主な区分

県有林は、県下28市町村のうち23市町村と、ほぼ山梨県内全域に分布している。県土面積44万6,537ヘクタールの35.4%、県森林面積34万7,779ヘクタールの45.5%にあたる158,254ヘクタールを占めている。そのうち、貸地等を除く143,000ヘクタールが、本認証の対象地である。県有林は、おおむね私有林やその他公有林の上部に位置しており、富士山をはじめとするわが国を代表する山々を有するとともに、県内の主要河川は、その大部分がこれら山岳地帯に分布する県有林に源流を発している。また、多くの観光客が訪れる景勝地も多数存在する。したがって、県有林は治山治水上はもとより、自然環境保全、景観保全上からも重要な役割を担っている。

県有林は大きく中北、峡東、峡南、富士・東部の4つの事業区に分けられ管理されている。また、林班数、小班数はそれぞれ978、30,585であり、平均面積はそれぞれ161.81ha、5.17haである。

5.3.4 林分構成および森林製品

山梨県の標高は最低200mから最高3,400mと、暖帯上部から寒帯上部に渡っているため、林相は多様である。すなわち、丘陵帯(暖温帯、標高600メートル以下)の常緑広葉樹林(シラカシ林)、山地帯(冷温帯、標高600~1,800メートル)の落葉広葉樹林(ブナ林)、常緑針葉樹林(ウラジロモミ・コメツガ林)、亜高山帯(亜寒帯、標高1,800メートル~2,400メートル)の常緑針葉樹林(シラベ・オオシラビソ林)、高山帯(寒帯)の高山低木群落および森林限界以上の草本群落などである。

人工林について見ると、カラマツが全面積の46%を占め最も多く、ヒノキ20%、アカマツ15%、シラベ8%、広葉樹6%、スギ3%の順となっている。カラマツは県有林の全域にわたって広く植栽されており、一部風衝地を除いて一般的に成長は良好である。アカマツ、ヒノキは丘陵帯および山地帯下部を主体に、シラベはおおむね亜高山帯に植栽されている。林齢は、戦後の拡大造林政策に沿って造林した7齢級から10齢級に集中しており、伐期を迎えつつある森林が増加している。

林産物はほとんどが立木または丸太での販売による木材だが、従来からの入会慣行が認められている各地域の保護団体には、草本やキノコを含む草木の払い下げをしている。

5.3.5 管理目的

県有林の管理にあたっては、管理の基本理念、県有林を取り巻く社会情勢を踏まえ、多様な森林機能の維持増進と木材生産の調和が取れた県有林の管理を推進することとし、次の2点を基本方針としている。

○多様な森林機能の維持増進 — 県民の期待に応える森林管理の推進 —

森林が有する国土保全、水源涵養、地球温暖化の防止、自然環境の保全等多面的な機能の維持増進を図り、県民の森林に対する多様な期待に応えるための森林の整備と利用を推進します。

○持続可能な森林経営の推進 —木材の持続的生産と経営の効率化—

循環型社会構築に寄与するため、環境負荷が少なく再生産可能な資源である木材を持続的に生産し、自然環境の保全に配慮しながら効率的な県有林経営を推進します。

また、計画の基本方針に基づき、管理目標と社会的な要請に応じた次の3項目について、特に重点をおいて県有林の管理にあたることとしている。

- (1) 公益機能の維持増進
 - ア 水を育み県土を守る森林づくり
 - イ 多様な森林利用の推進
 - ウ 地球温暖化防止対策の推進
- (2) 自然環境の保全
 - ア 自然環境の保全に配慮した施業
 - イ 多様な生態系の保全
 - ウ 被害森林の再生
- (3) 経営の効率化
 - ア 効率的な林業経営の確立
 - イ 需要者ニーズに対応した木材供給
 - ウ 間伐材の有効利用

5.3.6 林業及び森林管理システム

5.3.6a 概要

県有林では、地種、法令の制限度合い、作業種および伐期齢、標高、景観の配慮により、施業方法を定める作業団により小班を設定しており、それぞれの作業団の施業指針にしたがって管理を行っている。作業団および作業団に順ずる単位は全部で42種類ある。

主な木材生産の場となる制限林地一般用材林作業団、普通林地一般用材林作業団においては、生産目標を柱適寸材(10.5cm角以上)、集成材利用適寸材(10.5cm角以上)、広葉樹家具・木工用材(丸太径30cm以上)とし、以下のような施業体系のもと施業を行っている。

樹種	利用末口 径級(cm)	利用径級 (cm)	伐期齢 (主伐の時期)	保続計算上の伐期齢		植栽本数基準 (本)
				地位(上)	地位(中)	
スギ	18	22	30～	30	45	3,000
ヒノキ	18	22	40～	40	70	3,000
アカマツ	18	24	35～	35	55	4,000
カラマツ	18	24	35～	35	50	2,300
シラベ	20	24	45～	45	55	3,000
モミ外針葉樹	20	24	40～	40	65	3,000
広葉樹	30	36	60～	60	110	3,000～6,000

5.3.6b 更新

人工植栽による更新:37000 ha

天然更新:106000 ha

5.3.7 基本的な収穫技術

収穫は、県有林林産物入札参加資格者による入札で、販売されている。請負者により保有する機械が異なり、収穫技術も異なるが、基本的にはチェーンソーによる伐倒が行われ、ウィンチやスイングヤーダーによるワイヤーを使用した牽引での集材、林道から離れた場所ではフォワードャーや林内作業車による運材、チェーンソーやプロセッサによる造材が行われ、トラックで出荷される。

5.4 持続的収穫

5.4.1 収穫予想の根拠となる仮定

収穫予想表を用い材積を計算している。収穫予想表は平成15年3月に更新した県有林独自のものである。

5.4.2 収穫予想の根拠となるデータ

県有林の森林簿を基に、上記の収穫予想表を使用して短中長期的な収穫計画を立てている。

5.4.3 量、種に関する年間収穫の理論

標準伐採量および標準更新面積は、収穫量が将来にわたり保続し、かつ、更新面積に著しい増減がないよう配慮して保続計算により算出している。保続計算は施業方法の類似している作業団を包括して行う。人工林については、利用径級以上のものを伐採対象とする。現在の標準伐採量は $45,600\text{m}^3/\text{年}$ と計算されており、年間成長量 $388,373\text{m}^3/\text{年}$ を下回り、森林収穫の保続には影響はない。

5.4.4 過去の生産

平成14年度	$27,008\text{m}^3$
平成15年度	$32,208\text{m}^3$
平成16年度	$31,367\text{m}^3$
平成17年度	$47,165\text{m}^3$
平成18年度	$51,106\text{m}^3$
平成19年度	$41,583\text{m}^3$
平成20年度	$42,702\text{m}^3$

5.4.5 現在の生産

平成22年度	$53,663\text{m}^3$
--------	--------------------

5.4.6 計画されている生産

上記標準伐採量に基づいた量での伐採が行われる予定。単年度での増減はあるが、中期的には標準伐採量を超えない伐採量となる計画。

5.5 環境及び生物多様性

5.5.1 生物多様性にとって重要な場所の概要

山梨県は、県中央部に甲府盆地が位置し、その周囲が日本有数の山岳地となっており、県有林の所在する地域は盆地上里山から標高3,000mを越える。甲府盆地は標高200mであり、周囲の山岳は、1,500メートル級から3,000メートル級の山々からなる。その間に県有林が存する。山梨県有林水源地から発する多くの河川は県内で合流し、静岡県(富士川)や神奈川県(相模川)、東京都(多摩川)など、下流部の関東平野等の重要な水源地帯となっている。

気候型は、日本列島の内陸部に位置していることから、甲府盆地の「盆地気候」と山岳地域の「山岳気候」に区分される。すなわち、海岸地域とは異なり、標高差による気温の地域差が大きく、気温の日較差、年較差が大きい内陸気候の気候特性を示しており、平均気温は甲府において冬季で -2.7C ～夏季で 22.4C 、河口湖において -6.7C ～ 17.6C と地域・標高により違いが見られる。

年降水量は盆地で少なく約1,000mmだが、富士五湖地方や富士川中流域の多雨地域では、2,000mm以上に達するところもある。県内全般に風は弱く、盆地や八ヶ岳山ろくは全国的に見ても多照地域で、概して空気は乾燥している。

地質は、県下全域に亘るため、多様であり、多くは富士山・八ヶ岳の火成岩類を主体とするが、第三紀層や河岸段丘礫層などが広範囲に分布する。特に、富士山麓には、864年の貞観大噴火による広大な溶岩台地が広がっており、青木ヶ原樹海と呼ばれるわが国でも珍しい独特の自然林が広がっている。

植物は、地形、地質が複雑で気温も変化に富んでいるため、種類数が豊富で群落組成にも特徴を持つ。特に、標高差が大きいため、垂直分布の変化が顕著で、暖帯から寒帯にかけてのさまざまな植物を見ることができる。富士山麓のツガ・ヒノキ林、アカマツ林、シラビソ林、ブナ林等は特異で、各地にシオジ林やサワラ林などの多様な地形に応じた自然林が散在する。また、南アルプスの北岳周辺は高山植物の宝庫で、北岳固有、または南アルプス固有の植物が見られる。

豊富な植物を反映して、動物相も多様である。獣類は本州で生息するもののほとんどが見られ、鳥類も平地から高山帯まで生息する多種のものが観察される。また、富士川本川及び釜無川、笛吹川等河川数が多いため淡水産の魚類も多い。

5.5.2 保護価値の高い森林 - 存在する保護価値の高い森林についての記述

9.1.1参照

5.5.2a 保護価値の高い森林および保護区の面積

保護価値の高い森林面積:295.48ha

保護区面積:19,000ha

5.5.3 化学薬品使用記録 - 過去に使用された化学薬品の量および使用の理由

2010年度は以下を忌避剤として使用した。

コニファー:2193.11リットル

ヤシマレント:573.42kg

ヤシマNCS:775.57リットル

5.6 社会及び地域社会

山梨県の人口は87万7千6百人であり、多くが中心の甲府盆地に集中する。山梨県は果樹生産が盛んである。特にモモやブドウが有名であり、3月のモモの花の時期には多くの人々が訪れ、ワインの製造も盛んである。また、一般機械、電気機械、輸送用機械、精密機械等の機械器具製造業が山梨県の主産業となっており、ネクタイ地や紳士服裏地の織物業、宝飾産業等の地場産業も盛んである。また、数多くの著名な温泉地があり、多くの温泉客が訪れている。

四方を2,500m級から3,000m級の山々に囲まれており、富士山をはじめとした著名な山が多く、たくさんの登山客が訪れている。また、富士山周辺の富士五湖周辺は標高約1,000mの地であり、避暑地としても名高く、夏には多くの人々が高原の気候を楽しんでいる。このように、山、河川、湖、温泉、歴史的遺跡など豊かな自然・文化資産の存在と首都圏に近いという地理的条件に恵まれ、わが国でも有数の観光誘致の基盤を形成しており、四季を彩る森の存在がここでは重要な役割を果たしている。

5.7 モニタリング活動の概要

森林生態系のモニタリングについては、平成9年度から10年間、山梨県北部に位置し、秩父多摩甲斐国立公園に含まれる瑞牆山一帯のモデル地域(北杜市須玉町の塩川ダム上流域)で行われた。生態系の多様性、種の多様性、木材生産面積、伐採量、病虫害等の影響、大気汚染物質被害、水質の変化、炭素蓄積量と炭素収支、生産および消費、レクリエーションおよび観光、雇用及び地域社会ニーズなど、多くの指標がモニタリングされた。モニタリング結果はまとめられ、各都道府県、研究機関に送付されている。

また、県有林の巡視は、県有林関係者による他、自然保護の観点から設置されている山岳レインジャー、富士山レインジャーも巡視を行っている。県職員も定期的な巡視を行っている。

成長量に関しては、定点における成熟林調査、標準地調査が行われており、森林簿の更新が適宜図られている。収穫予想表は平成15年3月に更新されている。

5年に一度の森林計画策定時には、県内各機関に聞き取り調査を行い、また県民意識調査をはじめとした県民に対する各種アンケートにおいて、県有林に対する県民の意識を調査している。

各種森林調査や、森林作業員に対する教育訓練においては、山梨県森林総合研究所が重要な役割を果たしている。県有林との結びつきは密接であり、行政からの試験研究要望を森林総研に上げ、研究推進会議で研究内容を決定している。約9割は行政からの要望に基づき研究を行っている。

5.8 その他の活動

5.8.1 管理地域内で行われている林業以外の活動の概要

登山や富士五湖周辺のレクリエーション活動が活発である。青木ヶ原樹海においては、エコツアーが活発であり、県も含めたエコツアー協議会を設置し、エコツアーのガイドラインを作成している。また、試験、研究等には入山許可を得れば県有林に入ることは認められている。

5.8.2 影響

森林管理への影響は基本的でない。

5.9 製品の追跡、識別

5.9.1 評価された森林からの、認証、非認証製品が混入するリスクが高い地域

立木での販売または市場での販売による。山土場で集材した際に、他の山からの材と混在するリスクがある。

5.9.2 管理システム 原料の流れを管理するためのシステムと文書

県有林FSC認証ラベル取り扱い要領が作成されている。送り状やFSC認証材出荷証明の様式が作成されている。

5.9.3 認証森林製品の識別

立木で販売する際には、図面で明示するとともに、境界木にはマーキングをすることで現地においても境界を明らかにしている。

市場で販売する際には、伐採から市場までの搬送を請負者に委託するが、伐採は他の森林と同時には行わず、山土場にも他の森林の材を集積させない。また、山土場で集積された丸太には、一式をFSCラベリングバンドで括るか、一本一本に刻印を押して識別している。

5.9.4 森林・COCの認証対象が終わる点

立木での販売または市場での販売である。

5.9.5 森林管理者による2次加工

山梨県は加工を行っていない。

5.10 認証の範囲に含まれていない森林の範囲または過程

1.4.24参照

5.11 地図

付属文書8参照

6.0 第1回年次監査

6.1 年次監査日程

2008年9月2日～4日

6.2 年次監査を実施するための人日数

6人日

6.3 監査チーム

監査チームは以下のとおり構成された。

1) 富村 周平

富村周平は、東京を拠点とした専門コンサルタントであり、富村環境事務所の代表である。専門分野は森林生態、森林保全、森林計測である。京都府立大学林学科を卒業した後、フランス国立森林中央研究所で森林生態等を学ぶ。現職に就く以前は、アジア航測株式会社に23年間勤め、モロッコ、コートジボワール、パラグアイ、ヨーロッパなどで森林に関する国際的な経験を積む。また、東洋工学専門学校エコロジー科の講師を勤めた。日本において10以上のFM審査の主任審査員を務めている。

2) 小川 直也

小川直也は、FSC森林認証審査のサポート役としてわが国における審査事例に数多く参加した。アマタ株式会社に所属し、同社の森林認証事業のコーディネーターである。東京大学で森林科学を専攻し農学修士号を取得している。

チームメンバーの履歴はファイルに保管されている。

6.4 監査過程

2008年9月2日

現地審査:427に2(61年生カラマツ・アカマツ混植林皆伐地)、427よ3(50年生カラマツ間伐地)

書類審査:本審査報告書の条件や推奨事項の改善状況の確認、一般規準及びチェックリストによる再確認

2008年9月3日

現地審査:152ろ6(56年生ヒノキ皆伐地)、152ろ3(50年生ヒノキ皆伐後のヒノキ新植、下刈り地)、152い5(50年生前後ヒノキの強間伐・無間伐試験地)、150ろ3(小金沢山自然保存地区)、185ろ1(シオジ天然林学術参考林)、148は10(17年生ヒノキ間伐地、請負業者((株)フカサワ)へのインタビュー)、145い4(44年生カラマツ間伐予定地)、甲斐東部材団地(市場での認証材の販売状況の確認)

2008年9月4日

現地審査:173い11(24年生ヒノキ間伐地、請負業者(望月林業)へのインタビュー)、173は2(架線集材によるスギ・ヒノキ皆伐実施地)、174よ5(7年生ヒノキ下刈り地)、174よ11(ヒノキつる切地)、174た5(22年生ヒノキ間伐地)

審査員の検証ミーティング、結果の発表、条件や推奨事項等の議論、認証過程の次段階の説明

6.5 利害関係者との協議

連絡を取った利害関係者は付属文書2にリストアップされている

利害関係者から寄せられた意見はこの章の「課題」で議論されている。

所見は規準及びチェックリストに記録されている。

6.6 改善要求事項の確認

以前付された条件に関して実行された内容は本レポートの2章で確認されている。

6.7 審査した事項および場所の選択理由

現場審査では、地域、標高、樹種、管理方法などが異なる多様なサイトを選択した。観察した場所には、枝打ち、間伐、収穫、搬出、新植といった各管理段階にわたる管理現場と、林道状況、学術参考林、間伐比較試験地などが含まれている。また、実際に作業している請負者の安全装備・労働条件等に関するインタビューも行った。

6.8 製品の追跡、識別

立木で販売する際には、図面で明示するとともに、境界木にはマーキングをすることで現地においても境界を明らかにしている。
市場で販売する際には、伐採から市場までの搬送を請負者に委託するが、伐採は他の森林と同時には行わず、山土場にも他の森林の材を集積させない。また、山土場で集積された丸太には、一式をFSCラベリングバンドで括るか、一本一本に刻印を押して識別している。

森林管理者による2次加工

山梨県は加工を行っていない。

6.9 規準

当該森林はソイルアソシエーション・ウッドマークの一般規準およびチェックリストを用いて審査された。この規準およびチェックリストは日本語に訳され、利害関係者との協議を通して配布された。規準に対して重要な意見を受け取ることはなかった。修正された規準のコピーは要求すれば入手可能である。現在ワーキンググループが国内基準に対して取り組んでおり、将来はこの国内基準を用いてウッドマーク基準を改定する予定である。

基準のコピーはwww.soilassociation.org/forestryにて公開されている。

6.10 規準の適合／修正

以前の審査で使用された規準への変更はなかった。

6.11 範囲の確認

審査チームは現在のFSC認証森林と製品の範囲を確認した。前回の審査から変更はなかった。

6.12 管理状況の変化

審査チームは管理状況の変化を確認した。重要な変化は確認されなかった。

6.13 年次監査の結果

年次監査の結果は、付属文書1規準及びチェックリストに記録されており、不適合事項は本レポート2章に記載されている。また以下の「課題」を参照。

6.14 提示された課題

評価することが難しい事項、または矛盾する証拠が特定されたときには、この章で課題として議論され、以下のとおり結論を得る。

規準	課題
	なし

6.15 年次監査レポートの承認

エミリー・ブラックウェル(ウッドマーク)及びニコラス・アンダーヘイ(ソイルアソシエーションサーティフケーション)により承認された。

7.0 第2回年次監査

7.1 年次監査日程

2009年9月7日～9日

7.2 年次監査を実施するための人日数

6人日

7.3 監査チーム

監査チームは以下のとおり構成された。

1) 白石 則彦

白石則彦博士は、東京大学大学院農学生命科学研究科の教授である。以前は10年間、農林水産省の研究機関である森林総合研究所に研究員として勤務していた(筑波本所, および北海道支所)。研究の専門分野は森林計測、森林資源調査および森林経営である。博士号の学位を東京大学で取得した。森林認証や森林モニタリングなど幅広い分野で研究論文を発表している。

2) 小川 直也

小川直也は、FSC森林認証審査のサポート役としてわが国における審査事例に数多く参加した。アマタ株式会社に所属し、同社の森林認証事業のコーディネーターである。東京大学で森林科学を専攻し農学修士号を取得している。

チームメンバーの履歴はファイルに保管されている。

7.4 監査過程

2009年9月7日

書類審査: 前回年次監査報告書の条件や推奨事項の改善状況の確認

現地審査: 91ろ外(森林文化の森のひとつ、大菩薩の森)、99に7(ヒノキ19年生、21年度除伐作業済み)、99い10(ヒノキ60年生林分を20年度皆伐済み)、99は8(ヒノキ24年生林分、20年度間伐作業済み)、104に4(ヒノキ・アカマツ2段林、受光伐作業中)

2009年9月8日

現地審査: 190ろ10(石合300年の森、見本林)、194い10外(作業道竈掛線、19年度開設)、191る3(ヒノキ25年生林分、20年度枝打済み)、191ぬ3(スギ、ヒノキ50年生林分、20年度収穫間伐、獣害防除済み)、191り1(スギ、ヒノキ45年生林分、21年度保育間伐済み)、191へ6外(貫ヶ岳西林道開設中)、請負業者へのインタビュー、木材市場(南部町森林組合)、関係者に認証材の分別状況等インタビュー

2009年9月9日

現地審査: 41イ7外(県民の森)、42い9(46年生ヒノキ、アカマツ、カラマツ人工林、間伐作業中、請負業者(佐藤林業)へのインタビュー)、42い6・11(皆伐跡地へ21年度にヒノキ再造林済み)

書類審査: 一般規準及びチェックリストによる再確認

審査員の検証ミーティング、結果の発表、条件や推奨事項等の議論、認証過程の次段階の説明

7.5 利害関係者との協議

連絡を取った利害関係者は付属文書2にリストアップされている

利害関係者から寄せられた意見はこの章の「課題」で議論されている。

所見は規準及びチェックリストに記録されている。

7.6 改善要求事項の確認

以前付された条件に関して実行された内容は本レポートの2章で確認されている。

7.7 審査した事項および場所の選択理由

現場審査では、地域、標高、樹種、管理方法などが異なる多様なサイトを第1回年次監査と重ならないよう配慮して選択した。観察した場所には、枝打ち、間伐、収穫、搬出、新植といった各管理段階にわたる管理現場と、林道状況、学術参考林、県民の森などが含まれている。また、実際に作業している請負者の安全装備・労働条件等に関するインタビューも行った。

7.8 製品の追跡、識別

立木で販売する際には、図面で明示するとともに、境界木にはマーキングをすることで現地においても境界を明らかにしている。

市場で販売する際には、伐採から市場までの搬送を請負者に委託するが、伐採は他の森林と同時には行わず、山土場にも他の森林の材を集積させない。また、山土場で集積された丸太は、一式をFSCラベリングバンドで括っている。

森林管理者による2次加工

山梨県は加工を行っていない。

7.9 規準

当該森林はソイルアソシエーション・ウッドマークの一般規準およびチェックリストを用いて審査された。この規準およびチェックリストは日本語に訳され、利害関係者との協議を通して配布された。規準に対して重要な意見を受け取ることはなかった。修正された規準のコピーは要求すれば入手可能である。現在ワーキンググループが国内規準に対して取り組んでおり、将来はこの国内規準を用いてウッドマーク規準を改定する予定である。

規準のコピーはwww.soilassociation.org/forestryにて公開されている。

7.10 規準の適合／修正

以前の審査で使用された規準への変更はなかった。

7.11 範囲の確認

審査チームは現在のFSC認証森林と製品の範囲を確認した。前回の審査から変更はなかった。

7.12 管理状況の変化

審査チームは管理状況の変化を確認した。重要な変化は確認されなかった。

7.13 年次監査の結果

年次監査の結果は、付属文書1規準及びチェックリストに記録されており、不適合事項は本レポート2章に記載されている。また以下の「課題」を参照。

7.14 提示された課題

評価することが難しい事項、または矛盾する証拠が特定されたときには、この章で課題として議論され、以下のとおり結論を得る。

規準	課題
	なし

8.0 第3回年次監査

8.1 年次監査日程

2010年9月8日～10日

8.2 年次監査を実施するための人日数

6人日

8.3 監査チーム

監査チームは以下のとおり構成された。

1) 岩岡 正博

岩岡正博博士は東京農工大学大学院農学研究院の准教授である。東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程を修了して農学修士を取得し、同研究科にて博士(農学)の学位を取得した。東京大学農学部助手、同大学院農学生命科学研究科助手、東京農工大学農学部助手を経て現職。森林利用学、森林利用システム学分野において、林業作業の機械化やエネルギー評価、木質バイオエネルギー生産、林業から見た森林認証制度に関する研究に携っている。

2) 小川 直也

小川直也は、わが国におけるFSC森林認証の審査事例に数多く参加した。株式会社アミタ環境認証研究所に所属し、同社の森林認証事業の審査員である。東京大学で森林科学を専攻し農学修士号を取得している。

チームメンバーの履歴はファイルに保管されている。

8.4 監査過程

2010年9月8日

現地審査: 38に1,に7(ヒノキ4年生、3年生林分、下刈り実施地、豪雨時の林道観察、請負業者(山口林業)へのインタビュー)、35に4(ヒノキ29年生林分、保育間伐、クマ剥皮防除バンド設置)、32ろ3,ろ7(スギ・アカマツ、スギ・ヒノキ混植地、皆伐(立木販売)予定地、県職員の測量実習実施地)

書類審査: 前回年次監査報告書の推奨事項の改善状況を確認

2010年9月9日

現地審査: 520に3(展望広場)、520い10(アカマツ43年生・ヒノキ15年生複層林、ヒノキ初回枝打ち実施地)、520い7(アカマツ47年生・ヒノキ18年生複層林、ヒノキ枝打・除伐実施地、請負業者(八ヶ岳林業)インタビュー)、492に3外(森林文化の森「八ヶ岳の森」、活動状況の説明)、491い1(アカマツ・カラマツ61年生林分、収穫間伐実施済、防火線の下草刈り、請負業者((有)天女山)へのインタビュー)、484と2(カラマツ55年生林分、利用間伐実施地、シカ剥皮防除ベルト設置、土場売り)、484は8,は9,と1(研修林、平成12年から16年までリーダー養成研修を実施)

2010年9月10日

現地審査: 111い10(ヒノキ・カラマツ18年生、除伐実施中、請負業者((有)丸安林業)へのインタビュー)、129い13外(森林文化の森「稲山ケヤキの森」、活動状況の聞き取り)

書類審査: 一般規準及びチェックリストによる再確認

審査員の検証ミーティング、結果の発表、推奨事項等の議論、認証過程の次段階の説明

8.5 利害関係者との協議

連絡を取った利害関係者は付属文書2にリストアップされている

利害関係者から寄せられた意見はこの章の「課題」で議論されている。

所見は規準及びチェックリストに記録されている。

8.6 改善要求事項の確認

以前付された条件に関して実行された内容は本レポートの2章で確認されている。

8.7 審査した事項および場所の選択理由

現場審査では、地域、標高、樹種、管理方法などが異なる多様なサイトをこれまでの訪問現場と重ならないよう配慮して選択した。観察した場所には、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、収穫、搬出、獣害防除、防火線修理といった各管理段階にわたる管理現場と、林道状況、森林文化の森などが含まれている。また、実際に作業している請負者の安全装備・労働条件等に関するインタビューも行った。

8.7.1 訪問したサイトの説明

5章と同

8.8 製品の追跡、識別

立木で販売する際には、図面で明示するとともに、境界木にはマーキングをすることで現地においても境界を明らかにしている。
市場で販売する際には、伐採から市場までの搬送を請負者に委託するが、伐採は他の森林と同時には行わず、山土場にも他の森林の材を集積させない。また、山土場で集積された丸太は、一式をFSCラベリングバンドで括っている。

森林管理者による2次加工

山梨県は加工を行っていない。

8.9 規準

当該森林はソイルアソシエーション・ウッドマークの一般規準およびチェックリストを用いて審査された。この規準およびチェックリストは日本語に訳され、利害関係者との協議を通して配布された。規準に対して重要な意見を受け取ることはなかった。修正された規準のコピーは要求すれば入手可能である。現在ワーキンググループが国内規準に対して取り組んでおり、将来はこの国内規準を用いてウッドマーク規準を改定する予定である。
規準のコピーはwww.soilassociation.org/forestryにて公開されている。

8.10 規準の適合／修正

以前の審査で使用された規準への変更はなかった。

8.11 範囲の確認

審査チームは現在のFSC認証森林と製品の範囲を確認した。前回の審査から変更はなかった。

8.12 管理状況の変化

審査チームは管理状況の変化を確認した。重要な変化は確認されなかった。

8.13 年次監査の結果

年次監査の結果は、付属文書1規準及びチェックリストに記録されており、不適合事項は本レポート2章に記載されている。また以下の「課題」を参照。

8.14 提示された課題

評価することが難しい事項、または矛盾する証拠が特定されたときには、この章で課題として議論され、以下のとおり結論を得る。

規準	課題
	なし

9.0 第4回年次監査

9.1 年次監査日程

2011年11月15日～17日

9.2 年次監査を実施するための人日数

6人日

9.3 監査チーム

監査チームは以下のとおり構成された。

1) 富村周平

富村周平は、東京を拠点とした専門コンサルタントであり、富村環境事務所の代表である。専門分野は森林生態、森林保全、森林計測である。京都府立大学林学科を卒業した後、フランス国立森林中央研究所で森林生態等を学ぶ。現職に就く以前は、アジア航測株式会社に23年間勤め、モロッコ、コートジボワール、パラグアイ、ヨーロッパなどで森林に関する国際的な経験を積む。また、東洋工学専門学校エコロジー科の講師を勤めた。日本において30以上のFM審査の主任審査員を務めている。

2) 汐見 崇史(主任審査員)

汐見崇史は、FSC森林認証審査のサポート役としてわが国における審査事例に数多く参加した。現在は株式会社アマタ環境認証研究所に所属し、同社の森林認証事業の主任審査員である。東京大学で森林科学を専攻し農学修士号を取得している。

チームメンバーの履歴はファイルに保管されている。

9.3.1 報告書作成者

汐見 崇史

9.4 監査過程

2011年11月15日

書類審査: 前回年次監査報告書の推奨事項の改善状況を確認

現地審査:

【124に10、に11、に13】昨年枝打ち、除伐実施。シカ食害対策のバークガード設置。今後の収穫計画のヒアリング。

【124に6、は3】2年前に開設した作業道。最大勾配21度。シカによる下層植生の食害。

【124に7】2年前の皆伐地。昨年地拵え実施。今年シカ柵設置、新植、下刈り実施。

【124は2】昨年の収穫間伐実施地。収穫システムの確認。集材路の確認。

2011年11月16日

現地審査:

【442林班】保護価値の高い森林(大室山のブナ林)において、環境保全施策の確認。モニタリング実施状況の確認。

【サテライト土場】材が運ばれる予定となっている土場の確認。

【429い11】2002年にシラビソ林がトウヒツヅリハマキにより葉の食害を受け、大面積の枯死が起こったサイト。トウヒツヅリハマキの個体数調査。列状間伐及びボランティアによる間伐地への広葉樹植栽。シカの食害状況確認。ヘキサチューブを用いたの獣害対策。

【413は1】列状間伐予定地の搬出道確認。請負業者による集材作業確認。請負業者へのインタビュー。

2011年11月17日

現地審査:

【120か1】地拵え作業中の現場。請負業者(佐藤林業)へのインタビュー。民有林との境界についてヒアリング。

【122ち2】新植地における忌避剤(ヤシマレント)使用地。

【6ろ8外】森林文化の森(県内に12箇所ある森林文化の森のひとつ)。森林体験プログラムについてヒアリング。

書類審査:一般規準及びチェックリストによる再確認

審査員の検証ミーティング、結果の発表、推奨事項等の議論、認証過程の次段階の説明

9.4.1 審査で評価された基準

前回審査時の指摘事項や潜在的な欠点、利害関係者からのコメント、管理や認証範囲の変化、行われている活動に基づき、評価される原則が選択された。全ての原則は4年の年次監査の間に一度は確認される。

以下の原則が評価された。

1,2,4,5,6,9,10

9.5 利害関係者との協議

連絡を取った利害関係者は付属文書2にリストアップされている

利害関係者から寄せられた意見はこの章の「課題」で議論されている。

所見は規準及びチェックリストに記録されている。

9.6 改善要求事項の確認

以前付された条件に関して実行された内容は本レポートの2章で確認されている。

9.7 審査した事項および場所の選択理由

現場審査では、地域、標高、樹種、管理方法などが異なる多様なサイトをこれまでの訪問現場と重ならないよう配慮して選択した。観察した場所には、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、収穫、搬出、獣害防除、防火線修理といった各管理段階にわたる管理現場と、林道状況、森林文化の森などが含まれている。また、実際に作業している請負者の安全装備・労働条件等に関するインタビューも行った。

9.7.1 訪問したサイトの説明

5章と同

9.7.2 確認された記録

苦情

特になかった。

前回審査以来起こった、致命的な森林作業での事故の件数

昨年度は管内での林業作業時事故報告が1件あった。今年度は現在までに2件の報告があった。いずれも軽微なものである。

昨年の化学薬品使用リスト、数量および資料の理由

以下を忌避剤として使用した。

コニファー:2193.11リットル

ヤシマレント:573.42kg

ヤシマNCS:775.57リットル

教育訓練記録

県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業者(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われ、受け口、追い口の作り方について再確認がされた。またこの中で振動障害の予防のために新たな振動障害予防対策の概要等の普及啓発が実施された。

今後12ヶ月の施業計画

今後100年間の方針を含む、今後10年間の県有林管理計画を策定した。

森林経営計画の策定はこれから。

在庫記録

第2次県有林管理計画の年齢別森林資源表が4つの事業区ごとに作成されている。これは最新の森林簿のデータを基に作成している。県有林においては現在の森林簿には小班の測量データが入力されており、毎年更新しているため、非常に正確である。

伐採記録

53,663m³

FSC認証製品の販売記録

53,663m³

グループ認証のみ: 昨年グループ管理者からグループメンバーへ送付された正式な書類

単独認証なので該当しない。

9.8 製品の追跡、識別

立木で販売する際には、図面で明示するとともに、境界木にはマーキングをすることで現地においても境界を明らかにしている。

市場で販売する際には、伐採から市場までの搬送を請負者に委託するが、伐採は他の森林と同時には行わず、山土場にも他の森林の材を集積させない。また、山土場で集積された丸太は、一式をFSCラベリングバンドで括っている。

森林管理者による2次加工

山梨県は加工を行っていない。

9.9 規準

当該森林はソイルアソシエーション・ウッドマークの一般規準およびチェックリストを用いて審査された。この規準およびチェックリストは日本語に訳され、利害関係者との協議を通して配布された。規準に対して重要な意見を受け取ることはなかった。修正された規準のコピーは要求すれば入手可能である。現在ワーキンググループが国内規準に対して取り組んでおり、将来はこの国内規準を用いてウッドマーク規準を改定する予定である。

規準のコピーはwww.soilassociation.org/forestryにて公開されている。

9.10 規準の適合／修正

以前の審査で使用された規準から変更され、指標1.1.4、1.1.5、4.2.10、5.3.4、5.3.5、5.3.6、5.5.4、6.9.4が日本の国内基準から抜粋され追加された。

9.11 範囲の確認

審査チームは現在のFSC認証森林と製品の範囲を確認した。前回の審査から変更はなかった。

9.12 管理状況の変化

審査チームは管理状況の変化を確認した。重要な変化は確認されなかった。

9.13 年次監査の結果

年次監査の結果は、付属文書1規準及びチェックリストに記録されており、不適合事項は本レポート2章に記載されている。また以下の「課題」を参照。

9.14 提示された課題

評価することが難しい事項、または矛盾する証拠が特定されたときには、この章で課題として議論され、以下のとおり結論を得る。

規準	課題
	なし

ANNEX 1 GENERIC CHECKLIST

付属文書1 一般チェックリスト

NB - this checklist should be used in conjunction with the verifiers and guidance in the Woodmark Generic Standard

記号の説明

- MA 本審査 (Main Assessment)
- S1 第1回年次監査 (Surveillance 1)
- S2 第2回年次監査 (Surveillance 2)
- S3 第3回年次監査 (Surveillance 3)
- S4 第4回年次監査 (Surveillance 4)

Adapted Standard version: 適合規格バージョン:
2.0
Region/Country: 地域/国:
Japan 日本
Adapted Standard date: 適合日:
October 2010 2010年10月
Summary of changes since the previous audit: 前回審査以降の規格変更概要:
Indicators 1.1.4, 1.1.5, 4.2.10, 5.3.4, 5.3.5, 5.3.6, 5.5.4 and 6.9.4 were extracted from Japanese national standard draft 8 and added to the Soil Association Woodmark International Generic Standard and Checklist. 指標 1.1.4, 1.1.5, 4.2.10, 5.3.4, 5.3.5, 5.3.6, 5.5.4, 6.9.4 が日本の国内基準から抜粋され追加された。

ADDITIONAL REQUIREMENTS		
補足的な要求事項		
A	SECTION A: FSC TRADEMARK USE FSC-STD-50-001 Requirements for use of the use of the FSC trademarks by certificate holders	no score
	セクションA: FSCトレードマーク FSC-STD-50-001 認証取得者によるFSCトレードマークの使用に関する要求事項	採点対象外
A.1	On product trademark use	n/a
	認証製品用トレードマーク使用	
A.1.1	Have all on product trademark designs been approved by Woodmark? <i>List the on-product label approvals by product group e.g. label for use as log tag approved 5.5.09</i>	
	全てのトレードマークデザインはウッドマーク/アマタ環境認証研究所により承認されているか。 製品グループごとの製品ラベル承認記録を記載すること。例: 2009年5月5日に承認された丸太タグ用のラベル。	
	MA	
	S1	
	S2	
	S3	
	S4 全てのトレードマークデザインはAIEC/ウッドマークにより承認されていた。トレードマーク使用記録はすべて一覧として提出された。2011年1月24日承認の県有林材出荷用ビニールバンド等。 All the trademark designs had been approved by AIEC/Woodmark. A record of the use of the trademarks was submitted as a list. The list included the use of vinyl bands for the shipment of timber harvested in prefectural forests, which was approved on January 24th, 2011.	✓
A.2	Promotional trademark use	n/a
	広告宣伝用トレードマーク使用	
A.2.1	Certificate holders promoting FSC certified forests shall indicate the certified forest area as defined by the scope of the FSC certificate.	
	FSC認証林の広告宣伝をする認証取得者は認証範囲に含まれる森林を示さなければならない。	
	MA	
	S1	
	S2	
	S3	

S4	山梨県では貸地を除いた県有林が認証されている。広告宣伝用のトレードマークを使用する際には常に認証範囲が明らかになっていた。 All the forests owned by Yamanashi Prefecture except land to let are certified. The scope of certification was shown clearly whenever the trademark for advertisement was used.	✓
----	--	---

A.2.2	Have all promotional trademark designs been approved by Woodmark? <i>List the promotional trademark approvals e.g. website approved 15.4.09, invoice template approved 4.2.09</i>	
	全てのトレードマークデザインはウッドマーク/アマタ環境認証研究所により承認されているか。製品グループごとの広告宣伝用トレードマークの承認記録を記載すること。例:2009年4月15日に承認された請求書の様式。	
MA		
S1		
S2		
S3		
S4	全てのトレードマークデザインはAIEC/ウッドマークにより承認されていた。トレードマーク使用記録はすべて一覧として提出された。2011年5月31日承認のホームページ等。 All the trademark designs had been approved by AIEC/Woodmark. A record of the use of trademarks was submitted as a list. The list included the use of the trademark on their website, which was approved on May 31st, 2011.	✓

FSC ref 規格番号	Criteria/Norm 基準	Score 得点	CAR 改善要求
-----------------	---------------------	-------------	-------------

SCORING SUMMARY 得点の集計		
FSC PRINCIPLE #1: COMPLIANCE WITH LAWS AND FSC PRINCIPLES Forest management shall respect all applicable laws of the country in which they occur, and international treaties and agreements to which the country is a signatory, and comply with all FSC Principles and Criteria.		4.4
FSC原則#1: 法律とFSCの原則の順守 森林管理は、日本の全ての法律及び日本が調印した全ての国際条約や合意を順守する。また、「FSCの原則と規準」にも従う。		
FSC PRINCIPLE #2: TENURE AND USE RIGHTS AND RESPONSIBILITIES - Long-term tenure and use rights to the land and forest resources shall be clearly defined, documented and legally established.		3.8
FSC原則#2: 保有権、使用权および責務 土地や森林資源に関する、長期にわたる保有や使用の権利は、明確に規定されるとともに文書化され、また法的に確立されること。		
FSC PRINCIPLE #3: INDIGENOUS PEOPLES' RIGHTS - The legal and customary rights of indigenous peoples to own, use and manage their lands, territories, and resources shall be recognised and respected.		NA
FSC原則#3: 先住民の権利 先住民が、彼らの土地やテリトリー、資源を所有、利用、そして管理する法的及び慣習的権利が認められ、尊重されること。		
FSC PRINCIPLE #4: COMMUNITY RELATIONS AND WORKER'S RIGHTS Forest management operations shall maintain or enhance the long-term social and economic well-being of forest workers and local communities.		3.5
FSC原則#4: 地域社会との関係と労働者の権利 森林管理は、林業に従事するものと地域社会が、長期にわたり社会的、そして経済的に十分な便益を得られる状態を継続、あるいは高めるものであること。		
FSC PRINCIPLE # 5: BENEFITS FROM THE FOREST Forest management operations shall encourage the efficient use of the forest's multiple products and services to ensure economic viability and a wide range of environmental and social benefits.		3.3
FSC原則#5: 森林のもたらす便益 森林管理は、経済的な継続性と、環境や社会が享受しているさまざまな便益とを確保できるよう、森林から得られる多様な生産物やサービスの効果的な利用を促進するものであること。		

<p>PRINCIPLE #6: ENVIRONMENTAL IMPACT Forest management shall conserve biological diversity and its associated values, water resources, soils, and unique and fragile ecosystems and landscapes, and, by so doing, maintain the ecological functions and the integrity of the forest.</p>	3.9
<p>FSC原則 #6 : 環境への影響 森林管理は、生物の多様性とそれに付随する価値、水資源、土壌、そしてかけがえのない、しかも壊れやすい生態系や景観を保全し、生態学的な機能や森林の健全さを維持するものであること。</p>	
<p>FSC PRINCIPLE #7: MANAGEMENT PLAN A management plan -- appropriate to the scale and intensity of the operations -- shall be written, implemented, and kept up to date. The long term objectives of management, and the means of achieving them, shall be clearly stated.</p>	4.0
<p>FSC原則 #7 : 管理計画 森林において実施される事業の規模と内容に応じた適切な管理計画が文書化され、それに沿って事業が実施され、また、常に更新されること。また、長期的な見地に立った管理目標、目標達成のための手段が明確に提示されること。</p>	
<p>FSC PRINCIPLE #8: MONITORING AND ASSESSMENT Monitoring shall be conducted -- appropriate to the scale and intensity of forest management -- to assess the condition of the forest, yields of forest products, chain of custody, management activities and their social and environmental impacts.</p>	4.0
<p>FSC原則 #8 : モニタリングと評価 森林管理の規模と内容に応じた適切なモニタリングが、森林の状態、林産物の生産量、生産・加工・流通各段階、管理作業およびそれらが社会や環境に与える影響を評価するために行われること。</p>	
<p>FSC PRINCIPLE #9: MAINTENANCE OF HIGH CONSERVATION VALUE FORESTS Management activities in high conservation value forests shall maintain or enhance the attributes that define such forests. Decisions regarding high conservation value forests shall always be considered in the context of a precautionary approach.</p>	4.0
<p>FSC原則 #9 : 保護価値の高い森林 (HCVF) の保存 保護価値の高い森林の管理は、その森林の特質を維持、または高めるものでなければならない。保護価値の高い森林に関する決定は、常に慎重に行わなければならない。</p>	
<p>FSC PRINCIPLE #10: PLANTATIONS Plantations shall be planned and managed in accordance with Principles and Criteria 1 - 9, and Principle 10 and its Criteria. While plantations can provide an array of social and economic benefits, and can contribute to satisfying the world's needs for forest products, they should complement the management of, reduce pressures on, and promote the restoration and conservation of natural forests.</p>	3.9
<p>FSC原則 #10 : 植林 植林は、原則の1から9及び原則10とその規準に従って計画および管理されるものとする。植林は、社会的、そして経済的便益を提供し、世界の林産物需要を満たすとともに、自然林の管理を補助し、自然林への利用圧を軽減し、その復元および保全を推進するものであること。</p>	

1		FSC PRINCIPLE #1: COMPLIANCE WITH LAWS AND FSC PRINCIPLES Forest management shall respect all applicable laws of the country in which they occur, and international treaties and agreements to which the country is a signatory, and comply with all FSC Principles and Criteria.	4.4
		FSC原則 #1 : 法律とFSCの原則の順守 森林管理は、日本の全ての法律及び日本が調印した全ての国際条約や合意を順守する。また、「FSCの原則と規準」にも従う。	
1.1		Forest management shall respect all national and local laws and administrative requirements. FSC規準1.1 : 森林管理は、全ての国際法、国内法及び各自治体の条例や行政的要求事項を順守する。	5
1.1.1		There is no evidence of outstanding claims of non-compliance with national and local laws and administrative requirements related to forest management. 森林管理に関連した国や地域の法律、行政上の要求事項に関して違反はない。	
	MA	以下の国内の主要法を認識し文書として保管している。 森林・林業基本法 森林法 森林組合法 森林病虫害等防除法 砂防法 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律自然環境保全法 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 林道規定 労働安全衛生法 農薬取締法 種苗法 分収林特別措置法 租税特別措置法 また法指定区域の各種図面を有し、森林簿上でも記載している。 The major laws listed below are recognised and documents of them are kept. Basic Law for Forest and Forestry Forest Law Forestry Association law Forest Pest and Disease Control Law Erosion Control Law Wildlife Protection and Hunting Law Natural Environment Conservation Law the Law for the Conservation of Endangered Species of Wild Fauna and Flora Forest Road Regulation Labor Safety and Sanitation Law Agricultural Chemicals Regulation Law Seeds and Seedlings Law Profit-sharing Forest Special Measures Law Tax Special Measures Law Also, they have maps of designated area by laws, and those areas are recorded in the forest register.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
1.1.2		Forest managers demonstrate awareness of relevant codes of practice, guidelines or agreements. 森林管理者は、関連する行動規準、指針、合意等に対する認識を有している。	
	MA	十分に認識している。 Recognised adequately.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
1.1.3		There is no evidence of non-compliance with the spirit of any relevant codes of practice, guidelines or agreements. 関連する行動規準、指針、合意等の精神に従っていないという事実はない。	
	MA	従っている。 They comply with these.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	

	S4	同上 Same as above.	✓
--	----	----------------------	---

1.1.4		Management shall keep legal documents, and at least one person shall bear responsibility for managing and making changes to lists of laws.NS Japan 2007 Draft 8 1.1.3) 法関係の書類は保管され、少なくとも一人は法令集の管理や更新に責任をもつこと	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	本庁で保管している。維持更新は担当の吉原氏を中心に県職員が行っている。 Legal documents are kept in the main office of the prefectural government. Prefectural government's employees led by Ms. Yoshihara maintain and revise the documents.	✓

1.1.5		Management shall make employees and workers aware of the relevant laws, etc.(NS Japan 2007 Draft 8 1.1.5) 関与する法令等については従業員・作業員への周知を図ること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	通知文、研修会等で周知している。 They inform employees and workers of the relevant laws, etc. at workshops, announcement, etc.	✓

1.2		All applicable and legally prescribed fees, royalties, taxes and other charges shall be paid. 関連する法的に規定された料金、ローヤリティ、税そして他の費用は、全て払わなければならない。	5
1.2.1		Forest managers can provide evidence that applicable fees, royalties, taxes and other applicable charges have been paid. 森林管理者は料金、特許権使用料、税金そのほかの該当する費用等の支払い証拠を提出することができる。	
	MA	消費税申告、職員への給料、請負業者への請負費用、恩賜林保護団体(財産区、市町村、組合)への交付金などの支払いは適正に行われている。 所在市町村交付金を市町村に支払っている。固定資産税に代わるものとしての意味合い。 Payment of fees such as consumption tax, salary for staff, contract fee for subcontractors, subsidy for Imperial-granted forest protection group (financial ward, city, town and village, association) are done appropriately.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.3		In signatory countries, the provisions of all binding international agreements such as CITES, ILO Conventions, ITTA, and Convention on Biological Diversity, shall be respected. CITES (ワシントン条約)、ILO条約、ITTA(国際熱帯木材協定)、生物多様性条約等の国際的取り決めへの加盟国は、それらで、規定されているすべての事項に従わなければならない。	4
1.3.1		Forest managers implement appropriate controls to ensure that CITIES provisions are respected. 森林管理者はその地域のワシントン条約 (CITES) を認識し、その規定を順守するに相応しい活動を行っている。	
	MA	ワシントン条約記載種は取り扱っていないため該当しない Not applicable, as they do not handle any species on the CITES list.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	n/a

1.3.2		Forest managers implement appropriate controls to ensure that ILO provisions appropriate to their region are respected. Implementation of the following ILO conventions is a minimum requirement for certification : 29, 87, 97, 98, 100, 105, 111, 131, 138, 141, 142, 143, 155, 169, 182, ILO Code of Practice on Safety and Health in Forest Work, Recommendation 135, Minimum Wage Fixing Recommendation, 1970. 森林管理者はその地域に該当するILO条約を認識し、その規定を順守するに相応しい活動を行っている。ILO条約87と98の実行は、認証の為の最低限の条件である。	
	MA	労働者の権利は国内法で定められており、遵守されている。 公務員の団体交渉権は法律で認められていない。 請負業者の団体交渉権行使の有無は確認していない。小規模事業者なので労働組合はないと思われる。 Worker's rights are required by law and protected. The right to bargain collectively of government workers is not permitted by law. The fact if workers of contracted companies enforce the right to bargain had not been confirmed. It seems workers unions are not formed because all contracted companies are small.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.3.3		No child labour is used, national minimum age provisions are adhered to. 児童労働は行われていない。最低賃金は守られている。	
	MA	児童労働は行われていない。最低賃金は守られている。 No child labour is used, national minimum age provisions are adhered to.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上。 Same as above.	✓

1.3.4		There is no forced labour or debt bondage. 強制労働や借金による拘束は行われていない。	
	MA	強制労働や借金による拘束は行われていない。 There is no forced labour or debt bondage.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.3.5		Forest managers implement appropriate controls to ensure that implications of ITTA provisions appropriate to their region are respected. 森林管理者はその地域のITTA (国際熱帯木材協定) を認識し、その規定を順守するに相応しい活動を行っている。	
	MA	日本はITTAに調印しているが、当地域では熱帯木材の取引はないため、該当しない Not applicable: although Japan has signed the ITTA, no tropical timber is handled in this region.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	n/a

1.3.6		Forest managers implement appropriate controls to ensure that provisions of the Convention on Biological Diversity applicable in their region are respected. 森林管理者はその地域に該当する生物多様性条約を認識し、その規定を順守するに相応しい活動を行っている。	
	MA	国・県のレッドデータブックに従い、貴重な動植物の保護が図られている。 Rare plants and animals are protected in accordance with the red data book by national and prefectural government.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.3.7		Forest managers implement appropriate controls to ensure that other appropriate international agreements are respected. 他の国際協定も順守されている。	
	MA	その他特に該当する国際協定はない。 No other applicable international agreements to be noted.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	n/a

1.4		Conflicts between laws, regulations and the FSC Principles and Criteria shall be evaluated for the purposes of certification, on a case by case basis, by the certifiers and the involved or affected parties. 法令と「FSCの原則と規準」とが整合しない場合は、認証の目的に沿って、認証機関及び関連組織により状況に応じた評価がされなければならない。	NA
1.4.1		Conflicts between laws, regulations and the FSC Principles and Criteria are identified and evaluated by the forest managers, and brought to the attention of the inspection team. 法律、規定と「FSCの原則と規準」の間の摩擦は森林管理者によって特定され、これは認証審査チームの承知事項でなければならない。	
	MA	公務員の団体交渉権は法律で認められていないが、労働者の権利は国内法(労働基準法)で守られている。 Although the right to bargain collectively of government workers is not permitted by law, worker's rights are protected by national law (Labor Standard Law).	NA
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.5		Forest management areas should be protected from illegal harvesting, settlement and other unauthorised activities. 対象となる森林管理地域は、不法伐採や移住、またその他の無許可の行為から保護されなければならない。	4
1.5.1		The forest management unit is protected from harvesting activities and other activities not controlled by forest managers or local people with use rights (e.g. settlement, illegal harvesting, poaching). 管理対象の山林は、森林管理者または使用権を持つ地元の人々の管理下でない収穫などの行為(植民、違法収穫、密猟など)から保護されている。	
	MA	保護団体による管理、森林保全巡視事業による巡視が行われている。 入山希望者には入山許可を発行している。 林道のモニターも行われている。 他部署で不法投棄監視パトロールを行っている。各市町村でも行っているところがある。 現地でも未許可の行為は観察されなかった。 Management by protection group and patrol by forest conservation patrol work is conducted. Entry permission is issued to those who want to enter the forest. Forest roads are also monitored. Patrol to monitor illegal dumping is conducted by another department. Some cities, towns and villages are also patrol. No unauthorised activity was observed on site.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.5.2		Systems to identify and prevent unauthorised activities are in place. 未許可の行為をモニタリング・阻止するシステムが存在する。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.5.3		Managers have taken measures to stop illegal or unauthorised uses of the forest. 管理者は森林における違法または未許可の行為を阻止する対策を実行している。	
	MA	上記システムが実施されている。 The systems mentioned above are implemented.	✓

	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

1.6		Forest managers shall demonstrate a long-term commitment to adhere to the FSC Principles and Criteria. 森林管理者は、「FSCの原則と規準」を長期にわたり厳守することを証明しなければならない。	4
1.6.1		Forest managers shall provide a documented statement declaring their long-term commitment to comply with FSC Principles and Criteria. 森林管理者は長期にわたってFSC原則と規準に従うこととする声明を出さなければならない。	
	MA	県有林管理計画で謳っている。P1「はじめに」、p45「4-4 FSC森林管理認証を活用した管理」知事の議会答弁でも以前に公式に表明した。 It is declared in the prefectural forest management plan. P1 'Introduction', p45 '4-4 Management utilising forest management certification'. The governor of the prefecture declared officially in prefectural assembly statement before.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	第2次県有林管理計画で謳っている。P49「FSC森林管理認証を活用した管理」 It is declared in the prefectural forest management plan p49 'Management utilising forest management certification'.	✓

1.6.2		Forest managers shall declare any areas under their control but not included within the scope of the certification evaluation. 森林管理者は管理下にあつて認証審査の範囲に含まれていない場所について示さなければならない。	
	MA	他団体への貸付地等は管理下にないため、15,253haの県有林が認証の範囲から除外されている。 15,254ha is excluded from the scope of the certification because these areas are lent to other organisations and out of their management.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	他団体への貸付地等は管理下にないため、15,246haの県有林が認証の範囲から除外されている。 15,246ha is excluded from the scope of the certification because these areas are lent to other organisations and out of their management.	✓

2		FSC PRINCIPLE #2: TENURE AND USE RIGHTS AND RESPONSIBILITIES - Long-term tenure and use rights to the land and forest resources shall be clearly defined, documented and legally established.	3.8
		FSC原則#2：保有権、使用権および責務 土地や森林資源に関する、長期にわたる保有や使用の権利は、明確に規定されるとともに文書化され、また法的に確立されること。	
2.1		Clear evidence of long-term forest use rights to the land (e.g. land title, customary rights, or lease agreements) shall be demonstrated.	4.5
		対象となる土地を長期にわたり森林として使用する権利（土地の所有権、慣習上の権利、賃貸契約など）が明確に証明されていなければならない。	
2.1.1		Legal ownership or tenure can be proved and is not subject to dispute.	
		法的所有権または保有権の証明が可能で、争議の対象になっていない。	
	MA	恩賜県有財産模範林という登記が登記簿上でなされている。 Prefectural forests are registered as Imperial-granted Prefctural Property Exemplary Forest.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.1.2		A map is available clearly showing legal boundaries.	
		法的な境界線を明確に表した地図がある。	
	MA	境界延長は2400kmある。 境界測量を1913年から1918年に行っている。 1958年から1989年に境界確認を行っている。コンクリートの境界標柱や自然石を目印とし、主要点には御影石の標識を設置している。 重要度に応じ2年、4年、または10年ごとに1回、境界保全巡視事業により巡視を行っている。 過去には争議があったが現在はない。 The total length of boundaries is 2400km. Boundary surveys were conducted from 1913 to 1918. Boundary confirmation was done from 1958 to 1989. Boundary pole and natural rocks are used as landmarks, and granite marks are set on the major points. In accordance with the importance, boundaries are confirmed once every two, four or ten years. There was a dispute in the past but not any now.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	境界延長は2544kmある。 境界測量を1913年から1918年に行っている。 1958年から1989年に境界確認を行っている。コンクリートの境界標柱や自然石を目印とし、主要点には御影石の標識を設置している。 重要度に応じ2年、4年、または10年ごとに1回、境界保全巡視事業により巡視を行っている。 The total length of boundaries is 2544km. Boundary surveys were conducted from 1913 to 1918. Boundary confirmation was done from 1958 to 1989. Boundary pole and natural rocks are used as landmarks, and granite marks are set on the major points. In accordance with the importance, boundaries are confirmed once every two, four or ten years.	✓

2.1.3		Land is dedicated to long term forest management.	
		森林管理を行っている土地の長期的維持に努めている。	
	MA	長期的に維持する方針である。 林地を道路用地等、公共・公益利用に提供することがある。その際の売り払い代金を基金とし、他の場所を買付けることにより、合計面積を減らさないようにしている。 There is a long maintenance policy. A part of forest is provided sometimes for public use such as road construction. At that time income goes into a fund which is used for purchasing of other land, so that total area is not decreased.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.1.4		Communities have clear, credible and officially recognised evidence, endorsed by the communities themselves, of collective ownership and control of the lands they customarily own or otherwise occupy and use.	
		地域社会は、採集の権利や、伝統的に土地の所有または占有、使用している土地の管理について、明確で、信頼性があり、公式に認められた証拠を所持しており、それは地域社会自身によって承認されている。	
	MA	該当しない Not applicable	NA
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	n/a

2.2		Local communities with legal or customary tenure or use rights shall maintain control, to the extent necessary to protect their rights or resources, over forest operations unless they delegate control with free and informed consent to other agencies.	3.5
		地域社会（住民）の法的、慣習的保有権あるいは使用権は、地域社会（住民）が森林施業を行う上で必要な権利や資源が確保される範囲で行使されるべきである。ただし、地域社会が、自由意志により、同意を行った上で、管理を他の機関に委託した場合を除く。	
2.2.1		All legal or customary tenure or use rights to the forest resource of all local communities are clearly documented and mapped by the forest managers.	
		地域社会の森林資源全ての法的又は慣習的保有権または使用権は、森林管理者によって明確に文書化・地図化されている。	
	MA	山梨県恩賜県有財産管理条例、山梨県恩賜県有財産土地利用条例などで定めている。従来からの入会慣行を各地域の保護団体に認めており、希望する限り、永世、毎年、草木の払い下げをしている。 It is regulated by Yamanashi prefecture Imperial-granted prefectural property management regulations and Yamanashi prefecture Imperial-granted prefectural property use regulations. The customary practice is permitted to protection group in each area, and trees and plants are given to them every year, which will continue permanently if they wish.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.2.2		All legal or customary tenure or use rights to the forest resource of all local communities are recognised and respected in forest management planning and practice.	
		地域社会の森林資源全ての法的または慣習的保有権または使用権は、森林管理計画とその実践において認められ尊重されている。	
	MA	同上。尊重されている。 Same as above. Respected.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.2.3		Forest managers provide local communities control over forest operations to the extent necessary to protect their rights and resources.	
		地域社会の権利と森林資源を守るのに必要な範囲内において、地域社会は森林施業に携わっている。	
	MA	保護団体が巡視等の義務を負い、実施している。保護団体には交付金が支払われている。 Protection groups are under obligation to patrol. Subsidy is paid to them.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.3		Appropriate mechanisms shall be employed to resolve disputes over tenure claims and use rights. The circumstances and status of any outstanding disputes will be explicitly considered in the certification evaluation. Disputes of substantial magnitude involving a significant number of interests will normally disqualify an operation from being certified.	3.5
		保有権に関しての主張や使用権に関する論争を解決するため、適切な手段が講じられなければならない。認証評価の際には、あらゆる未解決論争についての詳細や状況が全て考慮に入れられる。重大な利害関係を含む重要な論争が未解決の場合、通常、管理に関する認証は不的確とされる。	
2.3.1		Mechanisms exist for resolution of disputes between the forest managers and the local community over tenure claims and use rights.	
		森林管理者と地域社会間の保有権・使用権の争議を解決するために相応しいシステムが存在する。	
	MA	口頭受理用紙で、口頭で受けた意見を正式に受け付けるシステムがある。 文書開示請求があれば条例に従い応じる。 クイックアンサー制度が2007年2月から始まり、県民からの質問や意見に対し1週間以内に回答する仕組みができています。 境界管理を行うことで争議を未然に防いでいる。 There is a system to accept oral opinion formally by using oral opinion acceptance sheet. If there is a requirement to make documents open, they will do so in accordance to the regulation. 'Quick Answer System' started from February 2007. Government staff answer to questions and opinions from citizens within one week. Disputes are prevented by managing boundaries.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
2.3.2		Mechanisms for dispute resolution are respected in the event of any dispute between local communities and forest managers regarding tenure claims and use rights.	
		地域社会と森林管理者との間の保有権・使用権の争議の際には、争議解決システムが尊重されている。	
	MA	上記システムが尊重されている。 The systems mentioned above are respected.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
2.3.3		Management policy and operational procedures exist which require that, in case of a dispute or disagreement between the local community and the forest managers concerning land rights, forestry operations which prejudice the future enjoyment of such rights by the community are halted until the dispute is resolved.	
		地域社会と森林管理者間の土地の権利に関する争議で、地域社会の将来的な権利を保証しない森林管理業務は、争議の解決をみるまでは停止されることを規定する管理指針や手順が存在する。	
	MA	争議が解決するまでは施業を停止する。 Forest operations will be stopped until dispute is resolved.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
2.3.4		Forest managers provide access to forest resources for local communities without legal or customary land rights, where such access does not prejudice the achievement of management objectives.	
		森林管理の目標、目的を侵害しない範囲において、法的あるいは、慣習的権利を有さない地域社会に対しても、森林資源にアクセスできるよう、努力が図られている。	
	MA	山菜採取や登山等が認められている。 Wild plant collection and mountain climbing is permitted.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

2.3.5		There is no evidence of any unresolved dispute of substantial magnitude involving a significant number of interests regarding tenure and use rights	
		保有権・使用権に関する未解決の重大な争議は見あたらない。	
	MA	重大な争議はない。 There is no major dispute.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

3		FSC PRINCIPLE #3: INDIGENOUS PEOPLES' RIGHTS - The legal and customary rights of indigenous peoples to own, use and manage their lands, territories, and resources shall be recognised and respected.	NA
		FSC原則#3：先住民の権利 先住民が、彼らの土地やテリトリー、資源を所有、利用、そして管理する法的及び慣習的権利が認められ、尊重されること。	
	MA	日本の先住民として知られているのはアイヌの人々であり、北海道ではこの問題が出てくるが、この地域とその周辺には先住民がいない。したがって原則3は該当しない。 In Japan Ainu people are known as indigenous people. Because they have lived in Hokkaido, there may be some issues in Hokkaido. However, there are no indigenous peoples in the vicinity of the management area, thus Principle 3 is not applicable.	NA
3.1		Indigenous peoples shall control forest management on their lands and territories unless they delegate control with free and informed consent to other agencies.	
		先住民の土地やテリトリーについては、先住民が森林管理の統御を行えるものとする。ただし、先住民が、自由意志により、情報に基づいた同意をしたうえで、管理を他の機関に委託している場合を除く。	
3.1.1		3.1.1 The identity, location and population of all indigenous and traditional peoples including migratory groups living in the vicinity of the management area are documented by the forest managers.	
		管理区域の付近に住む、移住性のグループを含む全ての先住民や伝統民の独自性、居住地、人口は森林管理者により文書化されている。	

3.1.2		All claims to lands, territories or customary rights within the management area are documented and/or clearly mapped.	
		管理区域内の土地、テリトリー、または慣習的権利に関する全ての要求事項は文書化され明確に地図化されている。	

3.1.3		3.1.3 The communities concerned have identified themselves as indigenous or tribal	
		関係する地域社会は自分自身を先住民または部族と認識している。	

3.1.4		Forest management operations do not take place in areas identified in norm 3.1.2 above, without clear evidence of the free and informed consent of the indigenous or traditional peoples claiming such land, territory or customary rights.	
		上の規準3.1.2で地図化される地域においては、その土地、テリトリーまたは慣習的権利を要求する先住民の、情報に基づいた自由意志による同意がないかぎり、いかなる種類の森林管理施業も行われぬ。	

3.2		Forest management shall not threaten or diminish, either directly or indirectly, the resources or tenure rights of indigenous peoples.	
		森林管理は、直接的あるいは間接的を問わず、先住民の使用資源を脅かしてはならないとともに縮小してはならない。	
3.2.1		Before a forestry operation under outside management commences near an indigenous people's lands, any potential shared boundaries of the community's lands shall be physically demarcated under the supervision of the community.	
		先住民の土地付近において、管理外の施業であっても、そのような作業が行われる前には、地域社会の有する潜在的な土地利用を調べ、地域社会の監視の下、物理的に明確な境界を定めなければならない。	

3.2.2		The forestry management operation shall document any potential threats, direct or indirect, to the resources or rights of such indigenous peoples (e.g. disturbance to water resources and wildlife).	
		森林施業が及ぼす、先住民の資源や権利への直接的・間接的な影響について文書化しなくてはならない（例：水源、野生生物の攪乱）。	

3.2.3		The forestry management operation shall have documented policies and procedures to prevent any encroachment, or direct or indirect threat to the resources or rights of such indigenous peoples.	
		森林管理が及ぼす、先住民の資源や権利への侵害や直接的・間接的な影響を防止するために、文書化された適切な方針と手順を所持しなくてはならない。	

3.2.4		Traditional access for subsistence uses and traditional activities is granted	
		先住民の土地の、またはその近くの、彼らが有する資源に対する不慮の損害に対しては、彼ら自身の地域社会が定めた基準によって補償されなくてはならない。	

3.3		Sites of special cultural, ecological, economic or religious significance to indigenous peoples shall be clearly identified in co-operation with such peoples, and recognised and protected by forest managers.	
		FSC規準3.3: 先住民にとり、文化的、生態的、経済的あるいは宗教的に重要な意味をもつ特別な土地に関しては、先住民との間で明確に確認されなければならない。また、森林管理者はこれを承認するとともに、保護しなければならない。	

3.3.1		Policies and procedures for the identification, recording and mapping of sites of archaeological, religious, historical or other cultural sensitivity prior to the commencement of forest management activities in the forest management area as a whole are documented and have been implemented.	
		森林管理を始める前までに、管理区内における考古学的、宗教的、歴史的、その他文化的に重要な土地の特定、記録、地図化に関する方針と手順は文書化され、実践されている。	

3.3.2		The policies and procedures include the involvement of Indigenous peoples in the identification of such areas.	
		方針と手続きには、そのような土地の確認に先住民が参加することも含まれている。	

3.3.3		Policies and procedures for the identification and protection of such sites during management operations (e.g. harvesting, road building, etc) are documented and implemented.	
		森林管理施業（例：収穫、林道建設など）が行われる間に実施される、そのような土地の特定と保護に関する方針と手順は文書化され実践されている。	

3.3.4		Policies and procedures for the appropriate protection or management of identified sites are documented and implemented.	
		特定された土地の適切な保護や管理に関する方針や手順は、文書化され実践される。	

3.3.5		All plans for the protection or management of such sites are subject to the full and informed consent of representatives of indigenous peoples.	
		そのような土地の保護や管理に関する全ての計画は、先住民の代表の、情報に基づいた十分な賛同を得なくてはならない。	

3.4		Indigenous peoples shall be compensated for the application of their traditional knowledge regarding the use of forest species or management systems in forest operations. This compensation shall be formally agreed upon with their free and informed consent before forest operations commence.	
		FSC規準3.4: 先住民は、彼等が持つ森林に生息する種の利用方法や、森林の管理方法に関する伝統的な知識が使用された場合には、それらについての代償を受けなければならない。この代償については、森林管理を開始する以前に、先住民の、自由意志による、情報に基づいた正式な同意を得なければならない。	

3.4.1		Managers have recorded known applications of traditional knowledge (e.g. regarding the use of forest species or management systems) in the forest operations.	
		管理者は森林施業への伝統的な知識の適用について全て記録している。（例：森林生物種の使用または管理システムに関して）	

3.4.2		Local communities have been informed of such applications, including the potential commercial benefits of such applications to the forest management enterprise.	
		地域社会は、そのような適用から生じる森林管理主体への潜在的な商業的利益を含めて全て、説明を受けている。	

3.4.3		Local communities are compensated for any such applications, in accordance with prior agreements.	
		地元社会は、事前合意にもとづき、そのような適用について十分に補償されている。	

4		FSC PRINCIPLE #4: COMMUNITY RELATIONS AND WORKER'S RIGHTS Forest management operations shall maintain or enhance the long-term social and economic well-being of forest workers and local communities.	3.5
		FSC原則 #4 : 地域社会との関係と労働者の権利 森林管理は、林業に従事するものと地域社会が、長期にわたり社会的、そして経済的に十分な便益を得られる状態を継続、あるいは高めるものであること。	
4.1		The communities within, or adjacent to, the forest management area should be given opportunities for employment, training, and other services.	4
		森林管理区域内の地域社会、もしくは隣接する地域社会に、雇用、訓練そして他のサービスを受ける機会が与えられなければならない。	
4.1.1		Local and forest-dependent people have equal access to employment and training opportunities.	
		地元または森林に依存している人々には雇用や訓練の機会が等しく与えられなければならない。	
	MA	造林作業は、山梨県に登録されている県内業者が請負契約で行っている。その請負業者は58社である。山梨県森林総合研究所では研修事業を実施している。 Forestry operations are contracted to companies which are registered in Yamanashi prefecture. There are 58 companies. Training sessions are made at the Yamanashi Forest Research Institute.	✓
	S1	同上。請負業者数は昨年と同様58社である。 Same as above. The number of contractors is 58, the same as that of last year.	✓
	S2	同上。現在の請負業者数は57社である。 Same as above. The number of contractors is 57 currently.	✓
	S3	同上。現在の請負業者数は53社である。 Same as above. The number of contractors is 53 currently.	✓
	S4	同上。現在の請負業者の登録者数は56社(登録社数107社)である。県という立場上それぞれに均等な機会を与えて入札発注している。 Same as above. The number of contractors is 56 (107 registered) currently. As the certificate holder is a public authority, equal access of bidding is given to all.	✓
4.1.2		Appropriate to the size, type and location of the forest management enterprise, members of local communities are provided with access to basic services (e.g. health and education). All reasonable efforts, appropriate to the size, type and location of the forest management enterprise, are made to ensure that members of local communities have access to basic services (e.g. health and education).	
		森林管理主体の規模、種類、場所に相応な範囲で、地域社会の住民に健康や教育といった基本的なサービスを提供しなければならない。	
	MA	県で一般向けにさまざまな教室を行っている。 Many kinds of workshops are conducted by the prefecture targeting public people.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	県民の森や森林文化の森でのワークショップ等がある。 Workshops, etc. are held in Kenmin-no-mori (citizen's forest) and the forest culture forest.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓
4.1.3		Workers are not discriminated in hiring, advancement, dismissal, remuneration and employment related social security	
		労働者は雇用、昇進、解雇、雇用に関する社会保障において差別されてはならない。	
	MA	差別はない。 No discriminate.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	請負業者へのインタビューで確認している限りでは差別は確認されなかった。 Discrimination has not been confirmed in interviews with commissioned companies.	✓
4.1.4		Wages or income of self-employed or contractors are at least as high as those in comparable occupations in the same region and in no case lower than the established minimum wage.	
		被雇用者または請負者の収入は同じ地域の同様の職業と比較して最低限同じでなければならない、また定められた最低賃金以下であってはならない。	

	MA	山梨県は自治体として法律を守る立場にあり、請負業者の収入は最低賃金以下ではなく、地域の標準的な収入である。 Because Yamanashi Prefecture is a government body, they are in the position of observing laws. Therefore income of subcontractors is not lower than the minimum wage and as high as standard income of the region.	✓
	S1	同上。請負業者への聞き取りでも確認された。 Same as above. Also confirmed in interviews with contractors.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.2		Forest management should meet or exceed all applicable laws and/or regulations covering health and safety of employees and their families.	3
		森林管理は、労働者やその家族の健康や安全に関する全ての関連法律や関連規則を満たさなければならない。	

4.2.1		Managers are familiar with relevant health and safety guidelines and regulations.	
		管理者は、該当する健康と安全規則を熟知している。	
	MA	労働基準法、労働安全衛生法、最低賃金法などに従っている。 請負業者等の安全衛生については特に仕様書では謳っていないが、研修などを通して周知を図っている。 Complied with Labor standard law, Labor Safety and Sanitation Law, and Minimum Wage law. Although health and safety of subcontractors is not regulated by contract, it is familiarised through training.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.2.2		Managers have assessed the risk to workers of particular tasks and equipment, and take measures to reduce or eliminate such risks.	
		管理者は業務内容や使用する機器による従業員への危険度を査定し、それを軽減または除去するためにしかるべき処置を施している。	
	MA	仕様書の中で作業の制限などを設けている。 緊急連絡網、近場の病院、警察などを事業実施前に確認し、県に提出させ、確認している。 Some operations are restricted by contract. Subcontractors confirm emergency reporting system, close hospital and police before starting operations, and submit the result to the prefecture.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	林災防がリスクアセスメントをテーマにした研修を行っている。取り組みは定着してきており、事業者は作業前にリスクアセスメントを実施している。 Rinsaibou (Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association) offers a training program on risk assessment. Their efforts have been continued and entities that conduct forestry operation implement risk assessment before operation.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.2.3		Safety training is carried out, relevant to the tasks of workers and the equipment used.	
		従業員の業務と使用する機器に見合った安全訓練が実行されている。	
	MA	県森林総研で研修事業を行っている。職員も参加できる研修もある。 林業・木材製造業労働災害防止協会(林災防)による研修も行われている。 Training session is held by Yamanashi Forest Research Institute. Prefectural staff can participate some training. Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association also provide training.	✓
	S1	同上。9月19日にも林災防による研修が行われる予定。請負業者も参加する。 Same as above. On September 19, a seminar will be held by the Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association. Contractors will also take part in it.	✓

S2	<p>森林総研や林災防の安全研修が行われている。請負業者は代表者が参加することが多く、従業員の全員参加は必須でない。 安全巡回点検・指導票でチェックしている。 森林組合と共同で行っていることがヒアリングで確認された。 Safety training is provided by the Forest Research Institute and Rinsaihou (Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association). As for contractors, in many cases, only representatives take part in the seminars, as participation by all workers is not required. Safety check is conducted by using Safety Patrol Check and Instruction Card. An interview showed that safety check is conducted in cooperation with forestry associations.</p>	✓
S3	<p>県森林総合研究所において、2009年10月28日に林務職員、2010年1月22日に林務職員及び林業事業者を対象とした安全装備に関する研修を行い普及啓発を図った。 現地において、受け口を作って伐採すべき大きさの樹木が、受け口なしで伐採された跡が観察された。 また、現地での事業者へのインタビューにより、刈払機の日あたり稼働時間や連続稼働時間が国の指針を超過している場合があることが伺われた。 The forest manager held workshops on safety equipment on October 28, 2009 for forestry workers and on January 22, 2010 for forestry workers and forestry entities in Yamanashi Forest Research Institute to spread knowledge and education on safety equipment. In the forest, the assessment team found signs that workers did not follow the rule of making a cut on the other side of the starting point of sawing in trees with diameters above a certain level before felling them. In addition, interviews with forestry entities in the field indicated that running time per day and continuous running time of bush cutter sometimes exceeded the standards set by the government.</p>	✓
S4	<p>県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業者(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われ、伐倒時受け口、追い口を設ける手順が徹底され、現場の切り株でも再確認がされた。またこの中で振動障害の予防のために新たな振動障害予防対策の概要等の普及啓発が実施された。 Annual Surveillance: A workshop on labor accident prevention was held for employees engaged in forest management and forestry entities (commissioned companies) in Yamanashi Forest Research Institute. In the workshop, participants thoroughly learned the procedure to make an under cut and a back cut at the time of tree felling. The procedure was also confirmed by observing stumps in the field. The participants also learned about the summary of new measures against vibration disorder in the workshop.</p>	✓

推奨事項
R2010.1

4.2.4	Workers are provided with safety equipment, relevant to the tasks of workers and the equipment used.	
MA	<p>従業員の業務と使用する機器に見合った安全装備が支給されている。 入札の仕様書で明記するが、ILOのガイドラインに完全には従っていない。 県職員には作業衣と履物は支給している。 救急箱は各作業班に備えられている。 県の車両の一部には防災無線が備えられている。 ILOのガイドラインに従った安全装備の使用が必要である。 Safety equipments are regulated by contract, but not fully obeyed the ILO guideline. Wear and shoes are provided to prefectural workers. Safety box are equipped for each work group. Some cars of the prefecture are equipped with wireless system. It is required to follow the ILO guideline to prepare safety equipments.</p>	×
S1	<p>2007年12月3日に、請負業者(昨年実績で58社)に対し装着状況を確認してもらう旨、各林務環境事務所に通知を行った。入札の際にチェックリスト等で請負業者に周知した。 2008年4月15日の第1回県有林計画担当者会議において、再度改善要求内容の徹底を図った。 現地での請負業者に対するヒアリングでは、周知は開始されたばかりでまだ徹底されていないことが確認された。 請負業者による使用状況を確認しながら、作業種、現場に応じた安全装備となるよう検討し、安全装備の装着レベルを向上することが必要である。 On December 3 2007, forest environmental offices were instructed to ask contractors (58 companies last year) to verify their implementation of the safety equipment. They are required to screen the contractors with such a tool as a checklist during bidding. In the 1st YPF planning staff meeting on April 15 2008, the contents of the CAR were confirmed again. In hearings with contractors held in the region, it was observed that the CAR has just notified and they have yet to be familiarized with it. It is necessary to make examinations to ensure the safety equipment is suitable for the work type and conditions in the field while verifying the contractors' use of the equipment so that the implementation level of safety equipment is improved.</p>	×

条件
C2007.3

条件
C2008.1

S2	<p>2008年5月30日に各林務環境事務所宛てに「請負業者の装着状況について」を發してモニタリングを依頼した。2009年2月にこの結果を集計したところ、日本の労働安全衛生規則のレベルでは違反は認められなかった。しかしより高度であるILOのガイドラインに定められている要求と比較すると、使用率は安全ズボン55%、耳当て69%であった。</p> <p>2009年7月1日に、ILOのガイドラインに基づく安全装備について、3社の請負業者から聞き取り調査を行い、現状把握を行った。7月22日には各林務環境事務所宛てに「請負業者に対する安全装備についての周知について」を通知し、安全装備に関する資料を基に各事務所で研修等により請負業者に更なる安全装備について普及啓発活動を行った。</p> <p>On May 30, 2008, a document, "The usage of safety equipment by contractors", was issued to forest environmental offices so as to ask them to conduct monitoring. The monitoring results, which were compiled in February 2009, demonstrated that there was not any noncompliance with the occupational safety and health regulations in Japan. However, when compared to the requirements stipulated in the ILO guidelines, which are stricter than the Japanese regulations, utilization rates of safety equipment were as low as 55 % for safety trousers and 69 % for earmuffs.</p> <p>On July 1, 2009, three contractors were interviewed about the safety equipment based on ILO guidelines so as to grasp the use status. On July 22, a document, "Familiarization of contractors with safety equipment", was issued to forest environmental offices. Each office tried to promote safety equipment and raise the awareness of</p>	✓	推奨事項 R2009.1
S3	<p>2010年2月に林災防山梨県支部の協力を得ながら、作業種、環境に応じた「安全装備確認表」を作成した。また2010年5月18日に、各林務環境事務所長を通じ、全請負業者を対象に「安全装備確認表」を基とした安全装備の装着状況調査を実施した。その結果、特に脚、耳、目の安全装備の装着率が低かった。現地での請負業者へのインタビューでも、安全装備は全ての作業者が装着しているわけではない状況が観察された。</p> <p>In February 2010, they developed "safety equipment checklists" for respective types of work and site environment with the cooperation of Yamanashi Branch Office of Rinsaibou (Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association). In May 18, 2010, they surveyed all contractors on the actual status of usage of safety equipment according to the "safety equipment checklists" via chiefs of forest environmental offices. The survey showed that usage rates of accessories for the protection of legs, ears and eyes were especially low. On-site interviews with contractors also demonstrated that not all workers wore safety equipment.</p>	✓	推奨事項 R2009.1
S4	<p>県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業体(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われた。また昨年に引き続き、請負業者の安全装備使用状況を調査した。その結果、安全ズボンの装着率は13%向上し44%となった。</p> <p>現場での安全作業の確認のために、年に2回林業・木材製造業労働災害防止協会により行われるパトロールに県職員が同行するようになった。</p> <p>現在の県の調査票ではチェーンソー、下刈り機を使用する際の安全靴装着が謳われているが、現場でのインタビューでは、安全ズボンの装着が徹底できていない状況が観察された。</p> <p>Annual Surveillance: A workshop on labor accident prevention was held for employees engaged in forest management and forestry entities (commissioned companies) in Yamanashi Forest Research Institute. Following last year, the forest manager conducted a survey on the status of use of safety equipment in the commissioned companies. The survey showed that the rate of using safety trousers increased by 13 % to 44 %.</p> <p>In order to confirm the safety in forest operations, prefectural employees started joining the staff of Rinsaibou (Forestry and Timber Manufacturing Safety & Health Association) on their semiannual forest patrols.</p> <p>The current survey sheets of the prefecture don't stipulates the use of safety shoes in operations using a bush cutter, but it was also confirmed in the on-site interview that the use of safety trousers was not</p>	✓	推奨事項 Obs2009.1

4.2.5	<p>Managers take measures to ensure that workers use any safety equipment that is provided.</p>		
	<p>管理者は、従業員が支給された安全装備を確実に使用するよう対策を施している。</p>		
MA	<p>現場の監督を行っているので、不備があれば指摘をしたり、責任者に注意をしたりする。</p> <p>林災防とともに年2回パトロールを行っている。</p> <p>その日に行う作業内容、身支度をお互いに確認することを各事業体に求めている。</p> <p>管理者自ら安全装備の装着を現場確認する必要がある。</p> <p>Because prefecture staff supervise operations, they instruct workers and give caution to responsible persons if some inappropriate manner was observed.</p> <p>They patrol with LAPA-FFPMI twice a year.</p> <p>They require each company that workers should confirm operations and equipments with each other at the beginning of the work.</p> <p>It is required that managers themselves should confirm the use of safety equipments by workers on site.</p>	×	条件 C2007.3
S1	<p>2008年5月30日に、装着状況チェックシートを用い、モニタリングをすることを各林務環境事務所へ通知。各所で全部で20箇所を挙げ、毎年2月末までにまとめ報告することとした。今後の実行状況の確認が必要。</p> <p>On May 30 2008, forest environmental offices were instructed to perform monitoring with the check sheet for safety equipment implementation. It was decided that they will report the summary of monitoring results regarding 20 locations for each offices. Implementation in the future should be confirmed.</p>	×	条件 C2008.1

	S2	<p>初年度の状況把握が完了した。チェックシートによる確認は今年度(2009年度)は実施していない。研修等での周知はより力を入れて行っている。</p> <p>各事務所ごとに年2回安全パトロールを行っている。</p> <p>The first-year investigation of the situation was completed. Confirmation using the check sheet has not been carried out this fiscal year (2009). They have become more actively engaged in educational activities through workshops, etc.</p> <p>Safety patrol is conducted by each office twice a year.</p>	✓
	S3	<p>安全装備の装着状況調査を実施した。</p> <p>また、林災防の5つの支部ごとに年2回以上安全パトロールを実施。労働基準監督署、各林務環境事務所も同行して一緒に安全確認を行っている。各支部でチェックリストを作成しており、基本的には法律の内容をチェックしている。</p> <p>A survey on the use status of safety equipment was conducted.</p> <p>Each of five branch offices of Rinsaihou implements safety patrol more than twice a year. Staffs of the labor standards inspection office and forest environmental offices join the patrol to conduct safety confirmation.</p> <p>Each Rinsaihou branch office has prepared their own checklist which basically includes items concerning law's provisions.</p>	✓
	S4	<p>安全装備の装着状況調査は今後も継続する。この結果をフィードバックし、請負業者へ指導をしていく。</p> <p>The forest manager will continue to investigate the status of use of safety equipment. They will reflect the results of the investigation in their operation and give instructions to the commissioned companies.</p>	✓

4.2.6		Managers implement an accident reporting system that includes all work related accidents and deaths of employees, their causes, corrective action taken to prevent similar accidents in future.	
		管理者は、仕事による従業員の事故と死亡、そしてその原因を記録し、将来において同様の事態を繰り返さないための予防処置を立て、それを実行している。	
	MA	<p>すべての請負業者は年間の労災に入っていることが請負の際の条件となっている。事故の場合は各事業体で労災の報告を行っている。</p> <p>It is a condition of subcontract that all subcontractors should buy yearly workers' accident compensation insurance. When an accident occurs, each company reports the accident.</p>	✓
	S1	<p>同上。昨年度は事故は起こっていない。</p> <p>Same as above. No accident occurred last fiscal year.</p>	✓
	S2	<p>平成20年度に5件の傷害事故が発生した。1件はチェーンソーによる太ももの切創で、経験1年3ヶ月の人による。あとの4件は伐倒に関するもの。事故が起こった際には造林事業体の協会等を通じて周知している。労働基準監督署でも指導している。</p> <p>Five accidents occurred in 2008. One was a chainsaw cut on the thigh, which a worker with 1 year and 3 months of experience suffered. The other four cases related to felling operation. When an accident occurs, they notify workers of the accident through the afforestation entities' association, etc. The labor standards inspection office also provides guidance.</p>	✓
	S3	<p>平成21年度は事故が3件報告された。県に提出された事故報告書がある。必要に応じ請負業者に対し再発防止の呼びかけを行っている。</p> <p>Three accidents were reported in fiscal 2009. There are written reports on the accidents, which were submitted to the prefecture. The forest manager calls for contractors as necessary to try to prevent the recurrence of similar accidents.</p>	✓
	S4	<p>平成22年度は1件の事故が報告された。23年度は現在までに2件報告がされている。必要に応じ請負業者に対し再発防止の呼びかけを行っている。</p> <p>One accident was reported in fiscal 2010. In fiscal 2011, two accidents have been reported so far. They call for the commissioned companies to take preventative measures as necessary.</p>	✓

4.2.7		There is assured compensation benefits in case of accidents.	
		事故の場合は補償が出る。	
	MA	<p>労災補償がおきる。</p> <p>Workers' accident compensation system will work.</p>	✓
	S1	<p>同上。</p> <p>Same as above.</p>	✓
	S2	<p>同上。事業体の判断により上乘せ保険に加入しているところもある。</p> <p>Same as above. Some companies have additional insurance based on their own judgment.</p>	✓
	S3	<p>県の請負業者として登録されるためには労災加入は必須である。</p> <p>Companies are obliged to join the workers' compensation program to be registered as the prefecture's contractors.</p>	✓
	S4	<p>同上</p> <p>Same as above.</p>	✓

4.2.8		Health and safety measures comply with national minimum requirements.	
		全国的にみて安全衛生対策の最低限は守られている。	
	MA	守られている。 Complies.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上。 Same as above.	✓

4.2.9		Where workers stay in camps, conditions for accommodation and nutrition comply at least with ILO Code of Practice on Safety and Health in Forestry	
		労働者がキャンプで生活している場合、居住環境や栄養状態は、ILOの林業における安全衛生の行動基準に最低限従わなければならない。	
	MA	該当しない。 Not applicable	NA
	S1	該当しない。 Not applicable	NA
	S2	該当しない。 Not applicable	NA
	S3	該当しない。 Not applicable	NA
	S4	該当しない。 Not applicable	NA

4.2.10		Workers shall be provided with the time and opportunity for education and training. (NS Japan 2007 draft 8 4.2.6)	
		労働者の教育・訓練の場と機会を提供すること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	県森林総合研究所において2010年11月5日に林務職員、林業事業者(請負業者)を対象とした労働災害防止に関する研修が行われ、受け口、追い口を設ける伐採作業の安全な手順等について再確認がされた。またこの中で振動障害の予防のために新たな振動障害予防対策の概要等の普及啓発が実施された。 Annual Surveillance: A workshop on labor accident prevention was held for employees engaged in forest management and forestry entities (commissioned companies) in Yamanashi Forest Research Institute. In the workshop, participants thoroughly learned the procedure to make an under cut and a back cut at the time of tree felling. The procedure was also confirmed by observing stumps in the field. The participants also learned about the summary of new measures against vibration disorder in the workshop.	✓

4.3		The rights of workers to organise and voluntarily negotiate with their employers shall be guaranteed as outlined in Conventions 87 and 98 of the International Labour Organisation (ILO).	3
		労働組合を組織し、雇用主との自発的な交渉を行う労働者の権利は、ILO条約第87、98で概説されているように、保証されなければならない。	
4.3.1		Employment conditions comply with International Labour Organisation convention 87 (see Annex 2) - This Convention relates to the rights of workers to: freedom of association and protection of the right to organise.	
		雇用状態はILO条約87(付録2参照)を順守している。この条約は従業員の結社の自由の権利と団結権の保護を求めるものである。	
	MA	労働者の権利は国内法で定められており、遵守されている。 公務員の団体交渉権は法律で認められていない。 請負業者の団体交渉権行使の有無は確認していない。小規模事業者なので労働組合はないと思われる。 Worker's rights are required by law and protected. The right to bargain collectively of government workers is not permitted by law. The fact if workers of contracted companies enforce the right to bargain had not been confirmed. It seems workers unions are not formed because all contracted companies are small.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓

	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.3.2		Employment conditions comply with International Labour Organisation convention 98 (see Annex 2) - This Convention relates to the rights of workers to: organise and bargain collectively.	
		雇用状態はILO条約98（付録2参照）を順守している。この条約は従業員の団結権および団体交渉権を求めるものである。	
	MA	同上。 Same as above.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.4		Management planning and operations shall incorporate the results of evaluations of social impact. Consultations shall be maintained with people and groups directly affected by management operations.	4
		管理計画や管理方法は、社会的な影響に関する評価結果に配慮がなされなければならない。森林管理により直接影響を受ける人々やグループとの協議は継続して行わなければならない。	

4.4.1		There are systems in place that provide an evaluation of the social impact , appropriate to the size and intensity of their operations that: - identifies affected groups - includes consultation with affected groups - identifies the main impacts of the operation on those groups - specifies measures to ameliorate identified negative impacts - provides for regular contact with affected groups to monitor effectiveness of measures.	
		管理者は森林管理の規模と集約度に即して、以下の項目を含めた社会的影響の評価を行っている： - 影響されるグループの特定 - そのグループとの協議 - そのグループに対する施業の主な影響の特定 - 悪影響を改善する手法の明確化 - 上記手法の効果を評価するための、そのグループへの定期的な連絡	
	MA	管理計画書作成のときに一般市民、関係者、市町村、保護団体に意見を聞いている。 林道工事のときに、河川が濁る恐れのあるときは、漁協と協議し、事前に了解を得ている。 When the management plan is revised, they consult with public people, related parties, city, town and villages and protection groups. When forest road is constructed and there is a possibility to flow mud into rivers, they discuss with fishery cooperatives and get their consent.	✓
	S1	昨年度は特に意見を聞く機会はなかった。 There was no opportunities for consultation last fiscal year.	✓
	S2	平成23年度から次期管理計画の実行期間であり、来年度が計画の編成時期であるため、今年度中に市町村、保護団体に書面での意見聞き取りを行う予定。 Because the implementation period of the next management plan will start in fiscal 2011, and the plan will be drawn up next fiscal year, they will collect opinions from city, town and villages and protection groups in writing by the end of this fiscal year.	✓
	S3	次期管理計画編成に伴う作業として、平成21年度に市町村、関係保護団体に聞き取りを行った。意見をまとめ、対応を検討している。 In fiscal 2009, the forest manager interviewed staffs of towns and villages and relevant protection groups as a task involved in the formulation of the next management plan. They are gathering opinions and considering responses.	✓
	S4	関係者への聞き取りを行い、第2次管理計画を樹立した。 The forest manager interviewed concerned parties before formulating the second prefectural forest operational plan.	✓

4.4.2		Results of social impact evaluation are incorporated into management decisions.	
		管理の意思決定には社会影響評価の結果が組み込まれる。	
	MA	受け取った意見をもとに計画を作成している。 Plans are made based on the accepted opinions.	✓
	S1	同上 Same as above.	✓
	S2	聞き取りの結果を次期管理計画に反映させる予定。 Accepted opinions will be reflected to the next management plan.	✓
	S3	受け取った意見の内容を整理し、計画に反映させる予定。 They will organize received opinions and reflect them on the plan.	✓
	S4	関係者への聞き取りを行い、第2次管理計画を樹立した。 The forest manager interviewed concerned parties before formulating the second prefectural forest operational plan.	✓

4.4.3		Forest managers implement a system for ongoing consultation with local people and interest groups (both men and women).	
		森林管理者は継続して地元の人々および関係ある団体(男性、女性とも)に聞き取りを行わなければならない。	
	MA	同上 Same as above.	✓
	S1	同上 Same as above.	✓
	S2	同上 Same as above.	✓
	S3	同上 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.5		Appropriate mechanisms shall be employed for resolving grievances and for providing fair compensation in the case of loss or damage affecting the legal or customary rights, property, resources, or livelihoods of local peoples. Measures shall be taken to avoid such loss or damage.	3.5
		法的あるいは慣習的な権利、財産、資源、地域住民の所有する家畜などに対し損害を与えた場合における、苦情の処理及び公平な補償が行えるよう適切な方法が整備されていなければならない。このような損害を回避する手段がとられなければならない。	
4.5.1		Mechanisms for resolving grievances are documented and implemented.	
		苦情を解決する適切なシステムは文書化され、実践されている。	
	MA	2.3と同。 Same as 2.3	✓
	S1	同上 Same as above.	✓
	S2	同上。特に苦情はなかった。 Same as above. There has been no complaint.	✓
	S3	同上。特に苦情はなかった。 Same as above. There has been no complaint.	✓
	S4	同上。特に苦情はなかった。 Same as above. There has been no complaint.	✓

4.5.2		Mechanisms exist and are implemented for providing fair compensation to local people where their legal or customary rights, property, resources or livelihoods have been damaged.	
		地域の法的・慣習的権利、領地、資源または生計がダメージを受けた場合に、地域住民に公正な補償を行う適切なシステムが存在し、実践されている。	
	MA	必要なときは県の仕組みに従って補償を行うことになっている。 If needed compensation will be made in accordance with the prefectural system.	✓
	S1	同上。法律に従い適切に対処する。 Same as above. An appropriate response will be made according to relevant laws.	✓
	S2	同上 Same as above.	✓
	S3	同上 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

4.5.3		Inadvertent damage to indigenous and traditional resources on, or near, indigenous and traditional lands shall be compensated as agreed with the indigenous and traditional communities themselves.	
		先住民の、および伝統的な土地、またはその近くの土地に存在する資源に対して与えた回復できないダメージは、先住民または伝統的な地域社会が同意した方法により補償されなければならない。	
	MA	該当しない Not applicable	NA
	S1	該当しない Not applicable	NA
	S2	該当しない Not applicable	NA
	S3	該当しない Not applicable	NA
	S4	該当しない。 Not applicable	NA

4.5.4		Mechanisms exist made to resolve conflicts through consultation aiming at achieving agreement or consent, avoiding damage to property, resources, rights, and livelihoods.	
		同意や承諾を得るため、また財産、資源、権利、生活へのダメージを避けるための、話し合いを通じた紛争解決の仕組みが存在する。	
	MA	同上 Same as above.	✓
	S1	同上 Same as above.	✓
	S2	同上 Same as above.	✓
	S3	同上 Same as above.	✓
	S4	必要ときは県の仕組みに従って補償を行うことになっている。県の仕組みではまず話し合いを行うこととなっている。 If needed compensation will be made in accordance with the prefectural system. Prefectural system is primarily focusing on resolving conflicts through consultation.	✓

5		FSC PRINCIPLE # 5: BENEFITS FROM THE FOREST Forest management operations shall encourage the efficient use of the forest's multiple products and services to ensure economic viability and a wide range of environmental and social benefits.	3.3
		FSC原則#5：森林のもたらす便益 森林管理は、経済的な継続性と、環境や社会が享受しているさまざまな便益とを確保できるよう、森林から得られる多様な生産物やサービスの効果的な利用を促進するものであること。	
5.1		Forest management should strive toward economic viability, while taking into account the full environmental, social, and operational costs of production, and ensuring the investments necessary to maintain the ecological productivity of the forest.	3.5
		森林管理は、経済的に継続できるように努力されなければならない。またその一方で、生産にかかる全ての環境、社会そして管理費用に配慮するとともに、森林の生態系の生産性を維持するために必要な投資が確実に行われなければならない。	
5.1.1		There is a work plan and budget for the forest management enterprise showing expected costs and revenues for at least the current financial year.	
		少なくとも最近一年分の予想される収入と支出を示した森林管理主体の経営計画と予算がある。	
	MA	恩賜県有財産特別会計の予算書がある。 効率的な林業経営に努めている。 There is the budget for the special account of imperial-granted prefectural properties.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

5.1.2		The income predicted in the annual budget is consistent with the expected rate of harvest of forest products (see 5.6).	
		年間予算にて予想される収入は推定される森林産物の収穫と一致している（5.6参照）。	
	MA	一致している。 間伐材の有効利用を計画に挙げている。 販売を拡大し収穫収入をより多く得ることが求められる。 It is consistent. Utilisation of thinned wood is mentioned in the plan. It is required to enhance the sales and gain more income from harvesting.	✓ 推奨事項 R2007.4a,b
	S1	山梨県有林林産物システム販売協定(H18～)、カラマツ間伐材流通促進対策、FSC材流通促進実施要領、FSC認証材販売要領等に基づき現在事業を展開し販売拡大を図っている。おととしから昨年にかけて、全体の販売数量が減少する中、システム販売やCOC取得業者への販売量は増えている。 奥山の伐採量を増やすために作業道を建設する事業を提案中である。 Based on a series of programs such as the YPF Forestry Products System Marketing Agreement (since 2006), the measures to promote the distribution of karamatsu (Japanese larch) thinned woods, the operational procedure to promote the distribution of FSC materials, and the marketing program of the FSC-certified materials, the operations are being run to seek sales expansion. For the previous two years, system marketing and the volume of sales to CoC operators have increased while overall sales had declined. To increase harvesting from deep in the mountains, the construction of operational roads has been proposed.	✓ 推奨事項 R2007.4
	S2	2009年度より「県有林低コスト安定供給推進事業」を創設し、間伐材等の積極的な搬出を行う。 雇用対策事業で未利用材の有効活用に取り組んでいる。COC事業者に対する指名競争入札で発注し、通常の施業ではコストに合わず林内に放置されている伐倒木を搬出し、COC取得製材所に搬入している。 "The prefectural forest project for low-cost and stable supply" was established in fiscal 2009 to actively extract thinned wood, etc. Effective utilization of unused timber is being promoted as part of employment measures. The timber is ordered by designated bidding for CoC-certified entities, so that they can extract less-profitable felled timber, which is usually left in the forest, and carry it to CoC-certified sawmills.	✓ 推奨事項 R2007.4
	S3	山梨県有林林産物システム販売協定、FSC認証材販売要領等により収穫事業を行っている。また、昨年度事業化した「県有林低コスト安定供給推進事業」により、県内市場3拠点への安定的な出材に取り組むとともに、治山施設などへの需要が見込まれる小径木の出材を実施している。さらに、昨年度に引き続き、雇用対策事業を活用した「森林バイオマス活用(チップ用材)事業」により、保育間伐等による未利用材を木質バイオマスとして有効利用に取り組んでいる。これらの施策の結果、カラマツ材の需要増加と相まって、収穫量は昨年比で127%と増加した。 Harvesting operation is conducted based on the YPF Forestry Products System Marketing Agreement and the marketing program of the FSC-certified materials. In "the prefectural forest project for promoting low-cost and stable supply," which was launched last year, the forest manager is working on stable supply of timber to three markets in the prefecture, as well as on supply of small-diameter timber which is expected to be needed for the construction of erosion control facilities, etc. Further, they are working to effectively utilize unused timber produced by pre-commercial thinning, etc. as wood biomass in "the project to utilize forest biomass (timber to produce chips)" as part of employment measures, which started last year. As a result of these measures, and thanks to the increased demand for larch timber, the harvest amount increased by 27% over	✓
	S4	一致している。 It is consistent.	✓

5.1.3		The income predicted in the annual budget is consistent with product values comparable to regional or national norms,	
		年間予算にて予想される収入は、地域あるいは全国標準の材価と比較して妥当である。	
	MA	現在の材価から計算している。 Calculated based on the current timber price	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上。 Same as above.	✓

5.1.4		The annual budget incorporates stumpage, royalties or rents as required.	
		年間予算には立木価格、特許権使用料または賃貸料を組み込んでいる。	
	MA	組み込んでいる。 Incorporated	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	貸地等の費用を組み込んでいる。 Costs such as ground rents are incorporated.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

5.1.5		The annual budget specifies any costs associated with implementation of the social and environmental commitments identified in Principles 4 and 6.	
		年間予算には原則4と6にある社会的、環境的配慮のための支出割当てが明確になっている。	
	MA	境界管理等保護管理費、林道災害復旧費、保護団体への交付金などがある。 Boundary protection and management fee, forest road disaster recovery fee, subsidies for protection group, etc.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	上記に加え、文化の森運営費、獣害対策費用の支出割当も明確である。 In addition to above, they clearly show the expenditure for administrating the forest culture forests and the expenditure for taking measures against animal damage.	✓

5.2		Forest management and marketing operations should encourage the optimal use and local processing of the forest's diversity of products.	3.5
		森林管理と林産物の流通は、森林がもたらす多様な生産物を最大限に活用するとともに、地域での生産物の加工を促すものでなければならない。	
5.2.1		Forest managers make a proportion of their production available to local enterprises, such as small-scale industries and processing operations. (see 5.4 below for related norms)	
		森林管理者はその産物の一定量を、小規模な工場や加工所などの地元の会社に、特にこれを阻む重要な理由がないかぎりにおいて提供する。（関連規準として以下の5.4を参照）	
	MA	立木は県内の登録伐採業者に販売されている。 間伐材や一部丸太は市場で販売されている。 副産物は保護団体に提供されている。 Standing trees are sold to registered logging companies in the prefecture. Thinned wood and a part of logs are sold at a market. By-products are provided to protection groups.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓
	S2	同上。立木販売の際には丸太の販売先は落札業者の自由な場合と県内に限定する方法がある。 Same as above. When wood is sold as standing trees, winning bidders can freely choose buyers of the logs or sell logs to companies within the prefecture.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	同上。県内のCOC認証取得業者数も徐々に増えている。 Same as above. Number of COC certificate holders in the prefecture is gradually increasing.	✓

5.3		Forest management should minimise waste associated with harvesting and on-site processing operations and avoid damage to other forest resources.	3
		森林管理は、伐採や現場での加工作業に伴う廃材を最小限に抑え、他の森林資源への損傷を避けるものでなければならない。	
5.3.1		There is no excessive damage to residual stands of trees during and after harvesting.	
		伐採中または伐採後に、残存木に過度なダメージが与えられていない。	
	MA	仕様書で求めている。 現地でも問題は見られなかった。 Required in specifications. There was no problem on site.	✓
	S1	同上。 Same as above.	✓

S2	同上。請負業者が残存木に過度にダメージを与えたときには請負業者に買い取ってもらう場合もある。 Same as above. If a contractor causes severe damage to remaining trees, the contractor may have to buy the damaged trees.	✓
S3	現地では大きな傷は認められなかった。 No serious injury was confirmed in the field.	✓
S4	同上 Same as above.	✓

5.3.2	Timber is extracted and processed promptly after felling. 材木は伐倒のあとすぐに引き出され、加工されている。	
MA	販売できるものはすぐに引き出して販売している。 間伐材の利用量を極力増やす計画にしている。 Logs to be sold are extracted promptly and sold. It is planned to maximise volume of thinned wood to be utilised.	✓
S1	同上。 Same as above.	✓
S2	現地審査の際に、林道までの距離がさほど遠くない林分において間伐材が林地に残されている箇所が認められた。また主伐林分に隣接する林分において、皆伐の1, 2年前に間伐が行われ、間伐材が残されている箇所もあった。隣接する林分で主間伐の時期を若干調整することにより、間伐材の搬出可能性が高まったり、あるいは搬出コストが低下することが期待されるので、主間伐の計画を隣接する複数の林分で検討する必要がある。 At the time of field inspection, thinned wood left in the forest was seen in some forest stands which were not very distant from the nearest forest roads. In addition, there were forest stands adjoining the clear-cut forest stand, where wood thinned one or two years before the clear cutting has been left in the forest. Because an appropriate arrangement of the time of final cutting and that of thinning among adjacent forest stands can lead to an increased chance of or decreased cost of extraction of thinned timber, it is required to consider an integrated plan of final cutting and thinning for adjacent forest stands.	✓
S3	2010年4月15日に、県有林課担当合同会議を開催し、現状の個々の小班にとらわれない効率的な施業の推進について依頼を行った。また2010年7月5日に、出先県有林課職員を対象とした、収穫箇所の伐区の設定や周囲測量の実務研修を行い、効率的かつ環境に配慮した施業の推進を図った。さらに、時期県有林管理計画編成にあたり、施業予定箇所の現地調査を実施した際、林分配置や実施年度、及び作業道等の計画を考慮し、効率的な施業が推進されるよう、施業予定箇所の選定を行った。本年度は早速皆伐実施箇所の隣接地での間伐を行った。伐採木の積極的な搬出に努めている。 On April 15, 2010, the forest manager held a joint meeting of representatives of the Prefectural Forest Section and requested the participants to promote effective forestry operation that is not obsessed with the current condition of each forest compartment. On July 5, 2010, with a view to promoting efficient and environment-friendly forestry operation, they provided on-the-job training on designation of forest stands to be cut in planned harvest zones and on measurement of surrounding areas for employees of the Prefectural Forest Section who were assigned to their places of duty. Further, When the forest manager conducted a field survey in planned forest operation sites for the formulation of the next prefectural forest management plan, they selected sites to conduct operation so as to promote effective operation in consideration of the distribution of forest stands, years to implement operation, and plans on work road construction, etc. This year they went straight to conduct thinning in a site adjacent to a clear-cut site. They are striving to actively extract felled trees.	✓
S4	利用するものはすぐに引き出している。 Felled trees to be used are promptly carried out of the forest.	✓

推奨事項
R2009.2

5.3.3	New on-site processing machinery is selected taking into account the need to minimise timber waste 新しい現場加工処理機は、廃材を最小限にする必要性を考慮して選択されている。	
MA	搬出は、架線集材で行う場合と、車両系林業機械で行う場合とがある。 Logs are extracted by cable system and forestry vehicle machinery.	✓
S1	同上。 Same as above.	✓
S2	林地残材で、チップ材で販売できるものは販売している。残材が一箇所にまとまらないよう指導している。今後林地残材の利活用が進めば、逆に一箇所に集積するなど、柔軟な対応が望まれる。 A part of timber left in the forest is sold as tip material if possible. Workers are instructed not to accumulate residual timber at a single place. However, if the utilization of residual timber is promoted in the future, the forest managers should deal flexibly with this issue by, for example, adopting an opposite measure of accumulating timber at a single place.	✓
S3	同上。 Same as above.	✓
S4	落札業者により保有機械や作業システムは様々である。県からは入札条件に全幹集材を規定し、材の有効利用をするようにしている。 Forestry machines and operation systems differ among winning bidders. The prefecture stipulates tree-length logging as a bidding condition so as to promote effective use of timber.	✓

5.3.4		Efforts shall be made to add value to timber and other forest products. (NS Japan 2007 Draft 8 5.2.2)	
		木材や他の林産物の付加価値づけに努力していること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	現場でのインタビューでは全幹集材後の木材は、価値が高まるように太さ・曲がりを見ながらチェーンソーで造材していた。 According to the workers interviewed at work sites, after conducting tree-length logging, they buck trees with chainsaws while judging the thickness and skew of trees so as to enhance the value of timber.	✓

5.3.5		During harvesting or transportation operations, forest ecosystems shall be maintained and soil fertility preserved through preserving forest floor plants and preventing soil damage. (NS Japan 2007 Draft 8 5.4.1)	
		伐採や運材作業において、林床植物の残存や土壌の攪乱防止など林内生態系の維持や土壌肥沃度の保持に配慮すること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	現場審査で確認をした限り、スイングヤーダ及びウィンチ集材作業地では林地のかく乱はなかった。 As far as the assessment team confirmed in the site inspection, the environment of yarding operation sites was not disturbed by Swing Yarder and Winch.	✓

5.3.6		Waste material that cannot be used shall be left in the forest to ensure biodiversity and to prevent soil erosion, if necessary. NS Japan 2007 Draft 8 5.4.2	
		利用できない残材は、生物多様性の確保や土壌侵食防止上必要となる場合には作業現場に残しておくこと	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	利用できない材は林地に残している。 Unusable timber is left in the forest.	✓

5.4		Forest management should strive to strengthen and diversify the local economy, avoiding dependence on a single forest product.	3.5
		森林管理は、地域経済の活性化と多様化に努め、特定の林産物のみに依存することを避けなければならない。	
5.4.1		Managers have information on the range of the forest's potential products and services, including 'lesser known' timber species, Non Timber Forest Products (NTFPs) and opportunities for forest recreation.	
		管理者は知名度の低い樹種、非木材林産物 (NTFPs)、森林レクリエーション等を含めた、可能性のあるあらゆる製品やサービスについて情報を持っている。	
	MA	副産物収穫が販売されている。 すべての販売量は記録されている。 3つの森林公園、12箇所の森林文化の森がある。金川の森で一部施設使用料を徴収している。無料の体験ツアーも実施している。青木ヶ原樹海のエコツアーもある。 多くの登山客や観光客が訪れている。 By-products are sold. All sales volume is recorded. There are 3 forest parks and 12 forest cultural forests. Some fees for use of facilities are collected at Kanegawa-no-mori. Experience tour is conducted for free. Eco tours are conducted at Aokigahara forest. Many climbers and tourists visit.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。実績あり。 Same as above. Some efforts were done.	✓

	S4	キノコ、転石、ナナカマド、その他林産物等を副産物として販売している。 富士山の森づくり事業では毎年1000人規模のボランティアを受け入れている。 Mushrooms, round stones, Japanese Rowan (<i>Sorbus commixta</i>), and other forest products are sold as forestry by-products. They accept about 1,000 volunteers every year in the project to create Fuji Mountain forests.	✓
--	-----------	---	---

5.4.2		Managers are aware of the role of these products and services in the local economy (whether as trade goods or for subsistence).	
		管理者はこれらの製品やサービスの地域経済での（商業上または生活上の）役割を認知している。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	n/a

5.4.3		Managers have assessed the possibility of utilisation of forest services, lesser known species and NTFPs on their own account or by local enterprises.	
		管理者は自らまたは地域の企業による知名度の低い樹種や非木材林産物の利用の可能性について評価している。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	n/a

5.4.4		Managers encourage the utilisation of forest services, lesser known species and NTFPs by local enterprises where this does not jeopardise other management objectives.	
		管理者は地域の企業による知名度の低い樹種や非木材林産物の使用を、それが他の管理目標を危険に晒さない限り奨励している。	
	MA	奨励している。 より多くの副産物の販売が望まれる。 Encourages. It is required to sale more by-products.	✓
	S1	山菜などの副産物は保護責任のある地元へ払い下げられているが、他者に販売を拡大することは管理条例上難しい。 While by-products such as edible wild plants are sold to local communities with the responsibility of protection, it is difficult to expand the sales to others due to the limitations regarding the management regulations.	✓
	S2	同上。副産物はきのこ、土砂、ナナカマド等。 Same as above. NTFPs include mushrooms, soil and sand, and Nanakamado (<i>Sorbus commixta</i>).	✓
	S3	キノコ、転石、ナナカマド、その他林産物等。 NTFPs include mushrooms, rocks, Nanakamado (<i>Sorbus commixta</i>) and others.	✓
	S4	同上 Same as above	✓

推奨事項
R2007.4a,b

推奨事項
R2007.4

推奨事項
R2007.4

5.5		Forest management operations shall recognise, maintain, and, where appropriate, enhance the value of forest services and resources such as watersheds and fisheries.	3
		森林施業は、森林のもたらす水資源や漁場などのサービス及び価値を認識し、維持し、必要に応じて高めていくものでなければならない。	
5.5.1		Forest managers have information on the down stream uses of water from the forest watershed. (see Criterion 6.5b for norms with respect to maintenance of water resources and fisheries)	
		森林管理者はその森林の流域の下流における水の使用状況の情報を有する。（水源と漁業の維持に配慮する規準として規準 6. 5 b を参照）	

MA	<p>水道水源にかかわるところであれば、事前に注意する。 県有林は県内の上流部に位置するため、水源として水資源の供給を行っている。 山梨県全域及び神奈川、東京の水源にもなっているため、水源地として大きな役割を果たしていることをよりPRすることが望まれる。</p> <p>When operational area is related to sources of water system, they pay attention to it. Because the prefectural forests are located upstream in the prefecture, they provide water resources. It is required to promote the forest more actively because they play a big role as water sources of whole Yamanashi prefecture, Kanagawa and Tokyo.</p>	✓	推奨事項 R2007.5
S1	<p>パンフレット、チラシ、普及宣伝物(コースター)、パネル、ラジオ出演(県広報番組)、やまなし県政だより「ふれあい」掲載(新聞の折込で全戸配布)、「瑞牆山トレッキング」「森林フェスティバル」「県民の日」などのイベントで普及活動をしている。</p> <p>2008年7月18日に山梨県知事及び道志村長が横浜市長地球温暖化に向けた取り組みについて話し合いを行いFSCの取り組みもPRした。9月5日に東京・六本木ヒルズの山梨サポーターズクラブのイベントで、関係者にFSCの名札をつけ、「山梨の森林」ブースを出し、FSCをPRする予定。</p> <p>Promoting activities have been carried out through a variety of tools and events, including brochures, fliers, promotional materials (coasters), panels, radio appearances (in a prefectural PR program), appearances on "Fureai", a Yamanashi prefectural administration PR magazine (distributed across the region along with newspapers), "Mizugaki-yama trekking," "forest festival," and "the day of prefectural residents."</p> <p>On July 18 2008, Yamanashi governor and Doushi-mura mayor had a discussion with Yokohama city mayor about their efforts against the global warming, in which prefectural FSC activities were also promoted. On September 5, the prefecture will have their staff wear a FSC badge and set up the Yamanashi Forest booth to promote their FSC efforts in an event of Yamanashi Supporters Club to be held at "Roppongi Hills" in Tokyo.</p>	✓	推奨事項 R2007.5
S2	<p>企業や県民に山梨県有林とFSC認証を認知してもらうため、2008年12月にリーフレット「山梨県有林からFSCを発信」とパンフレット「やまなしの県有林」を作成した。下流域都市部へのPRとして、2009年4月4,5日に神奈川県相模原市民まつり開催時に民間グループによるFSCのPRブースにおいて、山梨県FSC森林認証のパネル展示、パンフレットやコースターの配布を行った。</p> <p>山梨県森林環境部では、2009年7月からコピー用紙にFSC認証紙を採用した。また県のグリーン購入法に基づく基準にFSCを含めたため、さらに他の部局や出先機関の一部においても採用が広がっている。山梨県産FSC認証コピー用紙等の製品化に向けた取り組みを積極的に進めており、県内CoC取得業者や県外製紙会社と打合せを行っている。</p> <p>Leaflets titled "Transmitting FSC from Yamanashi Prefectural Forest" and brochures titled "Yamanashi Prefectural Forest" were created in December 2008 to raise the awareness of companies and the prefectural residents about the prefectural forests and FSC.</p> <p>As a PR activity toward urban areas in the downstream regions, a private-sector group conducted panel exhibition on the FSC forest certification in YPF and distribution of brochures and coasters at a booth for promoting FSC which was set up during Citizens' Festival in Sagami-hara City, Kanagawa Prefecture held on April 4 and 5, 2009.</p> <p>The Forestry and Environment Department of Yamanashi Prefecture decided to start using FSC-certified paper as copy paper in July 2009. In addition, as the prefecture included FSC in the standards on green procurement...</p>	✓	
S3	<p>住宅会社への営業、森の音楽祭、割箸・コピー用紙開発、FSCジャパンフォーラム、新聞や雑誌等への記事掲載、講演、県庁内普及、FSCジャパンサロン、イベントでのブース出展など、多様で積極的な普及啓発活動を行っている。</p> <p>They are actively implementing various activities to promote their products and enlighten people, including marketing their products to housing companies, organizing the Forest Music Festival, developing disposable chopsticks and copy paper, attending the FSC Japan Forum, putting articles in newspapers and journals, delivering lectures, promoting themselves in the prefectural office, participating in the FSC Japan Salon, and setting up booths in events.</p>	✓	
S4	<p>東京、神奈川、静岡の源流域であることを認識している。 また公共事業の連絡協議会(県職員、漁協などが参加)で年1回情報交換を行っている。 They are fully aware that Yamanashi is a headstream of Tokyo, Kanagawa and Shizuoka. Discussion is made once a year at Liaison Council of Public Works Project (Prefectural staff, fishery cooperatives, etc. participate).</p>	✓	

5.5.2	<p>Forest managers have information on the fisheries above, in and below the forest watershed. (see Criterion 6.5b for norms with respect to maintenance of water resources and fisheries)</p>		
	<p>森林管理者は漁業についてその森林の流域の上・中・下流での情報を有する。(水源と漁業の維持に配慮する規準として規準6.5bを参照)</p>		
MA	<p>公共事業の連絡協議会(県職員、漁協などが参加)で年1回情報交換を行っている。 Discussion is made once a year at Liaison Council of Public Works Project (Prefectural staff, fishery cooperatives, etc. participate).</p>	✓	
S1	<p>同上 Same as above</p>	✓	
S2	<p>同上 Same as above</p>	✓	
S3	<p>同上 Same as above</p>	✓	
S4	<p>同上 Same as above.</p>	✓	

5.5.3		Management plans and operations include maintenance and enhancement of watershed and fishery values identified.	
		森林計画と施業には特定された流域と漁業の価値の維持、向上が含まれている。	
	MA	-	
	S1	-	
	S2	管理計画の中で水資源の保護が目的のひとつとされ、実行されている。 Protection of water resources is one of the targets in the management plan, and is being implemented.	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	管理計画の中で水資源の保護が目的のひとつとされ、実行されている。 Protection of water resources is one of the targets in the management plan, and is being implemented.	✓

5.5.4		Areas shall be opened to the general public for recreation and nature experience. NS Japan 2007 Draft 8 5.5.3	
		レクリエーションや自然体験の場として一般開放されていること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	県内に12の森林文化の森を設置している。県内に森林公園を3箇所設置している。その他富士山及び山麓のエコツアー等、非常に多くの自然体験の場を提供している。 The forest manager established 12 forest culture forests and 3 forest parks in the prefecture. In addition, they provide a great number of places to carry out nature experience programs including eco-tours to Mt. Fuji and the foot of the mountain.	✓

5.6		The rate of harvest of forest products shall not exceed levels which can be permanently sustained.	3	
		林産物の収穫は、それが持続できなくなるレベルを越えて行われてはならない。		
5.6.1		The silvicultural system on which management is based is clearly stated.		
		管理の基礎たる施業システムは明確に示されている。		
	MA	県有林管理計画で示している。P52～「作業団の名称及び区域」、p63～「森林区分別の施業方針」などしかし、樹種別、地域別施業体系を見直し、収穫レベルを維持させ向上させることが求められる。 It is stated in the prefectural management plan. P52~ 'Names and area of operation group', p63~ 'Operational policy for each forest zone'. However it is required to re-consider operational system for each species and area to maintain and enhance the harvesting volume.	✓	推奨事項 R2007.6
	S1	今年度具体的な取り組みはなかった。来年度以降実施予定。 No progress has been made this year. It will be done from next year.	✓	推奨事項 R2007.6
	S2	個々の林分の収穫予想の精度を高めるため、県森林総合研究所と東京大学の共同研究により、山梨県版システム収穫表を作成中である。現在、システムの精度を高めるため必要なデータの収集作業を行っている。例えば、過去の野帳のデータを集計し、現在の林分調査結果と比較検討している。来年度に完成予定である。 In order to raise the accuracy of yield prediction for each forest stand, the prefectural forest research institute and Tokyo University are undertaking a joint study to make a systematic yield table for Yamanashi Prefecture. Now they are collecting data necessary to raise the accuracy of the system. For example, they tally up the figures in the field notes of the past and compare them with the results of the present forest stand survey. The yield table will be completed in the next fiscal year.	✓	
	S3	山梨県版システム収穫表の暫定版が完成した。林分ごとの収穫の検証に使用できる。検証しながら精度を高めていく予定。 収穫予想表は平成15年3月に作成。樹種、地位ごとに、80年生までのものとなっている。 材積表は以前からのものを使用している。 A preliminary version of the systematic yield table for Yamanashi Prefecture was completed. The table can be used to examine the harvest amount in each forest stand. They will improve the precision of the table while studying each case. They developed a yield prediction table in March 2003. It covers stands aged up to 80 years for each tree species and soil productivity class. They continue using the existing timber volume table.	✓	

S4	<p>第2次県有林管理計画を策定した。山梨県版システム収穫表を用いて優良材生産林・ヒノキの育林体系図を作成した。同収穫表は継続して精度を高めるよう、施業の際に樹高、直径、本数密度データを収集、反映している。</p> <p>They formulated the second prefectural forest operational plan. They created systematic silvicultural charts for forests to produce high-quality hinoki timber based on the systematic yield table for Yamanashi Prefecture. In order to improve the accuracy of the yield table, they collect data of the tree height, diameter, and density when conducting forestry operation and reflect the data to the table.</p>	✓
----	--	---

5.6.2	<p>The expected level of harvesting on an annual basis, and in the long term (over more than one rotation) is clearly stated.</p> <p>年間、そして長期（1伐期以上）の予想される収穫量のレベルは明確に示されている。</p>	
MA	<p>管理計画P88、p92 将来的な収穫量の予測もある。 P88 and p92 of the management plan There is a future prediction of harvesting volume.</p>	✓
S1	<p>同上 Same as above</p>	✓
S2	<p>適切な成熟林調査を行うために、要領を改正し、県職員対象に研修を行った。主伐、収穫間伐の対象地をGISを用いて調査地として選定する。管理計画は10年計画の5年更新。管理計画においては毎年の伐採量と伐採計画箇所を定め、具体的な伐採地は計画箇所から選定し、1年ごとに承認手続きをする。計画に対する調査実行率は100%である。原則として管理計画上の指定箇所から伐採するが、指定外の場所で伐採する必要が生じれば計画変更の承認手続きをする。</p> <p>In order to conduct a appropriate matured forest survey, the forest managers modified the guideline and offered training for prefectural employees. Survey sites will be selected from the sites where final-cutting or commercial thinning (thinning for harvesting) will be conducted using GIS. The management plan is a ten-year plan which will be revised once every five years. Harvest volumes and area for respective years are estimated in the management plan, and actual sites to harvest timber will be selected and approved every year. The survey plan will be 100 percent implemented. In principle, harvesting will be conducted in the sites designated in the management plan, but modification of the plan may be approved if it is necessary to harvest in other sites.</p>	✓
S3	<p>同上。来年からの新しい管理計画の編成中であり、収穫予想量も算出される。 Same as above. They are formulating a new management plan that will start next year. They will also calculate predicted harvesting volumes.</p>	✓
S4	<p>第2次県有林管理計画において、保続総括表を作成し、今後50年間の収穫量が示されている。 The second prefectural forest operational plan includes a summary table for sustainable forest operation which shows expected yields over the next 50 years.</p>	✓

5.6.3	<p>The expected level of harvesting is clearly justified in terms of the permanently sustainable yield of the forest products on which the management plan is based.</p> <p>永続的に維持できる林産物収穫という点において、管理計画の基礎となる予想される収穫量のレベルは明らかに正当である。</p>		
MA	<p>全森林のうち収穫を行う経済林は62,000haであり、その年間成長量は約329,000m³と見積もられている。標準伐採量が45,600m³と少ないのは、林齢構成が8齢級から9齢級に集中し、伐期を迎える林分が少ないことが原因である。向こう50年間の年間成長量及び標準伐採量が見積もられており、将来的には年間成長量201,000m³、標準伐採量200,000m³とする目標である。 しかし、現段階では成長量は伐採量よりずっと大きいため、より伐採量を増やし、積極的な木材生産をすることが求められる。</p> <p>Because the economical forest which is harvested is 62,000ha, the estimated annual growth volume of it is 329,000m³. The reason why the standard harvesting volume is small, 45,600m³, is that the forest age structure is concentrated in 8 age class to 9 age class (36 to 45 years old) and the area of forest for final harvesting is small. Annual growth volume and standard harvesting volume for future 50 years are estimated. Target volume is 201,000m³ and 200,000m³, respectively. However, because growth volume is well above the harvesting volume currently, it is required to increase harvesting volume to produce timber actively.</p>	✓	推奨事項 R2007.6
S1	<p>今年度具体的な取り組みはなかった。来年度以降実施予定。 No progress has been made this year. It will be done from next year.</p>	✓	推奨事項 R2007.6

S2	<p>年次ごとに平均的な伐採量を割り当てる。 これまで天然林と人工林の成長量を合わせて保続計算していたが、今後分けるべきかどうか検討中。林道・作業道計画との整合も検討課題。現在の作業団には道路からの距離は考慮されていない箇所もある。 The average harvest volume is allocated to each year. Sustainable harvest volumes have been calculated by combining the growth volumes of natural forests and artificial forests. However, the forest managers are considering whether or not they should differentiate between natural forests and artificial forests. Consistency with the forest road/work road plan shall also be considered. Currently, some operation groups are determined without any reference to the distance from roads.</p>	✓
S3	<p>同上。年次伐採量を定める予定。 天然林と人工林を分けた計算を行うことはしない予定だが、検証は続ける。 Same as above. They will determine allowable harvest volumes for respective years. Though they have no plan to calculate harvest volumes separately for natural forests and artificial forests, they will continue verification.</p>	✓
S4	<p>第2次県有林管理計画では齢級別森林資源表において年間成長量が371,236m³と算出されている。今後10年間の計画収穫量は550,000m³(年間55,000m³)であり、生産量は成長量を下回り永続的な収穫には問題ない。 The annual growth is calculated to be 371,236 m³ in the forest resource table for respective age classes in the second prefectural forest operational plan. Because the planned yield for the next decade is 550,000 m³ (55,000 m³/year), which is less than the growth volume, there is no problem with respect to the long-term harvest.</p>	✓

5.6.4	<p>All assumptions regarding regeneration, growth, abundance, quality and size distribution of the main commercial species are explicit, and in line with the best available data for the locality from relevant research and/or inventories.</p>	
	<p>主要商業種の更新、成長、蓄積量、品質、サイズ分布等に関する提示条件は全て明確であり、地域での最も有効な調査・目録データと同様である。</p>	
MA	<p>森林簿に基づいている。材積表は平成15年3月に更新済み。 It is based on the forest register. The volume table was revised in March 2003.</p>	✓
S1	<p>同上 Same as above</p>	✓
S2	<p>同上 Same as above</p>	✓
S3	<p>同上 Same as above</p>	✓
S4	<p>第2次県有林管理計画の齢級別森林資源表が4つの事業区ごとに作成されている。これは最新の森林簿のデータを基に作成している。県有林においては現在の森林簿には小班の測量データが入力されており、毎年更新しているため、非常に正確である。 In the second prefectural forest operational plan, an age-class-specific forest resource table was created for each of the four subsections. The tables were created based on the data in the latest forest register. As for prefectural forests, the current forest register shows the survey data of small forest compartments. The data is very accurate because it is updated every year.</p>	✓

5.6.5	<p>The expected level of harvesting in the long term does not exceed local or regional expectations of sustainable yield, taking into account any special silvicultural treatments that have been applied.</p>	
	<p>予想される長期の収穫量レベルは、これまで行われてきたいかなる特別な森林の取り扱いを考慮しても、地域の持続的な生産量を上回らない。</p>	
MA	<p>成長量を上回る伐採はない。 The harvesting volume does not exceed growth volume.</p>	✓
S1	<p>同上 Same as above</p>	✓
S2	<p>同上 Same as above</p>	✓
S3	<p>同上 Same as above</p>	✓
S4	<p>同上 Same as above.</p>	✓

6	<p>PRINCIPLE #6: ENVIRONMENTAL IMPACT Forest management shall conserve biological diversity and its associated values, water resources, soils, and unique and fragile ecosystems and landscapes, and, by so doing, maintain the ecological functions and the integrity of the forest.</p>	3.9
	<p>FSC原則#6：環境への影響 森林管理は、生物の多様性とそれに付随する価値、水資源、土壌、そしてかけがえのない、しかも壊れやすい生態系や景観を保全し、生態学的な機能や森林の健全さを維持するものであること。</p>	

6.1		Assessment of environmental impacts shall be completed appropriate to the scale, intensity of forest management and the uniqueness of the affected resources and adequately integrated into management systems. Assessments shall include landscape level considerations as well as the impacts of on-site processing facilities. Environmental impacts shall be assessed prior to commencement of site-disturbing operations.	3.5
		環境へ与える影響の評価は、森林管理の規模や内容、影響を受ける資源の特異性に応じ徹底して行なわれなければならないとともに、管理システムの中に十分に組み込まれていなければならない。評価は、現場設置型（オンサイト）加工設備による影響から、景観レベルでの影響までを含めて、配慮なされなければならない。環境への影響は、作業開始前に評価されなければならない。	
6.1.1		A system is specified that ensures an assessment of environmental impact is made before commencement of any site-disturbing operations. The system: - is appropriate to the scale and intensity of the forest management - takes account of landscape level considerations - is appropriate to the uniqueness of the affected resources	
		林地を攪乱するいかなる作業が行われる前にも、適切な環境影響評価が行われるためのシステムが明記されている。そのシステムは、 - 森林管理の規模と強度にふさわしく、 - 景観レベルの配慮を行い、 - 影響を受ける資源の特殊性に見合うものである。	
	MA	環境影響評価要領を作成している。改善途中である。 林道については、「山梨県環境影響評価条例」に基づき環境影響評価を行っている。 Environmental Impact Assessment Procedure is prepared. It is being reviewed. Environmental impact assessment for forest road is conducted in accordance with the 'Yamanashi Prefecture Environmental Impact Assessment Regulation'.	✓
	S1	環境影響評価要領を改定し、県有林環境調査要領として制定した。作業前に環境影響評価を行い、調査結果は県有林環境調査チェックシートとして記録する。昨年度は、この環境調査により伐採地において猛禽類の巣を発見し、専門家に相談し影響のないよう適切な施業を行った。 The environmental impact assessment guideline was revised, and then enacted as the YPF environment survey guideline. An environmental impact assessment is conducted prior to operations, and the survey results are recorded on the YPF environmental survey check sheet. Last fiscal year, the nest of a raptor was discovered in a harvesting area through this environmental survey, and in consultation with an expert, an appropriate operation was conducted without affecting it.	✓
	S2	上記要領で行っている。 Implemented following the procedure above.	✓
	S3	上記要領で行っている。 Implemented following the procedure above.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.1.2		There is a system to ensure that results of the assessment of impacts are taken account of in subsequent operations.	
		影響評価結果を将来施業へ反映するシステムがある。	
	MA	環境影響評価の結果を施業や林道建設に生かしている。 The result of environmental impact assessment is incorporated into the operations and road construction.	✓
	S1	県有林環境調査の結果を施業に反映させている。 The results of YPF environmental survey have been incorporated into the operations.	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。特に特筆すべき報告事項はなかった。 Same as above. There was no report worthy of special mention.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2a		Safeguards shall exist which protect rare, threatened and endangered species and their habitats (e.g., nesting and feeding areas).	4
		希少種、危急種、絶滅危惧種及びその生息地（例えば、営巣地や採餌場所など）を保護する手段がとられなければならない。	
6.2.1		The likely presence of rare, threatened and endangered species and their habitats (e.g. nesting and feeding areas) has been assessed on the basis of the best available information.	
		最も有効な情報に基づき、希少種、危急種、絶滅危惧種及びその生息域（例えば、営巣地や採餌場など）の存在の可能性が評価されている。	
	MA	2005年に山梨県レッドデータブックを作成。大きなメッシュで生息地を示している。 Yamanashi Prefecture Red Data Book was made in 2005. Habitats are indicated in larger mesh.	✓

	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上。 Same as above.	✓

6.2.2		Areas containing or likely to contain such species or are identified and marked on maps.	
		貴重種がいる、またはいる可能性がある場所を特定し、地図化している。	
	MA	発見された希少種については地図化している。将来GIS化することも検討中。 Discovered rare species are mapped. It is considered to use GIS in the future.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	建設中の中部横断自動車道の県有林内を通るルートにおいて希少種が発見された。GIS化はまだ行っていない。 それ以外に特に希少種の発見はなかった。 A rare species was found in a route in the prefectural forest of Chubu Transversal Expressway which is now under construction. They have not yet developed their own GIS on rare species. There was no other case of discovery of rare species.	✓
	S4	上記希少種については同等環境に移植をして活着状況を見ている。活着してからGIS化をする。 They replanted the above-mentioned rare species in the similar environment and have seen if the plants can take roots or not. They will develop a GIS after the plants take roots.	✓

6.2.3		Procedures are documented and implemented to safeguard such species and their habitats.	
		貴重種とその生息域を保全するための効果的な方法が文書化され実践されている。	
	MA	希少種が発見されれば報告を受け、県森林総研や大学等の専門家と打ち合わせを行い、必要な保護対策をとっている。 貴重な植物については、必要に応じ移植等を行っている。 When rare species are found, it is reported to Yamanashi Prefecture. Yamanashi Prefecture consult with specialists at Yamanashi Forest Research Institute, universities, etc, and take some protect measures to be needed. When rare plant species are found, Yamanashi Prefecture transplant plants if it is appropriate.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	発見された貴重種については移植等の対策を行っている。報告書あり。 As for discovered rare species, they take measures such as transplanting. There is a written report.	✓
	S4	請負業者に対しては希少種の研修を行っている。 They provide training on rare species for the commissioned companies.	✓

6.2b		Conservation zones and protection areas shall be established, appropriate to the scale and intensity of forest management and the uniqueness of the affected resources.	4.5
		保全区域及び自然保護区は、森林管理の規模や内容、影響を受ける資源の特異性に応じて設置されなければならない。	
6.2.4		Areas of special regional importance for biodiversity are identified on maps, and protected from harvesting and other site disturbance.	
		生物多様性について地域的に特に重要な場所は地図に明記され、収穫や他の林地の攪乱から守られている。	
	MA	自然環境保全図にまとめられている。 自然公園一覧、自然環境保全地区、自然記念物が載っている。 管内図にも記載されている。 They are identified on Natural Environment Conservation Map. Natural parks, natural environment conservation area, and natural monuments are mapped. They are also indicated in other forest maps.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2.5		At least 10% of the forest area is designated as a conservation zone, identified on maps, and managed with biodiversity as a major objective.	
		少なくとも森林の10%は保全地帯とされ、地図に明記され、生物多様性を主要な目的として管理される。	
	MA	管理計画 p225 公益林(81,000ha、約56.6%)は自然林の維持を主目的として管理される。 Management plan p225 Public interest forest (81,000ha, approx.56.6%) is managed to maintain natural forest as a main objective.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	管理計画P44。第2次管理計画では、公益林の面積は104,854haとなっている。 Management Plan p44. Public interest forest is 104,854 ha in the Second Management Plan.	✓

6.2.6		At least half of this area (i.e. 5% of the total forest area) is designated as a protected area, identified on maps, and is fully protected from commercial harvesting.	
		少なくともこの区域の半分（つまり、全森林の5%）は保護区とされ、地図に明記され、全ての商業的な収穫から保護される。	
	MA	厳正保存地域(19,000ha、約13.3%)が該当する。 Strictly-protected area (19,000ha, approx.13.3%)	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	厳正保存地域(19,000ha、約13.3%)が該当する。これは公益林に含まれる。 Strictly-protected area (19,000ha, approx.13.3%). It is included in public interest forest.	✓

6.2.7		Selection of conservation zones and protected areas is justified in terms of their potential to maximise their contribution to the maintenance or enhancement of biodiversity	
		保全地帯と保護区の選定は、生物多様性の維持と向上への貢献を最大限にする可能性という点において正当である。	
	MA	多様な生態系を含む。 Includes diverse ecosystems.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2.8		The protected area includes examples of all existing ecosystems within the forest area.	
		保護区は森林に存在する全ての生態系の代表例を含む。	
	MA	山梨県全土の標高の低い地域から高い地域まで含んでいる。 Includes low, middle and high altitude area in whole Yamanashi prefecture	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2.9		The movement of key plant and animal species between reserved and harvested areas is encouraged by retaining corridors of uncut forest based on streamsid es with links up slopes and across ridges to connecting any large patches of forest which will not be harvested.	
		主要な生物種の保護区と施業区間の移動は、非伐採林地のコリドーの維持により促進されている。コリドーは溪流沿いに形成され、斜面から尾根を越えて伐採の対象とならない大きな林分に連絡している。	
	MA	バッファゾーンや保全地帯、保護区の繋がりがコリドーとして機能する。 Network of buffer zone, conservation area and protected area is work as corridors.	✓

	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2c		Inappropriate hunting, fishing, trapping and collecting shall be controlled. 不適切な狩猟、釣り、仕掛け罠、採集は取り締まらなければならない。	4
6.2.10		Systems for controlling hunting, fishing, trapping and collecting of animals or plants are documented. 狩猟、漁業、罠猟、採集等の管理システムは文書化されている。	
	MA	山岳レンジャー、富士山レンジャー、巡視などで監視している。 森づくり推進課で狩猟を管理。鳥獣保護区が指定されている。パトロールも行っている。 漁業は花き農水産課で管理。水産技術センターもある。 Monitored by mountain rangers, Mount Fuji rangers and patrols. Hunting is controlled by Forest Development Promotion Section. Wildlife reserve is designated. Patrol is conducted. Fishery is managed by Flower, Agriculture and Fishery Section. There is a Fishery Technical Centre.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.2.11		Systems are in place to prevent hunting or trapping of protected species. あらゆる手法を活用し保護対象種の狩猟や罠猟を防止する。	
	MA	同上。 Same as above	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.3		Ecological functions and values shall be maintained intact, enhanced, or restored, including: a) Forest regeneration and succession. b) Genetic, species, and ecosystem diversity. c) Natural cycles that affect the productivity of the forest ecosystem.	3.5
		生態的機能や価値は、以下に記載するものを含め、現状が維持されるとともに高められ、あるいは復元されなければならない。 a) 森林の更新及び遷移 b) 遺伝的、樹種、及び生態系の多様性 c) 森林生態系の生産性に影響を与える自然循環	
6.3.1		The silvicultural system adopted is appropriate to the ecology of the forest. 採用されている施業システムは森林生態に対し適切である。	
	MA	計画書p69 5-3に施業体系、P70に施業の基準が記載されている。 受光伐などを用い、林分内の生物多様性を高めることが求められる。 Operational system is stated in p69 5-3, and operational criteria is stated in p70 of the plan. It is required to enhance biodiversity in forest by thinning to introduce sunlight.	✓ 推奨事項 R2007.7
	S1	チャレンジ山梨行動計画で公に間伐等の森林整備推進を謳っており、これに従い積極的に間伐を行っている。昨年度は計画面積1,597haに対し1,794haの間伐を実施した。 Following the "Challenge Yamanashi" action program, which declares the promotion of forest maintenance such as thinning, they have actively conducted thinning operations. An area of 1,794ha was thinned last year, up from the planned area of 1,597ha.	✓ 推奨事項 R2007.7

S2	間伐の推進については、「チャレンジ山梨行動計画[政策3]健全な森作りと力強い林業の振興」で間伐等の森林整備を推進することとしており、これに従って積極的に実施している。昨年1,928haの間伐を実施した。 Policy 3 "Creating healthy forests and developing powerful forestry" of the "Challenge Yamanashi" action program states that forest maintenance such as thinning shall be promoted. The forest managers are actively conducting thinning according to the program. Thinning was conducted in areas of 1,928 ha in the last fiscal year.	✓
S3	引き続き間伐を推進し、保育間伐1302.71haを実施した。間伐の必要箇所は減少しつつある。 They continue to promote thinning and conducted precommercial thinning in 1302.71 ha of forests. The number of forest stands in need of thinning is decreasing.	✓
S4	第2次県有林管理計画では、従来の循環林のなかで地位の低い場所や道から遠い場所をより生態重視の積極的な針広混交林化をすすとしている。 The second prefectural forest operational plan states that the forest manager will actively convert some rotation forests which are low in productivity and far from work roads/forest roads to mixed forests of coniferous and broadleaf trees where ecosystem conservation is highly valued.	✓

6.3.2	Systems that use small clearfell areas, selective felling and create varied age class have been considered. 小さな皆伐区や択伐を用い、多齢層の林分構造へ誘導するシステムが検討されている。	
MA	普通林地においても伐区は10ha以下とされている。林齢構成は現在偏っている。長伐期化の方針。皆伐面積をより小さくすることが求められる。 Clear cut area is regulated to be below 10ha even if it is in a normal forest. Tree age composition is uneven. The policy is that rotation age should be extended. It is required that clear cut area should be smaller.	✓
S1	計画上伐区は10ha以下としているが、5ha以上の皆伐を行うことはめったにない。逆に、小規模な造林事業請負業者の伐採への参加を奨励するため、小面積皆伐地を増やしている。 An area to be thinned is not over 10ha in planning, and clear cutting rarely exceeds 5ha. On the other hand, small-sized clear-cut areas have been increased to encourage small forestation contractors to take part in harvesting.	✓
S2	計画上伐区は10ha以下としているが、5ha以上の皆伐を行うことは少ない。昨年度の公売による売り払い箇所は19箇所あり、そのうち5haを超えたのは2箇所のみで、しかもそれらも6ha程度であった。 Although "less than 10 ha" is stated in the plan, the area of clear cutting rarely exceeds 5 ha. Of the 19 sites that were sold by public auction in the last fiscal year, only two sites exceeded 5 ha. In addition, areas of these sites remained to be about 6 ha.	✓
S3	昨年度は27件の公売があり、そのうち5ha以上の皆伐地は11件あった。カラマツの伐採が拡大しつつある。 In the last fiscal year 27 sites were sold by public action, and 11 of them were clear-cut sites of more than 5 ha. They are cutting a growing number of larch forests.	✓
S4	第2次県有林管理計画では10haの条件は変更がない。しかし実際の皆伐面積は概ね5ha以下である。針広混交林化する林分については皆伐面積の上限を2haとした。 The regulation of "less than 10 ha" is also stipulated in the second prefectural forest operational plan. However, in most cases, the area of clear cutting is less than 5 ha. The plan also stipulates that the clear-cutting area shall be less than 2 ha with respect to the forests to be converted to mixed forests of coniferous and broadleaf trees.	✓

推奨事項
R2007.7

推奨事項
R2007.7

6.3.3	Forestry operations must, if appropriate to the silvicultural system, aim for a mixture of compartments differing in size, shape, species, and date of planting and felling, in harmony with the landscape.	
	施業システムに対し適合すれば、林分規模、形、種構成、そして新植と伐採の時期などが異なった区画の混和を、景観との調和を保ちながら目指さなければならない。	
MA	管理計画p43「多様な生態系の保全」にランドスケープレベルでの管理について言及した。厳正保全地域に隣接する施業予定地では、緩衝帯を設ける等施業指針に従い施業を行う。図面とリストを準備している。 Land scape level management is mentioned in the management plan p43 'Conservation of diverse ecosystems'. Operations are conducted in accordance with the operational policy, e.g. buffer zone should be set in operational area adjacent to strictly-protected area. There is maps and lists.	✓
S1	同上。 Same as above	✓
S2	同上。 Same as above	✓
S3	同上。 Same as above	✓

	S4	管理計画p282「ランドスケープ管理の概念」での管理について言及した。厳正保全地域に隣接する施業予定地では、緩衝帯を設ける等施業指針に従い施業を行う。図面とリストを準備している。 Landscape level management is mentioned in the management plan p282 'Landscape management'. Operations are conducted in accordance with the operational policy, e.g. buffer zone should be set in operational area adjacent to strictly-protected area. There is maps and lists.	✓
--	----	---	---

6.3.4		The scale of felling (e.g. coupe size) is commensurate with the natural dynamics of the forest type and the area under consideration (unless clearly justified silvicultural reasons are given).	
		伐区の規模は、その地域や林型のもつ自然の動的条件と合致している。(林学的に明快な理由がない場合)	
	MA	10ha以下という伐区の規模は自然に悪影響を与えるものではないが、単相の人工林における病虫害の蔓延や急傾斜地での土壌流出などには配慮が必要で、その影響を小さくするため皆伐区面積はより小さくすることが求められる。 Although the scale of 10ha would not negatively affect nature, attention should be paid for insect and disease damage in single species plantation and erosion in steep area. In order to minimise the effect, clear cut area should be smaller.	✓
	S1	計画上伐区は10ha以下としているが、5ha以上の皆伐を行うことはめったにない。逆に、小規模な造林事業請負業者の伐採への参加を奨励するため、小面積皆伐地を増やしている。 An area to be thinned is not over 10ha in planning, and clear cutting rarely exceeds 5ha. On the other hand, small-sized clear-cut areas have been increased to encourage small forestation contractors to take part in harvesting.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。低コスト安定供給推進事業で小面積皆伐を6件実施。平均1.45ha。伐採した材は委託販売した。同事業による間伐も別途実施。 Same as above. The forest manager conducted small-scale clear cutting in 6 sites in the Project for Promoting Low-cost and Stable Supply. The average area of clear-cut sites was 1.45 ha. Felled timber was sold on commission. They conducted thinning separately in the same project.	✓
	S4	6.3.2と同様。 Same as 6.3.2	✓

6.3.5		Management of the forest area as a whole is designed to ensure that the full complement of naturally occurring tree species regenerates successfully in the forest area over the duration of the rotation.	
		森林管理区域は、全体として森林内の全ての樹種が伐期を通じて更新するよう設定されている。	
	MA	伐採後は多様な樹種の更新を図っている。 人工林内の広葉樹も可能な限り維持している。 Various tree species are regenerated after harvesting. Broadleaf trees in plantation are retained as many as possible.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。植付け面積は21年度で62.63ha(補植を含めれば99.64ha)あった。皆伐跡地の単層更新等。 Same as above. In fiscal 2009 planting was conducted in 62.63 ha (or 99.64ha including supplementary planting). Trees were planted to form one-story forests in clear-cut sites.	✓
	S4	積極的な皆伐や帯状択伐の更新種が針葉樹や広葉樹の固有種多種が選定され、一方で単層針葉樹の針広混交林化を進めている。 They select many indigenous species of coniferous and broadleaf trees in the process of regeneration after actively conducting clear cutting and zonal selective thinning. They are also promoting the conversion of one-story coniferous forests into mixed forests of coniferous and broadleaf trees.	✓

6.3.6		Selective felling and thinning regimes are designed to maintain genotypic diversity.	
		択伐や間伐の方法は、遺伝子型の多様性を保つよう設定されている。	
	MA	問題なし No problem	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。苗木需給調整会議があり、山梨県種苗生産組合、森林組合の2系統から苗木を供給している。種子は県内産。 Same as above. They hold meetings to adjust the demand and supply of nursery trees. Two strains of nursery trees are supplied from Yamanashi Prefecture Seeds and Seedlings Productive Cooperation and forestry associations. They use seeds produced in the prefecture.	✓

	S4	特殊な樹種のみ収穫するような択伐・間伐は行っていない。更新苗木に関しては、同上。 The forest manager is not thinning or harvesting any specific species. Re-generation method is as mentioned in 6.3.5.	✓
--	----	---	---

6.3.7		Biodiversity is routinely maintained by the retention of marginal habitats e.g. streamside vegetation, vegetation on rocky outcrops, swamps and heaths.	
		生物多様性は河川・溪流沿いの植物や岩角地、沼地、荒地の植物など、脆弱で微妙な生息地の保護によって常に維持されている。	
	MA	河川沿いは保護地帯とされる。 その他貴重な生態系の場所は保護されている。 Areas along watercourses are designated as protected area. Other areas of rare ecosystems are protected.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.3.8		Standing and fallen dead wood habitats are retained.	
		倒木・枯損木などの動物生息地は、その地域の自然状況に応じて保たれる。	
	MA	保護地域では倒木・枯損木は残されている。 Fallen and dead trees are retained in protected area.	✓
	S1	同上。人工林内でも安全や施業上影響のないものは残すことが求められる。 Same as above. Even in planted forests, it is required to leave what does not affect safety and operations intact.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	倒木・枯損木は支障のない限り残すよう要請している。 The forest manager requested workers to leave fallen/dead trees uncut unless they cause trouble.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.4		Representative samples of existing ecosystems within the landscape shall be protected in their natural state and recorded on maps, appropriate to the scale and intensity of operations and the uniqueness of the affected resources.	4.5
		その景観に含まれる現存の代表的な生態系は、森林管理の規模や内容、影響を受ける資源の特異性に応じ、自然のままの状態では保全されるとともに、地図上に示されなければならない。	
6.4.1		Representative samples of existing ecosystems within the landscape shall be protected in their natural state and recorded on maps, appropriate to the scale and intensity of operations and the uniqueness of the affected resources. (See also 6.2.8)	
		その景観に含まれる現存の代表的な生態系は、森林管理の規模や内容、影響を受ける資源の特異性に応じ、自然のままの状態では保全されるとともに、地図上に示されなければならない。(6.2.8も参照)	
	MA	6.2.8参照 See 6.2.8	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5a		Written guidelines shall be prepared and implemented to: control erosion; minimise damage during road construction, and all other mechanical disturbances;	4
		侵蝕の抑制、林道建設、そして他の全ての機械による被害を最小限のものとするガイドラインが文書化され、実行されなければならない。	
6.5.1		There is written guidance or policies and procedures for new road building, road maintenance and other mechanical disturbance.	
		新しい林道の建設と改修には文書化された方針と手順がある。	
	MA	アセスメント(条例と技術指針に基づく)を行った後、林道規定に基づいて行う。 After assessment is carried out based on regulations and technical policy, road construction is conducted based on the forest road regulations.	✓

	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	県有林造林事業作業路・作業道基準も作成されている。 "The standards on work paths/work roads in the prefectural forest afforestation project" was also created.	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	林道規定、森林作業道規定が作成されている。 They have set regulations on forest roads and forest work roads.	✓

6.5.2		<p>Guidance, Policies and procedures include the following norms for the design and building of new roads:</p> <ul style="list-style-type: none"> - New roads are planned in advance on topographical maps showing existing streams - Roads are fitted to the topography so that a minimum of alterations to the natural features will occur - Wherever possible roads are located on natural benches, ridges and flatter slopes - Road construction in steep, narrow valleys, slip-prone or other unstable areas, natural drainage channels and streambanks is minimised - Roads are not be aligned through environmentally sensitive areas - Embankments and cuttings are stabilised to resist erosion - Drains and culverts are designed to minimise erosion 	
		<p>新しい林道の設計と建設に関する方針と手順には、次の事項が含まれている:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 河川溪流が明記された地形図を使い、前もって新しい林道を計画する。 - 林道は地形に合わせて自然の改変を最小限に抑える。 - できる限りにおいて、林道は平坦地や緩斜面に設定する。 ・ 傾斜の強い狭い谷や滑りやすい不安定な地形、自然の排水路や溪流沿いの地域での林道建設を最小限にする。 - 環境的に脆弱な地域には林道を設定しない。 - 盛土や法面は浸食を防ぐよう安定させる。 - 排水溝や暗渠は浸食を最小限にするよう設定する 	
	MA	林道規定に従っている。 Follow the forest road regulations	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	<p>以前開設された林道・作業道において、側溝や横断溝が詰まるなどして降雨時の排水処理がうまくなされず、縦侵食が起きている場所が観察された。林道整備の選択と集中の結果、特に使用頻度の低い林道で見られた。</p> <p>It was observed that erosion occurred in longitudinal directions in previously constructed forest roads and work roads due to the failure in drainage in clogged street gutters and transverse gutters. As a result of concentration of their maintenance efforts on selected roads, erosion occurred especially in the forest roads that were not used frequently.</p>	✓
	S4	<p>林道等の管理は各林務環境事務所治山林道課の施設管理担当が所管している。補修、改修は維持修繕委託業務により実施している。</p> <p>2011年4月14日に実施した県有林課担当合同会議において、各林務環境事務所県有林課職員に対して、走行上危険な箇所を発見した場合、施設管理担当に対応依頼を行うように指示がされた。</p> <p>現場審査では最大勾配21度の最大傾斜方向に直線区間が長い作業路において縦の深い侵食(雨裂)が起こっていた。今後は森林作業道となり、このような作業道の開設はないが、この作業路についても新しい森林作業道規定に基づき、再点検及び改良をすることが推奨される。</p> <p>Annual Surveillance: Facility managers of the Forest Land Preservation and Forest Road Section in respective forestry and environment offices are responsible for the management of forest roads, etc. Forest roads, etc. were repaired and improved in commissioned maintenance and repair operations. In the Prefectural Forest Section's joint meeting held on April 14th, 2011, employees of the Prefectural Forest Section in the respective forestry and environment offices were instructed to request the facility managers to take measures when they find a hazardous point to drive through on the roads. In the site inspection, a severe longitudinal erosion caused by rainwater was observed on a work path which has a long straight-line portion with a maximum gradient of 21 degrees. They will convert the current work paths into forest work roads and will not build such a work road anymore, but it is recommen</p>	✓

推奨事項
R2010.2

推奨事項
Obs2010.2

6.5.3		<p>Machinery operators receive adequate training and are aware of the requirements with respect to prevention of erosion.</p> <p>機械操作者は十分な訓練を受け水資源の保護に関する要求事項を理解している。</p>	
	MA	<p>請負業者が林道を建設する。資格を保有している。</p> <p>安全衛生面や計画通り実施しているかどうかの研修、また現地確認を行っている。</p> <p>Qualified subcontractors construct forest roads.</p> <p>Training on health and safety and for implementing plans are held, and confirmed on site.</p>	✓
	S1	同上。 Same as above	✓

	S2	同上。設計・監督は県で行い、それに沿って業者が施工する。 Same as above. The prefecture designs roads and supervise subcontractors, and subcontractors build the roads as designed.	✓
	S3	同上。県では施工後の検査も行っている。 Same as above. In addition, the prefecture carries out inspections after construction.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5b		Written guidelines shall be prepared and implemented to: protect water resources. 水資源の保全のためのガイドラインが文書化され、実行されなければならない。	4
6.5.4		Policies and procedures for the design and building of new roads include the following norms with respect to protection of water resources, which are implemented: - Stream crossings are planned before operations begin and shown on relevant maps - The number of stream crossings is minimised - Stream crossings are at right angles to the stream - Valley bottom roads and tracks are kept as far back from the stream as possible - Culverts are designed so they do not obstruct the migration of fish, create fast water velocities or stream beds unsuitable for fish - Drains do not drain into natural watercourses. Where this is unavoidable, regularly emptied silt traps are installed.	
		新しい林道の設計と建設に関する方針と手順には、水資源の保護に関する次の事項が含まれ、順守実践されている： - 河川・溪流との交差は作業前に計画され地図に明記される。 - 河川・溪流との交差は最小限に抑える。 - 河川・溪流に対して直角に交差する。 - 谷間の林道と小道は、河川・溪流からできるだけ離れている。 - 魚の移動を妨げず、魚に不適当な河床や速い流れを形成しないような水路を設定する。 排水は自然の河川・溪流に直接流れこまない。これが適用不可能であれば、定期的に採泥される沈砂池を設置する。	
	MA	林道規定に従っているが、具体的な事項まで触れていない。ただし、現地では問題は見られなかった。 Although forest road regulations are followed, they are not so specific. However there was no problem observed on site.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	現地審査で視察した新たな林道開設箇所では、地形の細かいところに線形の滑らかな林道を通すため切り土量が大きくなり、その結果として法面高も非常に高くなり、水資源の保全の観点における懸念だけでなく、林道に隣接する林分でもその林道が木材の搬出に利用しにくいことなどが懸念される事例があった。設計は林道規定に従っており、安全面、経済面からやむを得ない状況となっているが、近年は極力地形に沿った線形となるよう考慮しており、また法面への階段等の設置や木材集積・作業場所として活用できるように道を拡幅するなど林業面でも考慮している。側溝や横断溝等の水処理は適切に行われていた。 During site inspection, the assessment team observed an uncurved, smooth forest road which was newly built in a site of complex topography. Such a design of the road resulted in a large amount of cut earth and high road slopes. There is concern that the forest road is found to be hard to use for extracting timber from adjacent forest stands, not to mention problems from a viewpoint of water resource conservation. The road design is following the forest road regulations, and the current design is unavoidable from the viewpoint of safety and cost. However road design which fit the geography is considered in recent years, and steps on road slopes and wide area for log yard and working place are also considered in the aspect of forestry. Drainage treatment is conducted appropriately.	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5.5		New roads are not constructed in streambeds. Existing roads in streambeds are closed and replacements are constructed.	
		新しい林道は河床に建設されていない。河床にすでに作られた林道は閉鎖され、代わりが建設される。	
	MA	河床に建設された林道は見られなかった。 There was no forest road observed constructed in streambeds.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5.6		Buffer zones in which harvesting does not take place are established around all permanent watercourses.	
		収穫を行わない緩衝地帯を全ての恒常的な河川・溪流沿いに作っている。	
	MA	尾根、溪流・沢筋沿いには保護樹帯を片側概ね25m設け保護することとしている。特に優先すべき場所を指定し、図面とリストにしている。 It is planned to establish about 25m of buffer zones in each side of areas along ridges, rivers and watercourses. Prioritised area is designated, and those areas are mapped and listed.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。現地において取り組みも確認できた。 Same as above. Their efforts were confirmed in the field.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5.7		There is no evidence of siltation or other damage to water sources.	
		沈泥などの水資源への影響は見られない。	
	MA	見られなかった。 Not observed.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	審査中に大雨が降り河川の濁りが観察されたが、普段は特に観察されていない。 林道管理は県の治山林道課が担当している。作業道は請負業者への作業委託時に、役務費を別途支出し補修してもらうこともある。地域の林道モニターが林道状況の観察を行っている。 River water appeared cloudy when there was a heavy rain during the site inspection. But usually muddy water is not observed. The prefecture's erosion control and forest road section is responsible for the management of forest roads. They sometimes request contractors to repair work roads when entrusting a task to them by paying them costs of the service separately. Local forest road monitors are observing the status of forest roads.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5c		6.5c Written guidelines shall be prepared and implemented to: minimise forest damage during harvesting.	4
		伐採時の森林損傷を最小限化するガイドラインが文書化され、実行されなければならない。	
6.5.8		There are written policies and procedures to minimise forest damage during harvesting and extraction.	
		収穫と搬出の際の森林へのダメージを最小限に抑える方針と手順が明記されている。	
	MA	仕様書に基づいて行っている。 伐採・搬出方法は仕様書で指定するが、必要に応じ請負業者と話し合いを行い行う。 保安林が80数%を占めるため、保安林の保全を図る方法となっている。 Conducted based on the contract specifications. Although harvesting and extracting methods are designated by specifications, prefectural staff discuss with subcontractors as needed. Because protection forest designated by low is over 80%, the methods are designated to conserve them.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	利用間伐期を迎える森林面積が増大し、車両系林業機械の使用が増加する状況において、林内で走行可能な場所があらかじめ定められていない事例が観察された。また事前に計画されている場合でも必要最小限の林内走行が考慮されていないと考えられる事例があった。 Though a growing number of forest stands are entering the period for commercial thinning and the use of vehicle-type forestry machines is increasing, it was observed in some forest stands that the running course of forestry machines had not been determined before operation. In other cases, even if the courses were previously determined, minimizing the moving distance of forestry machines was not taken into consideration.	✓

推奨事項
R2010.3

S4	<p>2011年4月14日に実施した県有林課担当合同会議において、各林務環境事務所県有林課職員に対して、集材路施工の際に、特に留意が必要な箇所については公売公告に条件を提示すること及び、事業による施工の際は設計図書に明示し、任意施工の場合でも施工者に施工計画書等を提出させ、施工前に県職員が確認をし、必要な指示を行うことの対応がなされている。</p> <p>今年度実施している収穫作業においては、請負業者が作業路の変更を行う際には協議書を監督員である県職員へ提出させている。また、現場での機械作業を見る限り、今回は最小源のスペースを使うなどの配慮がなされていた。</p> <p>Annual Surveillance: In the Prefectural Forest Section's joint meeting on April 14th, 2011, employees of the Prefectural Forest Section in the respective forestry and environment offices were instructed to show conditions in public action advertisements for yarding road construction with respect to the sites which need special care. In the case of construction projects, they should show the conditions in drawings and specifications. Also, in the case of optional construction work, they should have the builder submit a construction plan, etc., check it before construction, and give necessary instructions to the builder.</p> <p>In harvest operations conducted this year, they had commissioned companies submit a consultation document to the supervisor, prefectural employees, before making changes to a work path. As far as the assessment team observed workers operating machines in the field, it can be said that the operators took care to minimize</p>	✓
----	--	---

6.5.9	<p>Policies and procedures include the following norms, which are implemented:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Protected areas are physically demarcated, at least temporarily, before any forest operations start on near by land - Harvesting machinery must not enter streams except at designated and designed stream crossings - Lop and top shall not be pushed into streams - Extraction is stopped when soils are saturated - The use of brash mats is specified, where appropriate 	
6.5.9	<p>方針と手順には次の事項が含まれ、実践されている：</p> <p>保護区には、その近隣で森林作業が始まる前に、少なくとも一時的に、物理的な線引きがなされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 収穫機械は、決められた渡り場以外で河川・溪流に進入してはならない。 - 小枝と端材は河川・溪流に入れてはならない。 - 土壌が流れ出したら搬出は中止する。 - 枝葉チップ敷きは適切な場で行う。 	
MA	<p>場所に応じて仕様書を定めている。現場では問題がなかった。</p> <p>Specifications are made for each operation. There was no problem on site.</p>	✓
S1	<p>同上。</p> <p>Same as above</p>	✓
S2	<p>同上。検査のときに河川の中に枝葉があったら上げさせる。</p> <p>Same as above. If branches and leaves are found during inspection, workers shall pick up them.</p>	✓
S3	<p>必要に応じて施工計画書で確認し、現地で指導している。</p> <p>The above points are confirmed with reference to the execution plan and on-site guidance is provided to workers as necessary.</p>	✓
S4	<p>同上</p> <p>Same as above.</p>	✓

6.5.10	<p>Harvesting techniques are designed to minimise erosion and run off.</p> <p>収穫技術は浸食や土砂崩壊を最低限に抑えるようになっている。</p>	
MA	<p>仕様書で求めている。</p> <p>現地でも問題は見られなかった。</p> <p>Required in specifications.</p> <p>There was no problem on site.</p>	✓
S1	<p>同上。</p> <p>Same as above</p>	✓
S2	<p>同上。事前に成熟林調査を行い、土砂崩壊の恐れがあるところは皆伐を行わない。</p> <p>Same as above. Based on the results of a matured forest survey that will be conducted prior to harvesting, clear cutting will not be conducted in the sites where there is a risk of mudslide.</p>	✓
S3	<p>同上。</p> <p>Same as above</p>	✓
S4	<p>同上</p> <p>Same as above.</p>	✓

6.5.11	<p>Harvesting and extraction methods are designed to minimise damage to residual trees and regeneration.</p> <p>収穫と搬出の方法は、残存木と更新苗へのダメージを最低限に抑えるようになっている。</p>	
MA	<p>仕様書で求めている。</p> <p>現地でも問題は見られなかった。</p> <p>Required in specifications.</p> <p>There was no problem on site.</p>	✓
S1	<p>同上。</p> <p>Same as above</p>	✓

	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5.12		New harvesting and extraction machinery is selected taking into account the need to minimise damage to soils, residual trees and regeneration.	
		土壌や残存木、更新苗へのダメージを最小限に抑える収穫・搬出機械が選ばれている。	
	MA	チェーンソー、フォワーダ、スイングヤード、プロセッサ等が使用されている。 Chainsaw, forwarder, swing yarder, processor etc. are used.	✓
	S1	同上。峡南地域では場所に応じ架線集材も行われている。 Same as above. In the Kyounan region, cable yarding is also performed depending on the location.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	機械の使用は請負業者によって異なるが、施工計画書で事前に使用される機械を確認している。 Each contractor uses its own machines, but the forest manager confirms machines to be used with reference to the execution plan before operation.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.5.13		Workers receive appropriate training in harvesting and extraction methods.	
		従業員は適切な収穫と搬出方法の訓練を受けている。	
	MA	後継者育成、技術向上の研修を県森林総研で実施している。 Training on new workers and technic improvement is held by Yamanashi Forest Research Institute.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。研修林を訪問した。 Same as above. The forest for training was visited.	✓
	S4	インタビューで、有資格者が作業にあたっていることを確認した。 It was confirmed in the interview that only qualified workers conduct operation.	✓

6.6a		Management systems shall promote the development and adoption of environmentally friendly non-chemical methods of pest management and strive to avoid the use of chemical pesticides.	3
		管理システムは、環境に配慮した非化学的な病虫害への対処方法を開発し取り入れていくとともに、化学的農薬の使用を避けるよう努めなければならない。	
6.6.1		Documented pest, disease and weed control strategies are available.	
		害虫、樹病、雑草に対する文書化された管理戦略がある。	
	MA	「県有林施業における農薬使用要領」を定めている。 マツクイムシ対策、忌避剤(ヤシマレント)、除草剤(ラウンドアップ)等 シラベの虫害に対しては薬剤は使用していない。 'Procedure on use of agricultural chemicals in the prefectural forest' is made. It includes measures to pine wilt disease, repellent (such as Yashima-Rent), and herbicide (such us Roundup). No chemical is used for insect damage to Shirabe (<i>Abies veitchii</i>).	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	必要に応じ害虫調査を実施している。森林文化の森「稲山ケヤきの森」において、県森林総研がケヤきの害虫であるヤノナミガタチビタムシ(<i>Trachys yanoi</i>)の調査を行っていた。 They conduct surveys on harmful insects as necessary. In a forest culture forest called "Inayama Zelkova Forest," the prefectural forest research institute was carrying out a survey on a zelkova pest, Yanonamigatachibitamamushi (<i>Trachys yanoi</i>).	✓

S4	<p>2001年に富士山シラベ林にて大発生したトウヒツヅリハマキの発生予察調査を継続して行い、10年間の幼虫・成虫発生頭数の推移を把握し、今後の発生の可能性について研究が進められている。発生から10年目に当たり、周期的大発生の可能性等を観察・分析している。</p> <p>また地域によりシカの密度は異なっているが、確実にシカの個体数が増加し、その食害が顕著となりつつある。シカの食害対策については現在、有効な手立てがなく、忌避剤・テープ巻き・柵などの対処療法が一般的である。これは、全国的な問題であるので、隣接県や国と協力・連動し、その解決に向けた取り組みを始めなければならない。</p> <p>The forest manager continues conducting a survey to predict the occurrence of Touhitsu-zurihamaki (<i>Epinotia piceae piceae</i>) which increased dramatically in Shirabe (<i>Abies veitchii</i>) forests of Mt. Fuji in 2001. They grasp the changes in the numbers of larvae and adults over the past decade and are researching the possibility of future outbreak of the insect. As 2011 was the 10th year since the outbreak in 2001, the forest manager is observing and analyzing the possibility of periodic outbreaks, etc.</p> <p>Though the deer density differs among regions, the density shows a steady increase as a whole and feeding damage now appears prominently. There is no effective measure against deer feeding and only stopgap measures, such as using repellent, winding a tape on trees, and setting up fences, have been taken. As it is a nationwide problem, the forest manager should cooperate with the neighboring prefectures</p>	✓
----	---	---

推奨事項
Obs2011.1

6.6.2	<p>6.6.2 Procedures are in place to record all use of synthetic chemicals by the forest management enterprise</p> <p>Records of chemical use include:</p> <p>a) Name of the product</p> <p>b) Location of the site treated;</p> <p>c) Area of the site treated;</p> <p>d) Method of application;</p> <p>e) Date chemical use started;</p> <p>f) Date chemical use finished;</p> <p>g) Total quantity of the chemical used;</p>	
6.6.2	<p>森林管理主体によるすべての合成化学薬品の使用を記録するための手順が整備されている。化学薬品使用記録は以下を含む：</p> <p>a)製品名</p> <p>b)散布された場所の位置</p> <p>c)散布された場所の面積</p> <p>d)散布の方法</p> <p>e)化学品使用の始まった日時</p> <p>f)使用の終了した日時</p> <p>g)合計使用量</p>	
	<p><i>Note to auditors: record quantity of all chemicals used in the past year together with justification of use.</i></p>	
MA	<p>忌避剤 コニファー(ジラム水和剤)、ヤシマレント(チウラム塗布剤)</p> <p>除草剤 ラウンドアップ(グリホサートイソプロピルアミン塩液剤)、ザイトロン(トリクロピル微粒剤)、ザイトロンフレノック(テトラピオン・トリクロピル微粒剤)</p> <p>マツクイムシ防除薬剤 グリーンガード(酒石酸モンテラル溶剤)、センチュリー(塩酸レバミゾール剤)、ヤシマNCS、キルパー(カーバム剤、カーバムナトリウム剤)、マウントT7.5B油剤(MPP油剤)、パインサイドS油剤D、ヤシマバークサイドF油剤(MEP油剤)を使用。 使用量などはすべて記録されている。</p> <p>Repellent Conifer (hydrated ziram), Yashima Rent (Thiuram embrocation)</p> <p>Herbicide Roundup (glyphosate-isopropylammonium liquid), Zaitron (Triclopyr microgranule), Zatron Furenok (Tetrapion, Triclopyr microgranule)</p> <p>Chemical for pine wilt disease Green Guard (Morantel tartrate solvent), Century (Levamisol hydrochloride), Yashima NCS and Kilper (carbam and Metam-sodium), Mount T7.5B oil mixture (MPP oil mixture), Pine Side S oil mixture D, Yashima Bark Side F oil mixture (MEP oil mixture)</p>	✓
S1	<p>パインサイドS油剤D、ヤシマバークサイドF油剤(MEP油剤)はFSC禁止薬品だったため使用を禁止した。昨年度の薬品の取扱量はすべて記録されていた。</p> <p>The use of the Pine Side S oil mixture D and Yashima Bark Side F oil mixture (MEP oil solution) was banned because they were FSC-banned chemicals. The volume of chemicals that were treated last fiscal year has been all recorded.</p>	✓
S2	<p>取扱量はすべて記録。使用量に大きな変化はない。</p> <p>The amounts of chemicals handled have been all recorded. There is no major change in used amounts.</p>	✓

S3	コニファー、ヤシマレント、ラウンドアップ、ヤシマNCS、マウントT7.5B油剤を使用。すべて使用記録がとられている。使用量は減少傾向。 Conifer, Yashima Rent, Roundup, Yashima NCS, and Mount T7.5B oil mixture were used. The use of all of the above chemicals was recorded. Used amounts are decreasing.	✓
S4	コニファー、ヤシマレント、ヤシマNCSを使用。すべて使用記録がとられている。使用量は減少傾向。 Conifer, Yashima Rent, Yashima NCS were used. The use of all of the above chemicals was recorded. Used amounts are decreasing.	✓

6.6.3	Chemicals are only used when absolutely necessary to achieve defined management aims.	
	化学薬品は、定められた管理目標を達成するために必要な場合にのみ使用される。	
MA	使用について検討を行い、必要な場合にのみ使用する。 Use of chemical is considered, and used only when necessary.	✓
S1	同上。 Same as above	✓
S2	同上。 Same as above	✓
S3	同上。 Same as above	✓
S4	同上。 Same as above.	✓

6.6.4	Synthetic chemicals are only used where there is no known non-chemical alternative not entailing excessive cost.	
	合成化学薬品は、他に非常に高価でない非化学薬品の代替物がない場合にのみ使用される。	
MA	同上 Same as above	✓
S1	同上。 Same as above	✓
S2	同上。 Same as above	✓
S3	同上。 Same as above	✓
S4	同上。 Same as above.	✓

6.6.5	A procedure is in place to record the most appropriate non-chemical alternative that was considered and rejected prior to use of the synthetic chemical, together with the justification for use of the chemical rather than the non-chemical alternative.	
	合成化学薬品の使用の前に考慮され、却下された、最適な非化学薬品の代替物を記録し、同時に非化学薬品の代替物ではなく化学薬品を使用することの正当な理由を記録するための、手順が整備されている。	
MA	同上 Same as above	✓
S1	同上。 Same as above	✓
S2	同上。 Same as above	✓
S3	同上。 Same as above	✓
S4	「県有林施業における農薬使用要領」を定めている。極力化学薬品の使用を避ける手順である。 Procedure on use of agricultural chemicals in the prefectural forest ¹ is made. The procedure is to avoid use of chemicals as much as possible.	✓

6.6.6	Chemicals are used only in minimum effective quantities, with strict observation of controls and regulations.	
	薬品は最小有効量しか使用されず、その管理と規則についてはきびしく監視される。	
MA	同上 Same as above	✓
S1	同上。 Same as above	✓
S2	同上。 Same as above	✓
S3	同上。シカ柵や防除バンドなどの物理的防除方法も併用している。 Same as above. Physical pest control means, such as deer fences and bands to prevent decortication, are also used.	✓
S4	同上。 Same as above.	✓

6.6b		World Health Organisation Type 1A and 1B and chlorinated hydrocarbon pesticides; pesticides that are persistent, toxic or whose derivatives remain biologically active and accumulate in the food chain beyond their intended use; as well as any pesticides banned by international agreement, shall be prohibited.	2	
		世界保健機構で規定されているタイプ1A、1B及び塩素系炭化水素農薬（chlorinated hydrocarbon pesticides）、残留性が高く有毒であるとともに、その誘導物質（derivatives）が生物的に活性化し続け使用目的をはるかに超えて食物連鎖の過程で蓄積する農薬、国際条約により禁止されている農薬は、使用が禁止されなければならない。		

6.6.7		The use or storage of these chemicals on certified units is prohibited.		
		認証林地においてこれらの化学薬品を使用または保存することを禁止する。		
	MA	パインサイドS油剤D、ヤシマバークサイドF油剤にはFSCが使用を禁止しているフェニトロチオン(MEP)が含まれているため、直ちに使用を禁止しなければならない。 Because Pine Side S oil mixture D, Yashima Bark Side F oil mixture include fenitrothion (MEP), Yamanashi prefecture shall stop the use of them immediately.	X	条件 C2007.1, C2007.2
	S1	パインサイドS油剤D、ヤシマバークサイドF油剤は現在使用していない。 Pine Side S oil mixture D and Yashima Bark Side F oil mixture are not used any more.	✓	
	S2	同上。 Same as above	✓	
	S3	同上。 Same as above	✓	
	S4	同上。 Same as above.	✓	

6.6.8		The use or storage of seed and seedling dressings based on mercurial, organophosphate and organochlorine compounds (including Gamma HCH, Lindane and BHC), or other long-lasting chemicals which can accumulate in food chains or the ecosystem is prohibited.		
		種・苗木に以下の化学薬品を使用または保存することを禁止する：水銀系、有機リン系、有機塩素系化合物（Gamma HCH, Lindane, BHCを含む）、または他の長期的に残存し食物連鎖や生態系に蓄積する化学薬品。		
	MA	種苗は生産していない。 Seedlings are not grown by them.	✓	
	S1	同上。 Same as above	✓	
	S2	同上。 Same as above	✓	
	S3	同上。 Same as above	✓	
	S4	同上。 Same as above.	✓	

6.6.9		Chemicals classified as Highly Hazardous by FSC shall not be used unless derogation has been approved by FSC. See Annex 6 to this standard.		
		FSCによって高い有害性があると分類された化学物質はFSCによる特別承認がない限り使用してはならない。本規準の付録6を参照。		
	MA	FSCへの特別承認の申請はしていない。 Derogation has not been applied to FSC.	X	
	S1	パインサイドS油剤D、ヤシマバークサイドF油剤は現在使用していないため、FSCへの特別承認の必要はない。 Because Pine Side S oil mixture D and Yashima Bark Side F oil mixture are not used any more, there is no need of derogation application.	✓	
	S2	同上。 Same as above	✓	
	S3	同上。 Same as above	✓	
	S4	同上。 Same as above.	✓	

6.6c		If chemicals are used, proper equipment and training shall be provided to minimise health and environmental risks.	4	
		化学物質を使用する際は、健康と環境に及ぼすリスクを最小限に留めるため、適切な設備と訓練とが整備されていなければならない。		
6.6.10		Training and relevant equipment are provided to all operators.		
		全ての作業者に適切な機材と訓練が施される。		
	MA	請負業者への仕様書で指示する。 Indicated by contract specifications to subcontractors	✓	

	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。数年に一度、機材使用の研修を行っている。 Same as above. Training programs for the use of equipment are provided once every few years.	✓
	S3	同上。今年は上記研修はない。 Same as above. Training mentioned above will not be conducted this year.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.6.11		Fuel tanks and stores are located so that spillages from damage, defects or refuelling shall not enter watercourses.	
		燃料タンクや倉庫は、事故や不具合、補給などで河川・溪流に流れ込まないように配置する。	
	MA	山地での燃料などの保管はない。 There is no storage of fuels and other chemicals in forest.	✓
	S1	同上。仕様書でも明記されている。 Same as above. Also specified in specifications.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.6.12		All equipment for the transport, storage and application of chemicals shall be maintained in a safe and leakproof condition.	
		薬品の運搬、保管、使用のための機器類は、全て安全で漏れのない状態に保たれる。	
	MA	仕様書で謳っている。 Required in the specifications	✓
	S1	同上。仕様書でも明記されている。 Same as above. Also specified in specifications.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.6.13		Application of chemicals within 10m of watercourses and 30m around reservoirs and lakes is prohibited.	
		河川・溪流の10m以内と貯水所と湖の30m以内での化学薬品の使用は禁止する。	
	MA	水に流れ込むところでは使用しないことになっている。 It is regulated not to use chemicals in the area from where water flows into watercourses.	✓
	S1	同上。仕様書でも明記されている。 Same as above. Also specified in specifications.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。特に沢沿いでは植物性チェーンソーオイルを使用することが望ましい。 Same as above. It is desirable to use plant-derived chainsaw oil especially near watercourses.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.6.14		Application if heavy rain is expected, during wet weather, on frozen snow-covered ground or ground that has baked dry during a drought is prohibited.	
		豪雨が予想される時に冬期の凍てついた雪面または乾期で干上がった地面の上での使用は禁止する。	
	MA	雨が降ることが予想されるときには使用しない。 Do not use chemicals when rain is expected	✓
	S1	同上。仕様書でも明記されている。 Same as above. Also specified in specifications.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.6.15		Soaking of seedlings treated with chemicals in drains or watercourses prior to planting is prohibited.	
		植林前に化学薬品で処理された苗木を排水溝や河川・溪流に浸すことは禁止する。	
	MA	行っていない。 Not conducted	✓
	S1	同上。苗木の薬品処理は禁止している。仕様書でも明記されている。 Same as above. Chemical treatment for seedlings are prohibited. Also specified in specifications.	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.7		Chemicals, containers, liquid and solid non-organic wastes including fuel and oil shall be disposed of in an environmentally appropriate manner at off-site locations.	4
		化学薬品、容器、燃料や油を含む液体、固体の非有機廃棄物は、環境に配慮した適切な方法で管理地域以外の場所に処理されなければならない。	
6.7.1		Off-site locations have been identified for the disposal of chemicals, containers, liquid and solid non-organic waste in an environmentally appropriate manner.	
		化学薬品や容器、固体・液体の非有機廃物を環境的に適切な方法で廃棄するための林地外の場所が定められている。	
	MA	廃棄物は持ち帰り適正に処理する。 Wastes are taken back and disposed appropriately.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.7.2		There is a system in place for taking waste to the appropriate locations for disposal.	
		廃棄物を適切な廃棄場所に持って行くシステムが整備されている。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。見つけ次第拾って持ち帰るよう指導している。不法投棄が見られたときには別途対応する。 Same as above. Workers are instructed to pick up and take garbage back home every time they found one. When illegally-dumped waste is found, they take measures separately.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.7.3		Disposal does not take place in watercourses or lakes or by burying.	
		廃棄物を河川・溪流や湖へ投棄したり、林地に埋めない。	
	MA	行っていない。現地では確認されなかった。 Not conducted. Not observed on site.	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	行っていない。現地では確認されなかった。 Not conducted. Not observed on site.	✓

6.7.4		There is no evidence of waste left in the forest.	
		森林内での廃棄物残留は見られない。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓

	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	現地では確認されなかった。 Not observed on site.	✓

6.8		Use of biological control agents shall be documented, minimised, monitored and strictly controlled in accordance with national laws and internationally accepted scientific protocols. Use of genetically modified organisms shall be prohibited.	NA
		生物的防除を利用する場合は、その方法が文書化されるとともに、その利用は最小限に留められ、モニタリングされなければならないとともに、国内法及び国際的に認められた科学的取り決めに従い厳しく管理されなければならない。なお、遺伝子学的に生命体を変化させることは禁止されなければならない。	
6.8.1		6.8.1 There is a procedure in place for the documentation and monitoring of all use of biological control agents.	
		全ての生物的防除の使用に関する文書化とモニタリングの手順が整備されている。	
	MA	生物的防除の使用はない。 No use of biological control agents	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.8.2		Biological control agents are used only when absolutely necessary to achieve defined management aims as part of integrated pest management system (use of naturally occurring organisms is permitted).	
		生物的防除は、統合害虫管理システムの一部として、定められた管理目標を達成するために必要な場合にのみ使用される（自然に発生する生物の使用は許される）。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.8.3		There is no use of genetically modified organisms by the forest management enterprise.	
		森林管理主体による遺伝子組み換え生物の使用はない。	
	MA	遺伝子組み換え生物の使用はない。 No use of GMO	✓
	S1	同上。 Same as above	✓
	S2	同上。 Same as above	✓
	S3	同上。 Same as above	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.9		The use of exotic species shall be carefully controlled and actively monitored to avoid adverse ecological impacts.	3
		外来種の利用は、生態系への悪影響を避けるため、慎重に管理され、頻繁にモニタリングされなければならない。	
6.9.1		All use of exotic species is documented and justified.	
		すべての外来種の使用は文書化され正当な理由付けがされる。	
	MA	異なる土壌分類ごとに使用する植物の選定についてのマニュアルが作成されている。林道法面に外来牧草が必要最低限使用されており、使用後のモニタリングを行っている。特に乙女高原で外来牧草が繁茂していることが確認されたため、注意深くモニタリングすることが必要である。 A manual has been developed to guide the selection of plants for uses on selected soil types. Exotic grass is used on forest road slopes at minimum level, and monitored after used. Because flourishing of it was observed at Otome highland, they should monitor it carefully.	✓
	S1	同上 Same as above	✓

推奨事項
R2007.8

	S2	同上。林道法面では外来種を引き続き使用している。継続したモニタリングが求められる。 Same as above. The use of exotic species in forest road slopes is underway. It is required to continue monitoring.	✓
	S3	林道法面の外来種使用は継続しており、モニタリングも継続している。森林総研で林道法面緑化の試験研究を行っている。在来種種子や表土被覆、種子マットなど、在来種での緑化をより積極的に検討することが望ましい。 They continue both the use of exotic species on forest road slopes and the survey to monitor them. The forest research institute is conducting experimental research on forest slope planting. It is desirable that they give more positive consideration on planting native species by using, for example, seeds of native species, topsoil covers, and seed mats.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

6.9.2		Exotic species used are monitored to evaluate potential adverse ecological impacts.	
		使用されている外来種は生態系に与える潜在的影響を評価するためモニタリングされている。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	外来種が進入した箇所の在来種の刈り払いを行わず、在来種を生長させ林内を暗くする等により、外来種を淘汰させる計画。 そのため、モニタリングとして、デジタルカメラで年1回、6-8月の着葉期に写真撮影を行っている。 今後も引き続きモニタリングを実施する。 At the sites invaded by exotic species, native species are not cut away and will be encouraged to grow with the forests shaded so that the aliens are culled. To achieve this, annual photography has been done as a monitoring with a digital camera during the foliating period from June to August. The monitoring will continue to be conducted.	✓
	S2	乙女高原において外来牧草が認められたため、昨年度に続きモニタリング調査を実施したが、繁茂状況に大きな変化は認められなかった。 Because exotic species were found in Otome Highland, they conducted monitoring this year again, following last fiscal year. No major change was found in the growth status of exotic species.	✓
	S3	乙女高原のモニタリングを継続している。外部には拡大していない。 They continue to conduct monitoring in Otome Highland. Exotic species have not appeared outside of the highland.	✓
	S4	同上 Same as above.	✓

推奨事項
R2007.8

6.9.3		In the event that adverse ecological impacts are identified control actions are implemented.	
		生態系に対する影響が認められたときには、管理対策が実施されている。	
	MA	今まで影響は認められていない。 No impacts has been identified until now.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	現在のところ外来種による森林生態系への影響は認められていない。 Currently there is no ecological impact on forest caused by exotic species.	n/a

6.9.4		The use of exotic grasses on hillsides lining forest roads shall be avoided. NS Japan 2007 Draft 8	
		林道法面の外来牧草等の使用を回避していること	
	MA		
	S1		
	S2		
	S3		
	S4	林道法面の外来種使用は継続しているが、モニタリングも継続している。 They continue both the use of exotic species on forest road slopes and the survey to monitor them.	✓

6.10		Forest conversion to plantations or non-forest land uses shall not occur, except in circumstances where conversion: a) entails a very limited portion of the forest management unit; and b) does not occur on high conservation value forest areas; and c) will enable clear, substantial, additional, secure, long term conservation benefits across the forest management unit.	5
-------------	--	--	----------

6.10		森林を他の土地利用へ転換させてはならない。但し、下記の場合を除く： a) 森林管理区域のごく限られた範囲で行われかつ、 b) 保護価値の高い森林区域が対象とならず、かつ c) 転換することによって、森林管理区域における明確かつ重大な長期的保護の公益がもたらされる場合。		
6.10.1		Forest conversion to plantations or non-forest land uses shall not occur, except in circumstances where conversion: a) entails a very limited portion of the forest management unit; and b) does not occur on high conservation value forest areas; and c) will enable clear, substantial, additional, secure, long-term conservation benefits across the forest management unit.		
		森林を他の土地利用へ転換させてはならない。但し、下記の場合を除く： a) 森林管理区域のごく限られた範囲で行われ、かつ b) 保護価値の高い森林区域が対象とならず、かつ c) 転換することによって、森林管理区域における明確かつ重大な長期的保護の公益がもたらされる場合		
	MA	a), c)に該当する、ごく一部の場所を道路拡幅やダム建設などの公益、公共事業用に売却しているが、そのほかは森林の他の土地利用への転換はない。 A small part of forest applicable to a) and c) is sold for public use such as road widening and dam construction. However other forest area is not converted to other land use.	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上 Same as above	✓	
	S3	同上。高速道路用地等ごく一部を公共事業用に売却している。 Same as above. A small part of forest, such as sites for building an expressway, are sold for public works.	✓	
	S4	同上 Same as above.	✓	

7		FSC PRINCIPLE #7: MANAGEMENT PLAN A management plan -- appropriate to the scale and intensity of the operations -- shall be written, implemented, and kept up to date. The long term objectives of management, and the means of achieving them, shall be clearly stated.	4.0	
		FSC原則#7：管理計画 森林において実施される事業の規模と内容に応じた適切な管理計画が文書化され、それに沿って事業が実施され、また、常に更新されること。また、長期的な見地に立った管理目標、目標達成のための手段が明確に提示されること。		
7.1a		The management plan and supporting documents shall provide: Management objectives. 管理計画及びそれに付随する文書では、管理目的について触れなければならない。	5	
7.1.1		There is a clear statement of the objectives of forest management 森林管理の目的が明示されている。		
	MA	計画書p37に管理方針を記載。 Management plan p37 'Management policy'	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上 Same as above	✓	
	S3	同上。現在次期管理計画の編成中である。 Same as above. They are formulating the next management plan.	✓	
	S4	-		

7.1b(i)		The management plan and supporting documents shall provide a description of the forest resources to be managed and environmental limitations.	4.5	
		管理計画及びそれに付随する文書では、管理対象となる森林資源、環境に関する制限について触れなければならない。		
7.1.2		There is a clear description of the area under management control. 管理下にある地区の明確な説明がある。		
	MA	管理計画P23 「3 県有林の概況」 Management plan p23 '3 Outline of the prefectural forest'	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上 Same as above	✓	
	S3	同上 Same as above	✓	

	S4	-	
--	----	---	--

7.1.3		There is a description of the physical aspects of the management area (e.g. topography, soils, geology, and water resources), appropriate to the scale and intensity of the forest and management programme.	
		管理の規模と強度に相応した、管理区域の外的要素の説明がある（例：地形、土壌、地質、水資源等）。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.4		There is a clear description of any areas under management control, which are excluded from harvesting, for whatever reasons.	
		管理下にて、いかなる理由でも収穫から除外される地区の明らかな説明がある。	
	MA	公益林が該当し、管理計画書に記載されている。 Public interest forest is applicable, and described in the management plan.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.5		Areas that have been harvested in the past are known, and are marked as such on maps.	
		過去に収穫の行われた地区は認知されていて、地図に明記されている。	
	MA	造林台帳に記載されており、GISにより地図化は可能。 Registered in the afforestation register. It can be mapped by GIS.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。GISの業者と検討中。 Same as above. They are considering this issue with a GIS company.	✓
	S4	-	

7.1.6		There is an evaluation of the timber resource (inventory), sufficient in detail and rigour to justify the planned harvesting for the full rotation, and to demonstrate convincingly that yields will be permanently sustainable in successive rotations. (see also Criterion 5.6)	
		詳細かつ伐期を通じた植林計画に忠実な木材資源（目録）の評価があり、以後の収穫が永続的に維持できることを説得するものである。（規準5.6も参照）	
	MA	森林簿 毎年、調査を実施した場所のデータは更新を行う。 Forest register Data of the area where survey is conducted is revised every year.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1b(ii)		The management plan and supporting documents shall provide a description of land use and ownership status, socio-economic conditions, and a profile of adjacent lands.	4.5
		管理計画及びその支持文書では、土地利用と所有状況、社会経済的状況、隣接地の概略について触れなければならない。	

7.1.7		There is a description of the land use and ownership status.	
		土地利用と所有に関する説明がある。	
	MA	管理計画P2 「1 県有林計画の沿革」 Management plan p2 '1 History of the prefectural forest'	✓
	S1	同上 Same as above	✓

	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.8		There is a description of the socio-economic context for management. 管理の社会経済的側面の記述がある。	
	MA	全体に亘り記述されている。 Described in the whole management plan	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.9		There is a description of adjacent land use. 隣接する土地の利用に関する記述がある。	
	MA	山梨県全体の地図があり、隣地の土地利用は明確である。 There is a map of whole Yamanashi prefecture, and the adjacent land use is clear.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1c		The management plan and supporting documents shall provide a description of the silvicultural and/or other management system, based on the ecology of the forest in question and information gathered through resource inventories	3.5	
		管理計画及びその支持文書では、当該森林の生態及び自然資源調査により収集された情報に基づき、育林あるいは他の管理システムについて触れなければならない。		
7.1.10		The silvicultural system on which management is based is clearly stated and justified in terms of the ecology of the forest. 管理の基礎となる施業システムは明確に示され、森林生態的に見ても正しい。		
	MA	管理計画書に施業方法が記載されている。しかし見直しが望まれる。 Operational system is included in the management plan. However it is recommended to review it.	✓	推奨事項 R2007.7
	S1	同上 Same as above	✓	推奨事項 R2007.7
	S2	個々の林分の収穫予想の精度を高めるため、県森林総合研究所と東京大学の共同研究により、山梨県版システム収穫表を作成中である。現在、システムの精度を高めるため必要なデータの収集作業を行っている。例えば、過去の野帳のデータを集計し、現在の林分調査結果と比較検討している。来年度に完成予定である。 In order to raise the accuracy of yield prediction for each forest stand, the prefectural forest research institute and Tokyo University are undertaking a joint study to make a systematic yield table for Yamanashi Prefecture. Now they are collecting data necessary to raise the accuracy of the system. For example, they tally up the figures in the field notes of the past and compare them with the results of the present forest stand survey. The yield table will be completed in the next fiscal year.	✓	
	S3	山梨県版システム収穫表の暫定版が完成した。林分ごとの収穫の検証に使用できる。検証しながら精度を高めていく予定。 収穫予想表は平成15年3月に作成。樹種、地位ごとに、80年生までのものとなっている。 材積表は以前からのものを使用している。 A preliminary version of the systematic yield table for Yamanashi Prefecture was completed. The table can be used to examine the harvest amount in each forest stand. They will improve the precision of the table while studying each case. They developed a yield prediction table in March 2003. It covers stands aged up to 80 years for each tree species and soil productivity class. They continue using the existing timber volume table.	✓	
	S4	-		

7.1.11		The management prescriptions and procedures required to implement the silvicultural system are clearly stated, as, for example: - identification and marking of trees to be retained for future extraction, as seed sources, or to maintain biodiversity; - selection criteria of trees for felling; - method of marking trees or area selected for felling - method of ensuring regeneration;	
		施業システムの実践に必要とされる管理の規定と手順は明確に示されている。例えば： - 種子源や生物多様性の維持を目的とした樹木の識別とマーキング - 伐木の選定の基準- - 選定された伐木・場所のマーキング手法 - 更新を確実にする方法	
	MA	仕様書や計画書で明示している。 ナンバーテープを用いてマーキングする。 伐採後は更新を確実にを行う。 母樹林は、普通13、広葉樹6、特別1、合計20箇所がある。 県有林野調査規定、要領がある。 It is specified by contract specifications and plans. Marking is done with using number tape. It is ensured that regeneration is done after harvesting. There are in total 20 mother tree forest; 13 normal, 6 broadleaved and 1 special forest. There is a regulation and procedure of prefectural forest survey.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	間伐時には標準地をとり伐採対象木、本数を確認。面積に応じてプロット数を決定。 Before thinning operation, a standard plot survey is conducted to confirm trees to be felled and the number of them. The number of plots is determined depending on the area.	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.d		The management plan and supporting documents shall provide rationale for rate of annual harvest and species selection 管理計画及びその支持文書では、年間伐採量及び樹種選択の理論的根拠について触れなければならない。	3	
7.1.12		The management plan and supporting documents shall provide rationale for rate of annual harvest and species selection. 管理計画及びその支持文書では、年間伐採量及び樹種選択の理論的根拠について触れなければならない。		
	MA	5.6参照。 See 5.6	✓	推奨事項 R2007.6
	S1	同上 Same as above	✓	推奨事項 R2007.6
	S2	同上 Same as above	✓	
	S3	同上 Same as above	✓	
	S4	-		

7.1.e		The management plan and supporting documents shall provide provisions for monitoring of forest growth and dynamics. 管理計画及びその支持文書では、森林の成長及び動態に関するモニタリングを行うにあたっての規定について触れなければならない。	4	
7.1.13		Procedures for monitoring forest regeneration and growth are documented and implemented. 森林更新と生長に関するモニタリングの手順は文書化され、実践される。		
	MA	成熟林調査、標準地調査、間伐予定林分の事前調査を行っている。 Matured forest survey, standard plot survey and survey of pre-thinning forest is conducted.	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上。精度をあげるため成熟林調査要領を改定した。 Same as above. The guideline for matured forest survey was modified to raise the precision of the survey.	✓	
	S3	同上 Same as above	✓	
	S4	-		

7.1f		The management plan and supporting documents shall provide: Environmental safeguards based on environmental assessments.	4
		管理計画及びその支持文書では、環境評価に基づく保護方法について触れなければならない。	
7.1.14		The need for fire management and control has been evaluated and is documented.	
		火災予防管理と消火の必要性について正しく評価され文書化される。	
	MA	森林保全巡視事業により巡視している。 12月から4月までの危険なシーズンに火災予防パトロールを行っている。 林道入り口に看板や垂れ幕を設置して予防を啓発している。 乾燥注意報が出たときには市町村の防災無線でも呼びかけている。 They patrol by Forest conservation patrol project. Fire prevention patrol is conducted from December to April when there is a possibility of fire. They alert to prevent fire by setting signboards and banners at the entrance of forest roads. When dry-weather warning is issued, cities, towns and villages also alert it by community wireless system.	✓
	S1	同上。防災計画もある。 Same as above. There is a disaster prevention plan.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。防火帯の草刈は毎年行っている。 Same as above. They conduct weeding in firebreaks every year.	✓
	S4	-	

7.1.15		Environmental safeguards based on environmental assessments are implemented.	
		環境影響評価に基づく環境保護手法が実施されている。	
	MA	環境影響評価要領を作成している。改善途中である。 林道については、「山梨県環境影響評価条例」に基づき環境影響評価を行っている。 Environmental Impact Assessment Procedure is prepared. It is being reviewed. Environmental impact assessment for forest road is conducted in accordance with the 'Yamanashi Prefecture Environmental Impact Assessment Regulation'.	✓
	S1	県有林環境調査が実施されている。 The YPF environmental survey has been conducted.	✓
	S2	同上。 Same as above.	✓
	S3	同上。 Same as above.	✓
	S4	-	

7.1.g		The management plan and supporting documents shall provide: Plans for the identification and protection of rare, threatened and endangered species.	4
		管理計画及びその支持文書では、希少種、危急種及び絶滅危惧種の特定と保護に関する計画について触れなければならない。	
7.1.16		The management plan and supporting documents shall provide plans for the identification and protection of rare threatened and endangered species.	
		管理計画及びその支持文書では、希少種、危急種及び絶滅危惧種の特定と保護に関する計画について触れなければならない。	
	MA	6.2a参照 See 6.2a	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1h		The management plan and supporting documents shall provide: Maps describing the forest resource base including protected areas, planned management activities and land ownership.	4
		管理計画及びその支持文書では、保護地域、管理計画、土地所有形態を含む森林資源に関する基本情報が記載された地図について触れなければならない。	
7.1.17		There are maps showing the forest resource base including protected areas.	
		保護区を含んだ森林資源基盤の地図がある。	
	MA	事業図で示されている。 Mapped by project map.	✓
	S1	同上 Same as above	✓

	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。事業図も管理計画に合わせ更新予定。 Same as above. They also plan to revise the operation map so that it corresponds to the management plan.	✓
	S4	-	

7.1.18		There are maps showing land ownership, are accessible, clear and usable. 土地所有を示す地図があり、利用可能で、明確かつ有効である。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.1.19		There are maps showing planned management in the short term (5-10 years) and longer term (20 years or more). 管理計画を短期(5年から10年)、中期(20年以上)で表している地図がある。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	同上。計画期間は10年のため、20年以上の具体的な施業計画はなく、地図化はなされていない。 Same as above. Because the plan spans only ten years, there is no specific operation plan for over 20 years and mapping has not been performed.	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。100年後の県有林の姿を検討中。 Same as above. They are picturing the shape of the prefectural forest 100 years from now.	✓
	S4	-	

7.2		The management plan shall be periodically revised to incorporate the results of monitoring or new scientific and technical information, as well as to respond to changing environmental, social and economic circumstances. 管理計画は、環境、社会、経済状況の変化に対応するとともに、モニタリング結果、あるいは最新の科学的知見・技術情報に配慮し、定期的に改訂されなければならない。	4	
7.2.1		There is a system in place for the regular revision and updating of the management plan. 管理計画の定期的な見直しと更新のシステムが整備されている。		
	MA	管理計画は5年ごとに更新されている。 文書が多いため、イントラネットなどを活用し、最新文書に簡単にアクセスできる文書閲覧システムがあることが求められる。 The management plan is revised every 5 years. Because there are many kinds of documents, it is required to create browsing system with using intranet which enables people to access updated documents more easily.	✓	推奨事項 R2007.9
	S1	2008年3月6日「職員ポータルへの共用文書の掲載について」に基づいて文書閲覧を開始した。従来からある職員共通の文書閲覧システム「職員ポータル」に関係文書を掲載し、誰もが最新の情報にアクセスできるようにした。 On March 6 2008, public documents became available for viewing based on "Posting of Public Documents on Staff Portal." Relevant documents are now published on the Staff Portal, an existing document viewing system available to all staff, so that any of staff members can access up-to-date information.	✓	
	S2	23年度に管理計画更新予定。 The management plan will be revised in 2011.	✓	
	S3	23年度からの管理計画の更新作業中である。 They are revising the management plan which will start in 2011.	✓	
	S4	-		

7.2.2		Managers are aware of relevant research being undertaken or planned in the area, e.g. concerning forest management, timber production and biology/ecology.	
		森林管理、木材生産、生物学・生態学など関連する調査・研究がその地域においてなされている、または計画されていることを認知している。	
	MA	県森林総合研究所により調査研究が行われている。 試験研究部と普及指導部がある。 試験研究要望を県森林総研に上げ、研究推進会議で研究内容を決定している。約9割は行政からの要望に基づき研究を行っている。 Researches and surveys are conducted by Yamanashi Forest Research Institute. There are Research and Study Dept. and Promotion and Instruction Dept. Yamanashi prefecture requests researches to the Yamanashi Forest Research Institute, and Yamanashi Forest Research Institute decide what researches should do at the research promotion meeting. 90% of researches are based on the requests from the prefecture and local government.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上。ケヤキの害虫であるヤノナミガタチビタマムシの調査を現地で確認した。 Same as above. The assessment team observed that a survey on Yanonamigatachibitamamushi (Trachys yanoi), an insect damaging zelkova trees, was conducted in the field.	✓
	S4	-	

7.2.3		There is evidence that significant findings of such research, as well as the results of monitoring by the forest management enterprise, are incorporated into updated policies, plans and procedures.	
		これらの研究や森林管理主体によるモニタリングの重要な成果が、更新された方針や計画、手順に組み込まれていることが確認できる。	
	MA	管理計画P47 ウに記載。 Management plan p47 (c)	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.3		Forest workers shall receive adequate training and supervision to ensure proper implementation of the management plan.	4
		林業従事者は、管理計画を確実に実行するにあたり、適切な訓練と指導を受けなければならない。	
7.3.1		Managers and supervisors should have an appropriate qualification sufficient to enable them to plan and organise forest operations and other elements of the management plan	
		管理者および監督者は、森林活動および管理計画の他の要素を計画、実施するのに必要な適切な必要要件を有していなければならない。	
	MA	請負業者は作業に必要な資格を有している。 Subcontractors have necessary qualifications.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	随時研修も行っている。 Workshops are held accordingly.	✓
	S3	同上 Same as above	✓
	S4	-	

7.3.2		All workers receive training relevant to their tasks and responsibilities.	
		全ての労働者はその任務と責任に相応しい訓練を受ける。	
	MA	請負業者はほぼ出席している。 Almost all subcontractors receive the training.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	職員研修はほぼ全員参加。請負業者は代表者が主に参加。資格は必要なものは全員取得。チェーンソーなど、一旦資格を取得したものであっても再教育の機会を提供することが望ましい。 Almost all the prefectural employees are required to participate in staff training. As for contractors, in many cases, only representatives take part in the training. Necessary licenses are required to be obtained by all workers. It is desirable to provide workers with chances to receive training again, such as training for handling chainsaw, even if they have already gained qualification.	✓
	S3	同上。11月には希少種と安全装備の研修を行う予定。 Same as above. They will hold workshops on rare species and safety equipment in November.	✓

S4	-	
----	---	--

7.3.3		There are records of training provided to forest workers. 森林労働者に施された訓練の記録がある。	
MA	県森林総研での研修が行われている。 「森林総合研究所事業報告書」の中で、毎年実施状況が報告されている。 教材資料がある。 出先事務所でも研修を計画して実施している。 Training is provided by Yamanashi Forest Research Institute. Results are reported by 'Prefect Report of the Yamanashi Forest Research Institute' every year. There are instruction materials. Regional offices also plan and provide training.	✓	
S1	同上。記録も残している。 Same as above. Records are also kept.	✓	
S2	同上。記録も残している。	✓	
S3	同上。記録も残している。 Same as above. Records are also kept.	✓	
S4	-		

7.3.4		Appropriate to the scale and intensity of the operation there is a policy for training, qualifications, and recruitment that includes skill and experience the basis for recruitment, placement, training and advancement of staff at all levels	
		管理の規模や頻度に応じた、すべてのスタッフの雇用、配置、訓練および昇進の基礎となる技術および経験を含む、訓練、必要要件および雇用の方針がある。	
MA	必要とされる研修計画を立てて実施している。 Necessary training plan is developed and implemented.	✓	
S1	同上。また、県職員に対しても、人材育成システム制度があり、職員研修所では職名に応じたスキルアップ研修もある。そのほか森林総研の研修、林野庁の行う担当者の研修もあり、参加している。 Same as above. In addition, there is a human resource development system for the prefecture staff, and skill-up workshops are held for each job title at Personnel Training Institute. Furthermore, staff participate workshops by Forestry and Forest Products Research Institute and Forestry Agency.	✓	
S2	同上 Same as above	✓	
S3	同上 Same as above	✓	
S4	-		

7.4		While respecting the confidentiality of information, forest managers shall make publicly available a summary of the primary elements of the management plan, including those listed in Criterion 7.1 above	4
		情報の秘密性を尊重する一方、森林管理者は、規準7.1で挙げたような事項を含む管理計画についての基本的事項の概要を公開しなければならない。	
7.4.1		A summary of management activities is available to all interested parties, within the accepted norms of commercial confidentiality. [N.B. A summary of the main elements of the management plan listed in Criterion 7.1 above will be included in Soil Association's public summary of the evaluation, if a certificate is awarded]	
		管理活動の要約は、許容される商業的機密の範囲内において、関心を示す者には入手可能である。[注：規準7.1にある管理計画の概要は、ウッドマークの公開審査概要報告書に、認証された際に公開される。]	
MA	ホームページで公表している。 管理計画P277で管理計画樹立の経緯を示しており、公開までの手順が定められている。 The summary of the management plan is made public on webpage. How to develop and made public the management plan is specified in the management plan p277.	✓	
S1	同上 Same as above	✓	
S2	同上 Same as above	✓	
S3	同上。来年度更新される計画も公開予定。 Same as above. They will also disclose the plan which will be revised next year.	✓	
S4	-		

8		FSC PRINCIPLE #8: MONITORING AND ASSESSMENT Monitoring shall be conducted -- appropriate to the scale and intensity of forest management -- to assess the condition of the forest, yields of forest products, chain of custody, management activities and their social and environmental impacts.	4.0
		FSC原則#8：モニタリングと評価 森林管理の規模と内容に応じた適切なモニタリングが、森林の状態、林産物の生産量、生産・加工・流通各段階、管理作業およびそれらが社会や環境に与える影響を評価するために行われること。	
8.1		The frequency and intensity of monitoring should be determined by the scale and intensity of forest management operations as well as the relative complexity and fragility of the affected environment. Monitoring procedures should be consistent and replicable over time to allow comparison of results and assessment of change.	4
		モニタリングの頻度とその内容は、影響を受ける環境の相対的な複雑性や脆弱性ととも、森林施業の規模と内容に配慮して決定されるものとする。モニタリング方法は、結果が比較でき、変化が評価できるように、首尾一貫しているとともに反復できるものでなければならない。	
8.1.1		There is a system for monitoring the impacts of forest operations on the site.	
		森林施業が土地に与える影響をモニタリングする効果的なシステムが存在する。	
	MA	管理計画p47 各種モニタリング Management plan p47 'Montoring'	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	
8.1.2		The frequency and expense of monitoring is appropriate to the scale and intensity of forest management operations as well as the relative complexity and fragility of the affected environment.	
		モニタリングの頻度や出費は森林管理の規模と強度に相応しく、影響される環境の複雑さと繊細さにも見合っている。	
	MA	見合っている。 Appropriate	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	
8.1.3		Procedures are consistent and replicable over time to allow comparison and assessment of change.	
		変化を比較・評価できるように、手順は長期にわたって一貫し、反復可能である。	
	MA	反復可能である。 Replicable	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	
8.1.4		Monitoring records are maintained in a well-ordered, up-to-date and accessible form.	
		モニタリング記録は整理、更新され、照査可能な形態で保管されている。	
	MA	記録が保管されている。 Records are kept.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.2a		Forest management should include the research and data collection needed to monitor: Yield of all forest products harvested.	4	
		収穫された全ての林産物の生産量のモニタリングに必要な調査とデータ収集が行われている。		
8.2.1		Yields of all forest products harvested are recorded.		
		すべての林産物の収穫量は記録される。		
	MA	記録されている。 Recorded	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上 Same as above	✓	
	S3	-		
	S4	-		

8.2b		Forest management should include the research and data collection needed to monitor: Growth rates, regeneration and condition of the forest.	4	
		森林の成長、更新及び森林の状態のモニタリングに必要な調査とデータ収集が行われている。		
8.2.2		Where standard growth models or information on regeneration of commercial species is not known, there is a programme in place to collect detailed information for future management.		
		商業樹種の標準成長モデルや更新の情報がない場合には、将来の管理のために詳しい情報を得るためのプログラムが整備されている。		
	MA	成熟林調査、標準地調査、間伐予定林分の事前調査が行われている。 Matured forest survey, standard plot survey and survey of pre-thinning forest is conducted.	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	個々の林分の収穫予想の精度を高めるため、県森林総合研究所と東京大学の共同研究により、山梨県版システム収穫表を作成中である。現在、システムの精度を高めるため必要なデータの収集作業を行っている。 In order to raise the accuracy of yield prediction for each forest stand, the prefectural forest research institute and Tokyo University are undertaking a joint study to make a systematic yield table for Yamanashi Prefecture. Now they are collecting data necessary to raise the accuracy of the system.	✓	
	S3	-		
	S4	-		

8.2.3		The condition of the forest (presence of pests, diseases, evidence of soil compaction, erosion etc) is regularly monitored and reviewed.		
		森林の状態（害虫、樹病の存在、土壌固化、侵食の形跡など）は定期的にモニタリングされ見直されている。		
	MA	森林巡視、山岳レインジャー等で巡視を行っている。 請負業者からの随時の報告がある。 Forest patrol, Mountain ranger etc. monitor. Occasional report from subcontractor	✓	
	S1	同上 Same as above	✓	
	S2	同上。環境影響調査でも確認。 Same as above. Confirmed by environmental impact survey also.	✓	
	S3	-		
	S4	2001年に富士山シラベ林にて大発生したトウヒツヅリハマキの発生予察調査を継続して行い、10年間の幼虫・成虫発生頭数の推移を把握し、今後の発生の可能性について研究が進められている。発生から10年目に当たり、周期的大発生の可能性等を観察・分析している。シカの食害が拡大している。シカの食害対策については現在全国的に有効な手段が見出せていない。今後の調査、関係機関との連携、そして定期モニタリングが重要である。 The forest manager continues conducting a survey to predict the occurrence of Touhitsu-zuriamaki (<i>Epinotia piceae piceae</i>) which increased dramatically in Shirabe (<i>Abies veitchii</i>) forests of Mt. Fuji in 2001. They grasp the changes in the numbers of larvae and adults over the past decade and are researching the possibility of future outbreak of the insect. As 2011 was the 10th year since the outbreak in 2001, the forest manager is observing and analyzing the possibility of periodic outbreaks, etc. Though the deer density differs among regions, the density shows a steady increase as a whole and feeding damage now appears prominently. There is no effective measure against deer feeding and only stopgap measures, such as using repellent, winding a tape on trees, and setting up fences, have been taken. As it is a nationwide problem, the forest manager should cooperate with the neighboring prefectures and the national government and start making efforts to solve the problem.	✓	推奨事項 Obs2011.1

8.2c		Forest management should include the research and data collection needed to monitor: The composition and observed changes in the flora and fauna.	4
		動植物の構成状態と観測された変化のモニタリングに必要な調査とデータ収集が行われている。	
8.2.4		Conservation areas (see 6.2) are regularly monitored to ensure that there is no evidence of deterioration or disturbance.	
		保全地帯（6.2参照）は定期的にモニタリングされて、自然崩壊や人為干渉がないか確かめられている。	
	MA	森林巡視、山岳レンジャー等が巡視を行っている。 Forest patrol, Mountain ranger etc. monitor.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.2.5		Forest managers provide for monitoring of the effects of forestry operations on plant and animal species, including aquatic habitats (names, abundance, distribution, habitat requirements, biology, ecology, behaviour), commensurate with the extent and intensity of the forest management, and the rarity and fragility of the forest ecosystem and known species within it..	
		森林管理者は、森林管理の規模と強度、また森林生態系やその中の種の希少性・繊細さに応じて、水生生物も含む動植物（種名、発生量、分布、生息条件、生物学的・生態学的特徴、行動様式）への森林施業の影響を適切にモニタリングしている。	
	MA	県森林総研によりさまざまな調査研究が行われている。 Many researches and surveys are conducted by Yamanashi Forest Research Institute.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.2d		Forest management should include the research and data collection needed to monitor: Environmental and social impacts of harvesting and other operations.	4
		収穫及び他の作業により生じる環境と社会への影響のモニタリングに必要な調査とデータ収集が行われている。	
8.2.6		There are meetings with representatives of local communities, at which any concerns regarding the social or environmental impacts of operations are recorded.	
		地域社会の代表者との定期的な会合がおこなわれ、影響（社会的・環境的）に関する関心事項が記録されている。	
	MA	計画策定時に意見聴取を行っている。 アンケートを行っている。 各種会合で意見を聞いている。 They consult with people when the plan is revised. They send questionnaire. They receive opinion at some meetings.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.2.7		Monitoring programmes are designed, documented and implemented to collect data related to environmental impacts. Such data might relate to: water quality, seasonal water flow, fish populations, wildlife populations.	
		地域社会からの関心事項に関する情報を収集するためのモニタリングプログラムが策定され、文書化され、実践される。情報例：水質、季節的な水流、魚類個体数、野生生物の個体数など。	
	MA	河川の水質調査は県の別部署、または国で行われている。水道の水質調査も行われている。 県の別部署で、特定鳥獣保護管理計画でシカの個体数のモニタリングが行われている。 Water quality survey of rivers is conducted by another department of the prefecture and national government. Water quality survey of water system is also conducted. The number of deer is monitored in the specific animals and birds protection and control plan.	✓
	S1	同上 Same as above	✓

	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.2e		Forest management should include the research and data collection needed to monitor: Costs, productivity, and efficiency of forest management.	4
		森林管理にかかる費用、森林管理の生産性その効率性をモニタリングするために必要な調査とデータ収集が行われている。	
8.2.8		There are clear accounts for the forest enterprise.	
		明確な森林管理主体の計算書がある。	
	MA	計算書があり、必要な費用が組み込まれている。 There is a budget and necessary fees are incorporated.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	請負業者により労働条件、所有林業機械、資格、スキル等が異なる。現場審査でも、労働条件の不一致、作業者の考えの違い、また非効率な作業等を観察した。全県での統一的な作業の実施には、請負事業者の労働条件や作業能力等のレベル向上と均等化を目指さなくてはならない。 Labor conditions, forestry machines, and workers' licenses and skills differ among commissioned companies. In the site inspection, differences in labor conditions and workers' way of thinking were confirmed. Inefficient operations were also observed. In order to standardize forestry operations in the entire prefecture, the forest manager should aim to raise and standardize the levels of labor conditions and work ability of the commissioned companies.	✓

推奨事項
Obs2011.2

8.3		Documentation shall be provided by the forest manager to enable monitoring and certifying organisations to trace each forest product from its origin, a process known as the "chain of custody."	4
		監査および認証を行なう機関が各々の林産物の原産地点からの追跡—“Chain-of-Custody” (COC) と言われる—を実施するための書類が森林管理者により提示されなければならない。	
8.3.1		Forest products that are to sold as certified are readily identifiable as originating from the evaluated forest. This may be achieved through physical marking of the timber, a system of paper control, daily or weekly production records, or a combination of these and similar techniques.	
		認証品として販売される林産物は、審査された森林から産出されたものであるということが容易に識別できる。これは木材への物理的なマーキング、書類管理システム、毎日・毎週の加工記録、またこれらの組み合わせやこれらに類似した方法で実施される。	
	MA	県有林FSC認証ラベル取り扱い要領 丸太一式にはFSCラベリングバンドを使用する。 単木でマーキングする際には極印を押す。 Procedure for treatment of FSC certified label in the prefectural forest When logs are bundled, FSC labelling band is used. When each logs are marked, punch mark is used.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	現在は刻印は使用していない。バンドで表示する。 Currently punch marks are not used. Instead, products are marked by bands.	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.3.2		The forest management enterprise maintains control of the chain of custody of the timber up to the point of sale.	
		森林管理主体は販売時点までの木材のCOC管理を行う。	
	MA	立木での販売または県森連の市場で丸太での販売を行っている。 Standing trees are sold, and logs are sold at the log yard of the Federation of Forestry Associations of Yamanashi Prefecture.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.3.3		Invoices issued for certified timber sales specify: - The source of the certified timber - the date of sale - the quantity of certified timber sold - the specifications (species, dimensions, quality) of certified timber sold - the point at which the buyer shall take control of the chain of custody of the certified timber - certificate code - correspond to details on delivery documents	
8.3.3		認証木材の販売の伝票は以下の事項を明記する: - 認証木材の供給源 - 販売日 - 販売された認証木材の材積量 - 販売された認証木材の仕様(樹種、直径、品質) - 購入者が認証木材のCOC管理を引き継ぐ時点	
	MA	送り状を使用している。 FSC認証材出荷証明を出している。 Delivery notes are used. Sales proof of FSC certified materials are issued.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上。丸太販売の時にはかならず出荷証明を出す。 Same as above	✓
	S3	同上。出荷証明はデータで保管している。 Same as above. Data of delivery certificates is maintained.	✓
	S4	-	

8.4		The results of monitoring shall be incorporated into the implementation and revision of the management plan.	4
		モニタリング結果は、管理計画の実行及び改訂に反映されなければならない。	
8.4.1		There is a system that demonstrates how the results of monitoring are incorporated into the revision of management plans.	
		モニタリングの結果が更新された管理計画に反映される方法を示すシステムがある。	
	MA	反映させる。 Incorporated	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上。モニタリング結果は次回反映される。 Same as above. Monitoring results will be incorporated into the next plan.	✓
	S3	-	
	S4	-	

8.5		While respecting the confidentiality of information, forest managers shall make publicly available a summary of the results of monitoring indicators, including those listed in Criterion 8.2.	4
		情報の秘密性を尊重する範囲内で、森林管理者は、規準8.2の事項を含むモニタリング結果についての概要を公開しなければならない。	
8.5.1		Forest managers agree to make the results and/or a summary of the monitoring programmes available to all interested parties, within the accepted norms of commercial confidentiality, on request	
		森林管理者は、許容される商業的機密の範囲内で、モニタリングの結果を要求に応じ関心のある者に対して提供することに同意する。	
	MA	モニタリング結果をまとめて公表している。 森林生態系モニタリング調査について、H9からH18までの10か年の調査結果をまとめ、各都道府県、研究機関に送付した。 Monitoring results are summarised and made public. Results of forest ecosystems monitoring survey for 10 years (from 1997 to 2006) were summarised and sent to each prefecture and research institutes.	✓
	S1	同上 Same as above	✓
	S2	同上 Same as above	✓
	S3	-	
	S4	-	

9		FSC PRINCIPLE #9: MAINTENANCE OF HIGH CONSERVATION VALUE FORESTS Management activities in high conservation value forests shall maintain or enhance the attributes that define such forests. Decisions regarding high conservation value forests shall always be considered in the context of a precautionary approach.	4.0
		FSC原則#9：保護価値の高い森林（HCVF）の保存 保護価値の高い森林の管理は、その森林の特質を維持、または高めるものでなければならない。保護価値の高い森林に関する決定は、常に慎重に行わなければならない。	
		High Conservation Value Forests are those that possess one or more of the following attributes: a) forest areas containing globally, regionally or nationally significant : - concentrations of biodiversity values (e.g. endemism, endangered species, refugia); and/or - large landscape level forests, contained within, or containing the management unit, where viable populations of most if not all naturally occurring species exist in natural patterns of distribution and abundance b) forest areas that are in or contain rare, threatened or endangered ecosystems c) forest areas that provide basic services of nature in critical situations (e.g. watershed protection, erosion control) d) forest areas fundamental to meeting basic needs of local communities (e.g. subsistence, health) and/or critical to local communities' traditional cultural identity (areas of cultural, ecological, economic or religious significance identified in co-operation with such local communities).	
		保護価値の高い森林とは、以下の特長を1つ以上持ち合わせている森林である： a) 森林には、世界的あるいは地域的、国家的にみて以下の意味で重要である： 1.生物多様性の観点から、価値が高い(固有性、絶滅危惧種、保護主など)かつ、(または) 2.自然派生種の多く、または全てが自然の状態の分布と量で存在するような、管理区域内あるいは、管理区域にまたがる景観レベルの大面積の森林 b) 希少種、絶滅危惧種やその心配のある種が存在する森林地 c) その存在がなくなれば危機的な状態を引き起こす森林(流域保全、侵食保護など) d) 地域社会の基本的ニーズ(生存、健康など)を満たすために、重要な機能を提供している、あるいは地域社会の伝統文化やアイデンティティー(地域社会と協力して特定される文化的、生態的、経済的あるいは宗教的重要性など)にとって重要な森林	
9.1		Assessment to determine the presence of the attributes consistent with High Conservation Value Forests will be completed, appropriate to scale and intensity of forest management.	4
		保護価値の高い森林の特質を判断する際、森林管理の規模および内容に応じた評価が不備なく行われるものとする。	
9.1.1		Forest managers are able to provide a definition of High Conservation Value Forest for their region.	
		森林管理者はその地域における保護価値の高い森林の定義を提出することができる。	
	MA	管理計画P210、211に保護林の記載がある。これを保護価値の高い森林とする。これは上記の保護価値の高い森林の定義のうち、a)にあてはまる。 Protected forest is described in p210 and 211 of the management plan. Other than this, there are academic reference forests. Both kinds of forest are designated as HCVF. These forests are classified a) and/or b) of definition of HCVF mentioned above.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
9.1.2		Forest managers have assessed whether High Conservation Value Forests is present in the area under their control.	
		森林管理者は保護価値の高い森林が管理地内に存在するかどうか評価している。	
	MA	9.1.1と同。 Same as 9.1.1	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓
9.1.3		Areas identified as High Conservation Value Forests are marked on maps.	
		保護価値の高い森林として特定された地域は地図に明記されている。	
	MA	地図化されている。 Mapped.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

9.2		The consultative portion of the certification process must place emphasis on the identified conservation attributes, and options for the maintenance thereof.	4
		認証過程においては、保護すべき特質の維持のための諸手法について、重点的に聞き取りがなされなければならない。	
9.2.1		Forest managers should consult with relevant stakeholders on the identification of High Conservation Values and management options for any High Conservation attributes identified.	
		森林管理者は高い保護価値の特定および特定された高い保護の特徴の管理手法について関係者に聞き取りを行わなければならない。	
	MA	保護林は地元からの要望に基づき設定された。今後も、県有林管理計画書再編時に保護団体等地元の意見を聞く中で、保護が必要と認められる森林については、必要に応じて現地協議を行いながら、保護林として設定する。 Protected forest was designated based on the local request. Local people and organisations such as protection groups are consulted when the prefectural forest management plan is revised, and if some forests are recognised that they should be protected, more discussion with local people are held if necessary, and protection forest is established.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	第2次県有林管理計画を策定するにあたり、市町村、保護団体、学識有識者へ意見募集を行った。特に新しく保護価値が高いと認められた森林はなかった。 They invited opinions of the local municipalities, conservation groups, citizens of the prefecture, and academic experts before formulating the second prefectural forest operational plan. There was no forest that was additionally considered as a HCVF.	✓

9.3		The management plan shall include and implement specific measures that ensure the maintenance and/or enhancement of the applicable conservation attributes consistent with the precautionary approach. These measures shall be specifically included in the publicly available management plan summary.	4
		管理計画は、特質が確実に維持され高められるよう、慎重な措置を盛り込むとともに、実施されなければならない。この措置は、公開される管理計画の概要文書に具体的に明示されなければならない。	
9.3.1		Specific protection measures are detailed and implemented for identified High Conservation Value areas and/or attributes.	
		高保護価値森林と特定された地区には特別な保護手法が定められ、適用される。	
	MA	禁伐として保護する。 Protected by prohibit harvesting.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

9.3.2		The identified protection measures adopt a precautionary approach.	
		定められた保護手法は予防手段を用いている。	
	MA	同上 Same as above	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

9.3.3		The identified protection measures are included in the publicly available management plan.	
		定められた保護手法は公開された管理計画に含まれている。	
	MA	管理計画書に記載されている。 Written in the management plan	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

9.4		Annual monitoring shall be conducted to assess the effectiveness of the measures employed to maintain or enhance the applicable conservation attributes.	4
		年に一度はモニタリングが実施され、保護特質が維持され高めるように取られている措置が効果的なものであるかが評価されなければならない。	
9.4.1		A programme of at least annual monitoring, appropriate to the size and vulnerability of the conservation attributes, is documented and implemented.	

		保護すべき特徴の規模と脆弱性に相応して、少なくとも年に1度はモニタリングを行う計画が文書化され実行されている。	
	MA	通常のモニタリングのシステム内で行っている。 Conducted within the whole monitoring system.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	通常のモニタリングのシステム内で行っていることをインタビューで確認した。 It was confirmed through interview that the forest manager has conducted monitoring within the whole monitoring system.	✓

10		FSC PRINCIPLE #10: PLANTATIONS Plantations shall be planned and managed in accordance with Principles and Criteria 1 - 9, and Principle 10 and its Criteria. While plantations can provide an array of social and economic benefits, and can contribute to satisfying the world's needs for forest products, they should complement the management of, reduce pressures on, and promote the restoration and conservation of natural forests.	3.9
		FSC原則#10：植林 植林は、原則の1から9及び原則10とその規準に従って計画および管理されるものとする。植林は、社会的、そして経済的便益を提供し、世界の林産物需要を満たすとともに、自然林の管理を補助し、自然林への利用圧を軽減し、その復元および保全を推進するものであること。	
10.1		The management objectives of the plantation, including natural forest conservation and restoration objectives, shall be explicitly stated in the management plan, and clearly demonstrated in the implementation of the plan. 自然林の保全及び復元の目的を含む植林の管理目的が、管理計画に明確に述べられるとともに、それが確実に実行されなければならない。	4
10.1.1		Natural forest conservation and restoration are explicitly included within the objectives of plantation management. 自然林保護と回復は植林管理の目的に明確に含まれる。	
	MA	木材生産に適さない地域の人工林は順次広葉樹林への遷移を図る。 Plantations which are not suitable for timber production will be changed to broadleaf forest gradually.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	第2次県有林管理計画では、従来の循環林のなかで地位の低い場所や道から遠い場所をより生態重視の積極的な針広混交林化をしようとしている。 The second prefectural forest operational plan states that the forest manager will actively convert some rotation forests which are low in productivity and far from work roads/forest roads to mixed forests of coniferous and broadleaf trees where ecosystem conservation is highly valued.	✓

10.1.2		Strategies and procedures for achieving these objectives are effectively implemented. これらの目的を達成するための戦略と手順は効果的に導入されている。	
	MA	管理計画書に記載されている。 これまで約40haの演習場周辺の被弾した森林を回復するため、伐採し、前生樹種を植林している。 Described in the management plan. In order to recover 40ha of damaged forest around exercise area of Self-Defence Forces, they have been cut and planted with native species.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.2a		The design and layout of plantations should promote the protection, restoration and conservation of natural forests, and not increase pressures on natural forests. 植林の計画と配置は、自然林の保護、復元そして保全を促進するものでなければならず、自然林への利用圧を増加するものであってはならない。	4
10.2.1		Plantation management is designed to maintain or enhance characteristics of adjacent natural forest 植林管理は、隣接する自然林の特徴を保つまたは拡大するよう計画される。	
	MA	間伐により林内の照度を高め下草の繁茂を促す。 Illuminance level is enhanced and understory vegetation is promoted by thinning.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.2b		Wildlife corridors, streamside zones and a mosaic of stands of different ages and rotation periods, shall be used in the layout of the plantation, consistent with the scale of the operation.	4
		植林地の配置は、森林施業の規模にあわせ、野生生物のコリドー、河岸地帯、異なった林齢・伐期のモザイク的な配置がとり入れられなければならない。	
10.2.2		There are documented policies and procedures which ensure that: - a mosaic of stand ages and rotations are created and maintained; - wildlife corridors are provided; - where there are corridors of natural vegetation by streamside or in gullies these are protected from planting and harvesting operations, and developed into streamside reserved areas; (see 6.2 and 6.3 for other norms)	
		以下の事項を確実にする文書化された方針と手段がある: ・異なる林齢や伐期齢のモザイクが形成され維持されている。 ・野生動物のコリドーが形成されている。 ・河川・溪流の側や谷間に自然植生のコリドーがあれば、これらは植林・伐採作業から守られ、河川・溪流沿いの保護区として設定する。 (他の規準について6.2と6.3を参照)	
	MA	尾根、溪流・沢筋沿いには保護樹帯を片側概ね25m設け保護しつつある。 About 25m of buffer zones in each side of areas along ridges, rivers and watercourses has been established.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.2c		The scale and layout of plantation blocks shall be consistent with the patterns of forest stands found within the natural landscape.	3.5
		植林区画の規模と配置は、当該する自然景観内で見られる林分パターンと整合したものでなければならない。	
10.2.3		Both general siting and internal design of plantations are in harmony with the landscape of the area.	
		植林の配置と林分構造双方ともその地区の景観と調和する。	
	MA	人工林と広葉樹林が適度に混ざり地域の景観と調和している。 Plantations and broadleaf forests are mixed appropriately and in harmony with the local landscape.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.3		Diversity in the composition of plantations is preferred, so as to enhance economic, ecological and social stability. Such diversity may include the size and spatial distribution of management units within the landscape, number and genetic composition of species, age classes and structures.	4
		経済的、生態的、社会的安定性を高めるように、植林の構成は多様であることが望まれる。このような多様性には、その景観内での管理区画の規模や配置、種の数と種の遺伝的構成、林齢及び構成があげられる。	
10.3.1		Management planning includes evaluation of economic, ecological and social stability.	
		管理計画には経済、環境および社会の安定性の評価が含まれている。	
	MA	経済面、環境面及び社会面の評価が含まれている。 Evaluation of economic, ecological and social aspects are included.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.3.2		Management promotes diversity of plantation size and distribution in the landscape.	
		景観レベルでの植林地の大きさおよび分布の多様性が促進されている。	
	MA	10ha以下という伐区の規模は自然に悪影響を与えるものではないが、単相の人工林における病虫害の蔓延や急傾斜地での土壌流出などには配慮が必要で、その影響を小さくするため皆伐区面積はより小さくすることが求められる。 Although the scale of 10ha would not negatively affect nature, attention should be paid for insect and disease damage in single species plantation and erosion in steep area. In order to minimise the effect, clear cut area should be smaller.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	

S4	管理計画p282「ランドスケープ管理の概念」での管理について言及した。厳正保全地域に隣接する施業予定地では、緩衝帯を設ける等施業指針に従い施業を行う。図面とリストを準備している。 Land scape level management is mentioned in the management plan p282 'Landscape management'. Operations are conducted in accordance with the operational policy, e.g. buffer zone should be set in operational area adjacent to strictly-protected area. There is maps and lists.	✓
----	---	---

10.3.3	Management makes provision for the use of a variety of tree species and provenances or other plants.	
	多様な樹種、起源、その他の植物の利用の機会が提供されている。	
MA	地域で求められる樹種として、カラマツ、ヒノキ、アカマツ、シラベ、スギなどが植林されている。また将来の有用材となる広葉樹も一部植林されている。 Karamatsu, Hinoki, Akamatsu, Shirabe and Sugi are planted as required species by local people. Some broadleaf trees which will be useful in the future are also planted.	✓
S1	-	
S2	-	
S3	-	
S4	第2次県有林管理計画の中で、山梨県の落葉広葉樹における生息適地がまとめられた。また樹種別苗木所有量がまとめられ、今後5年間の新植量が示された。広葉樹の植栽量が大幅に増えている。 They compiled suitable habitats for the species of deciduous broadleaf trees seen in the prefecture in the second prefectural forest operational plan. The plan also shows the amount of seedlings they own for each tree species and expected amounts of seedlings to be planted over the next 5 years. The number of broadleaf trees they plant is increasing dramatically.	✓

10.3.4	Management makes provision for age and structural diversity of plantation in the landscape.	
	景観レベルでの植林地の林齢および構造の多様性が形成されている。	
MA	管理計画p43「多様な生態系の保全」にランドスケープレベルでの管理について言及した。厳正保全地域に隣接する施業予定地では、緩衝帯を設ける等施業指針に従い施業を行う。図面とリストを準備している。 Land scape level management is mentioned in the management plan p43 'Conservation of diverse ecosystems'. Operations are conducted in accordance with the operational policy, e.g. buffer zone should be set in operational area adjacent to strictly-protected area. There is maps and lists.	✓
S1	-	
S2	-	
S3	-	
S4	管理計画p282「ランドスケープ管理の概念」での管理について言及している。厳正保全地域に隣接する施業予定地では、緩衝帯を設ける等施業指針に従い施業を行う。 Land scape level management is mentioned in the management plan p282 'Landscape management'. Operations are conducted in accordance with the operational policy, e.g. buffer zone should be set in operational area adjacent to strictly-protected area.	✓

10.4	The selection of species for planting shall be based on their overall suitability for the site and their appropriateness to the management objectives. In order to enhance the conservation of biological diversity, native species are preferred over exotic species in the establishment of plantations and the restoration of degraded ecosystems. Exotic species, which shall be used only when their performance is greater than that of native species, shall be carefully monitored to detect unusual mortality, disease, or insect outbreaks and adverse ecological impacts.	3
	植林のための樹種の選択は、その場所への総合的な適合性及び管理目的に合致しているかの判断に基づいて行わなければならない。生物の多様性をより保全していくためには、植林及び劣化した生態系の復元においては、外来種よりも在来種の方が好ましい。外来種は、在来種の果たす役割を上回るときに限り導入するものとし、導入した場合は、通常ではまれである大量枯損、病虫害の発生及び生態系への悪影響の発生について注意深くモニタリングしなければならない。	

10.4.1	There is a clear justification for the choice of species and genotypes chosen for the plantation, which takes into account the objectives of the plantation, and the climate, geology and soils at the planting sites.	
	植林の目的、植林地の気候、地質、土壌などを考慮した、植林のための樹種や遺伝子型の選択の明らかな理由がある。	
MA	土地、気候条件にあった樹種が植林されている。 Species which are suitable for the land and the climate is planted.	✓
S1	-	
S2	-	
S3	-	
S4	同上 Same as above.	✓

10.4.2	Where an exotic species has been selected this choice must be explicitly justified. The best alternative native species must have been identified, and reasons be given for its rejection.	
--------	---	--

		外来種が選ばれる場合、その選択には明快な理由が必要である。その代わりになりうる最適な在来種を特定し、その種が却下される理由を挙げなければならない。	
	MA	外来種の植林はない。 No use of exotic tree species.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.4.3		Before any exotic species is planted an assessment must have been carried out as to the risk that it will become invasive in the surrounding area. Invasive exotics are not planted.	
		いかなる外来種が植林される前にも、その種が周辺地域へ侵略する危険性を評価しなければならない。侵略的な外来種は植林されていない。	
	MA	同上。 Same as above.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.5		A proportion of the overall forest management area, appropriate to the scale of the plantation and to be determined in regional standards, shall be managed so as to restore the site to a natural forest cover.	4.5
		森林管理区域全体のバランスは、植林の規模に対して適切であるとともに地域の基準により決められるが、その区域が自然状態での森林被覆へと復元されるように管理されなければならない。	

10.5.1		Consistent with Criterion 6.2b, at least 10% of the area of the plantation must be managed to enhance its natural characteristics and with biodiversity as a major objective.	
		規準6.2bのとおり、植林地の少なくとも10%以上は、その自然の特徴を促進するよう管理され、生物多様性を主な目的にしなくてはならない。	
	MA	10%以上が確保されている。6.2b参照。 More than 10% is secured. See 6.2b.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.5.2		Consistent with Criterion 6.2b, at least 5% of the area of the plantation must be managed to restore the area ultimately to a natural forest cover.	
		規準6.2bのとおり、植林地の少なくとも5%以上は、究極的に自然林の林相に回復するよう管理されなくてはならない。	
	MA	5%以上が確保されている。6.2b参照。 More than 5% is secured. See 6.2b.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.6		Measures shall be taken to maintain or improve soil structure, fertility, and biological activity. The techniques and rate of harvesting, road and trail construction and maintenance, and the choice of species shall not result in long term soil degradation or adverse impacts on water quality, quantity or substantial deviation from stream course drainage patterns.	4
		土壌状態、土壌産出力そして生物学的活動を維持あるいは高めるための手段が講じられなければならない。伐採の技術やその割合、林道の建設と維持管理、そして樹種の選択により、長期的な土壌の劣化、水・水量への悪影響あるいは流路の大幅な逸脱がもたらされてはならない。	

10.6.1		Means to protect soils are explicitly detailed in management plans or supporting documents	
		土壌の保全方法が管理計画または関連書類において明確に詳述されている。	
	MA	仕様書で求めている。 現地でも問題は見られなかった。 Required in specifications. There was no problem on site.	✓
	S1	-	
	S2	-	

	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.6.2		Plans and procedures for reforestation after harvesting are designed to minimise exposure of bare soil, and to ensure that trees are re-established as rapidly as possible.	
		収穫後の森林更新の計画と手順は、裸出土壌を最小限に抑え、樹木が可能な限り早く再生するようにしなくてはならない。	
	MA	収穫後は速やかに植林を行っている。 Regeneration is conducted promptly after harvesting.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.6.3		There is no evidence of site degradation in the field.	
		現地において土地が劣化している証拠はない。	
	MA	ない。 None	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.7		Measures shall be taken to prevent and minimise outbreaks of pests, diseases, fire and invasive plant introductions. Integrated pest management shall form an essential part of the management plan, with primary reliance on prevention and biological control methods rather than chemical pesticides and fertilisers. Plantation management should make every effort to move away from chemical pesticides and fertilisers, including their use in nurseries. The use of chemicals is also covered in Criteria 6.6 and 6.7.	4
		病虫害の発生、火災、あるいは植物の移入を防ぐための手段が講じられなければならない。統合的な病中害管理が管理計画の基礎部分を形作るものであるが、化学的薬物や化学肥料の使用よりも、まずは予防を行い生物的防除手段を用いなければならない。苗畑も含め、植林管理では、科学的薬物や化学肥料の使用を極力避けなければならない。化学物質の使用については、規準6.6と6.7でも触れられている。	
10.7.1		There is a documented integrated pest management strategy. (see 6.6a, b and c for further norms related to chemical use)	
		統合害虫管理戦略の文書がある。（さらなる化学薬品使用に関する規準について6.6 a, b, cを参照）	
	MA	「県有林施業における農薬使用要領」を定めている。6.6参照。 'Procedure on use of agricultural chemicals in the prefectural forest' is made. See 6.6.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.7.2		The need for fire management and control has been evaluated and is documented (see 7.1f).	
		火災管理と消火の必要性は適切に評価され文書化される（7.1 f 参照）。	
	MA	山梨県地域防災計画で森林火災の予防計画を立てている。7.1f参照。 Forest fire prevention plan is made in the Yamanashi prefecture's regional disaster prevention plan. See 7.1f.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.7.3		Measures are taken to control or eradicate exotic invasive plants.	
		外来の侵略的な植物を管理し根絶するための方法が取られている。	
	MA	林道法面に外来牧草が必要最低限使用されており、使用後のモニタリングを行っている。6.9参照。 Exotic grass is used on forest road slopes at minimum level, and monitored after used. See 6.9.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	

	S4	同上 Same as above.	✓
--	----	----------------------	---

10.7.4		There is a strategy to minimise use of chemical pesticides and fertilisers in plantations and nurseries.	
		植林地および苗畑において化学殺虫剤および化学肥料の使用を最小限にする戦略がある。	
	MA	肥料は使用していない。 Fertiliser is not used.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.8		Appropriate to the scale and diversity of the operation, monitoring of plantations shall include regular assessment of potential on-site and off-site ecological and social impacts, (e.g. natural regeneration, effects on water resources and soil fertility, and impacts on local welfare and social well-being), in addition to those elements addressed in principles 8, 6 and 4. No species should be planted on a large scale until local trials and/or experience have shown that they are ecologically well-adapted to the site, are not invasive, and do not have significant negative ecological impacts on other ecosystems. Special attention will be paid to social issues of land acquisition for plantations, especially the protection of local rights of ownership, use or access.	4
		施業の規模と多様性により、植林についてのモニタリングには、規準8.6と4で扱われている内容に加え、現場内外における潜在的な生態学的社会的影響（例えば、天然更新、水資源と土壌生産力への影響、地域生活と社会福祉への影響など）についての定期的な評価が含まれなければならない。どのような樹種であっても、その樹種が、その地域に生態学的に適合し、ほかを侵略するものでなく、他の生態系に深刻な悪影響を及ぼさないものであるという、地域的試験や実勢が示されない限り、大規模な植林を行ってはならない。植林のための土地取引に関する社会的問題、特に土地の所有、利用、アクセスに関する地域住民の権利の保護については、特別の注意を払わなければならない。	

10.8.1		There is no large scale planting of species that have not been shown to be appropriate to the site on the basis of local trials or experience.	
		地元の試みや経験から、その場所にふさわしくない樹種の大規模な植林は行われていない。	
	MA	行われていない。 Not conducted	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.8.2		Plantations are not established on sites of important or sensitive ecosystems; areas of high or unique biological diversity; planned conservation or protection areas or where there are possible adverse effects on an important water catchment area.	
		重要または繊細な生態系を有する地区、生物多様性が高いまたは特殊である地区、保全または保護地区、重要な集水域に悪影響を及ぼす地区で植林は行わない。	
	MA	重要な地域は保護されている。 Important area is protected.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

10.8.3		All new plantations or new plantings greater than 5 000 ha are subject to a formal environmental and social impact assessment. (See Criterion 4.4 for related norms)	
		5,000ha以上の全ての新しい植林や植え付けは、正式な環境的社会的影響評価の対象になっている。（関連規準について規準4.4参照）	
	MA	5,000ha以上の新規の植林は行わない。 No new plantation over 5,000ha is conducted.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	

	S4	同上 Same as above.	✓
--	----	----------------------	---

10.9		Plantations established in areas converted from natural forests after November 1994 normally shall not qualify for certification. Certification may be allowed in circumstances where sufficient evidence is submitted to the certification body that the manager/owner is not responsible directly or indirectly for such conversion.	4
		1994年11月以降に自然林から転換された植林は、通常、認証の対象とはならない。植林への転換に関し、森林の管理者／所有者に直接あるいは間接的責任が無いという十分な証拠が認証機関に提出される場合は、認証の対象となることがある。	
10.9.1		The plantation is not established on land converted from natural forest after November 1st 1994 (but see 6.10 and 10.9), unless there is clear evidence that the current owner(s) and manager(s) were not directly or indirectly responsible for the conversion.	
		1994年11月1日以降、自然林地から転換された土地における植林は行っていないこと（但し、6.10と10.9参照）。但し、現在の所有者や管理者が直接的・間接的にもその転換に責任がないという明確な証拠がある場合はこの限りではない。	
	MA	行っていない。 Not conducted.	✓
	S1	-	
	S2	-	
	S3	-	
	S4	同上 Same as above.	✓

付属文書2 利害関係者への聞き取りの結果

氏名	組織	連絡方法	連絡日時	第1回年次監査	第2回年次監査	第3回年次監査	第4回年次監査
天野 立実	大月市森林組合	手紙	2007年9月21日				
有泉 義雄	山梨県恩賜林保護組合連合会	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
飯島 一省	飯島製材所	手紙	2007年9月21日	2008/8/8 (飯島省二)	2009/8/4 (飯島省二)	2010/8/4 (飯島省二)	2011/9/20
今福 正胤	有限会社今福林業	手紙	2007年9月21日				
植松 光正	山梨県森林インストラクター会	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4 (金子景一)	2011/9/20
小沢 茂	北杜市須玉町増富財産区	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4		
小俣 滋	大月市役所産業観光課	手紙	2007年9月21日				
小俣 洋	財団法人山梨県林業公社	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8 (望月 隆)	2009/8/4 (望月 隆)	2010/8/4 (望月 隆)	2011/9/20
加藤 志穂子	環境省自然環境局富士五湖自然保護官事務所	手紙	2007年9月21日				
加藤 正蔵	山梨県緑化推進機構	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4		
川上 寛	山梨県木材協同組合連合会	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日				
川端 道雄	富士河口湖町公認ネイチャーガイド協議会	手紙	2007年9月21日				
木村 靖郎	山梨県森林組合連合会	手紙	2007年9月21日				
久根口 潔	大月地区恩賜県有財産保護団体連合会	手紙	2007年9月21日				
輿水 英文	有限会社輿水造林	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
ご担当者	環境省自然環境局生物多様性センター	手紙	2007年9月21日				
小林 東	株式会社小林林業土木	手紙	2007年9月21日				
小林 忠次	有限会社小林製材所	手紙	2007年9月21日				
佐藤 繁則	峡東森林組合	手紙	2007年9月21日				
篠原 滋美	河口湖フィールドセンター	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
清水 博	上野原市経済課	手紙	2007年9月21日				
杉本 貴美雄	都留市役所産業観光課	手紙	2007年9月21日				
杉山 弘樹	湯澤工業株式会社	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
寺沢 恵治	社団法人治山林道協会	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
中嶋 克司	西小尾林業企業組合	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
中原 功	甲斐東部材製材協同組合	手紙	2007年9月21日				
中村 司	山梨県自然保護教育振興会	手紙	2007年9月21日				
平野 達也	ホールアース自然学校	手紙	2007年9月21日				
深沢 倭	株式会社フカサワ	手紙	2007年9月21日				
藤原 忠直	みずがき山自然公園	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
藤原 政輝	有限会社藤原林業	手紙	2007年9月21日				
藤原 祐示	山梨市役所農林課(牧丘庁舎)	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
古屋 茂富	北奥仙丈外二恩賜県有財産保護組合	手紙	2007年9月21日				
堀内 達也	西桂町企業振興課	手紙	2007年9月21日	2008/8/8 (佐藤誠一)	2009/8/4 (佐藤誠一)	2009/8/4 (重森正)	2011/9/20

牧村 隆幸	財団法人山梨県森林土木コンサルタント	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
三浦 勝一	鳴沢・富士河口湖恩賜県有財産保護組合	手紙	2007年9月21日				
三浦 信久	富士河口湖町農林課	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
水越 彦蔵	南都留森林組合	手紙	2007年9月21日				
三井 正彦	山梨県森林整備生産事業協同組合	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4		
宮崎 淳	緑資源機構 甲府水源林整備事務所	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日				
望月 忠重	有限会社望月造林	手紙	2007年9月21日				
望月 肇	望月林業有限会社	手紙	2007年9月21日				
許山 敏	山梨県森林組合連合会	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日				
矢川 満	南部町森林組合	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
山崎 茂	山中湖村産業振興課	手紙	2007年9月21日				
山瀬 俊彦	社団法人治山林道協会	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日				
山田 元次	富士吉田市農林課	手紙	2007年9月21日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
山本 俊郎	山梨県山林種苗緑化木協同組合	手紙、公聴会	2007年9月21日、10月22日	2008/8/8	2009/8/4	2010/8/4	2011/9/20
渡辺 一博	鳴沢村振興課	手紙	2007年9月21日				
渡辺 克志	富士吉田市外2村恩賜県有財産保護組合	手紙	2007年9月21日				
渡辺 美男	富士北麓森林組合	手紙	2007年9月21日				

付属文書3 樹種のリスト

樹種名

学名

針葉樹

カラマツ

Larix kaempferi

ヒノキ

Chamaecyparis obtusa

アカマツ

Pinus densiflora

シラベ

Abies veitchii

スギ

Cryptomeria japonica

モミ

Abies firma

ウラジロモミ

Abies homolepis

イチョウ

Ginkgo biloba

オオシラビソ

Abies mariesii

ツガ

Tsuga sieboldii

コメツガ

Tsuga diversifolia

ハリモミ

Picea polita

広葉樹

ケヤキ

Zelkova serrata

キリ

Paulownia tomentosa

ヤマザクラ

Prunus jamasakura

クリ

Castanea crenata

クヌギ

Quercus acutissima

コナラ

Quercus serrata

ミズナラ

Quercus mongolica

シラカシ

Quercus myrsinaefolia

ブナ

Fagus crenata

付属文書4 ワシントン条約付属書記載樹種リスト

該当樹種なし

付属文書5 ウッドマークにより保管される追加情報

認証登録証のコピー及び関連日程

機密商用情報

利害関係者のリスト及びウッドマークに寄せられた意見

森林資源を示した地図

管理計画のコピー